



滋賀県立大学 平成29 (2017) 年度

講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/) で、ご確認ください。

1110121 英文   1110122 英文   1110132 英子   1110132 TAN   1110132 TAN   1110132 TAN   1110132 TAN   1110132	1 3 5 7 9 11 31 5 17 19 21 32 5 27 29 31 33 5 37 39 41 43 5 45 7 55 5 6 16 35 5 7 7 7 8 18 8 8 7 9 9 10 10 3 10 5 10 7 10 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11
1400530 教育心理学 黒田 - 具田美 - 削期 1400540 教育制度論 藤村 - 祐子 - 前期集中 1400550 教育方法の理論と技術/ 木村 - 裕 前期	125 127 129 131

1401050 社会学概論 武田 俊輔 前期		151
1401100 社会心理学(人間関係)後藤 崇志後期		153
1/01110 社会特种医学 久保田 表老 前期售由		155
1401120 社会調査実習(地域文化、人間関係) 武田 俊輔 通年		157
1401110 社会相下区子 人际田 家写 前期采下 1401120 社会調査実習(地域文化、人間関係) 武田 俊輔 通年 1401125 地域社会調査実習 武田 俊輔 通年 1401130 社会調査方法論 大野 光明 後期		159
1401130 社会調査方法論 大野 光明 後期		161
1401140 社会調査論 中井 治郎 前期		163
1401130 社会調査方法論 大野 光明 後期 1401140 社会調査論 中井 治郎 前期 1401180 社会変動論 丸山 真央 後期 1401190 社会問題の社会学 中村 好孝 前期 1401340 生涯学習論 原 未来 前期 1401380 消費生活論 小牧 美江 後期 1401520 心理・発達・行動学実験演習 細馬 宏通 通年 1401540 心理学基礎 後藤 崇志 前期 1401560 生活経営論 山田 歩 後期 1401570 生活指導論/原 未来 後期 1401575 生活と教育 原 未来 後期 1401790 組織とネットワークの社会学 岩館 豊 前期集中		165
1401190 社会問題の社会学 中村 好孝 前期		167
1401340 生涯学習論 原 未来 前期		169
1401380 消費生活論 小牧 美江 後期		171
1401520 心理・発達・行動学実験演習 細馬 宏通 通年		173
1401540 心理学基礎 後藤 崇志 前期		175
1401560 生活経営論 山田 歩 後期		177
1401570 生活指導論/原 未来 後期		179
1401575 生活と教育 原 未来 後期		181
1401720 政治経済学 梅澤 直樹 後期		183
1401790 組織とネットワークの社会学 岩舘 豊 前期集中 1401820 卒業研究・論文(人間関係) 学科教員 通年研究		185
1401820 卒業研究・論文(人間関係) 学科教員 通年研究		187
1402240 哲学概論 A 鞍田 崇 前期集中		189
1402250 哲学概論 B 鈴木 真 前期集中		191
1402240 哲学概論 A 鞍田 崇 前期集中 1402250 哲学概論 B 鈴木 真 前期集中 1402280 天然物化学基礎 遠藤 弘史 前期		193
1402360 統計字基礎 細馬 宏通 前期		195
1402400 日本社会論 武田 俊輔 後期 1402460 人間関係論演習 学科教員 通年		197
1402460 人間関係論演習 学科教員 通年		199
1402470 人間関係論演習 字科教員 通年		201
1402481 人間関係論基礎演習 学科教員 後期		203
1402500 人間形成論/木村 裕 前期		205
1402500 人間形成論 A 木村 裕 前期 1402501 人間形成論 A 木村 裕 前期 1402530 人間行動論 細馬 宏通 後期 1402540 人間文化論 A 細馬 宏通 前期	• • •	207
1402530 人間行動論 細馬 宏通 後期 1402540 人間文化論 A 細馬 宏通 前期	• • •	209
1402540 人間文化論 A 細馬 宏連 前期	• • •	211
1402550 人間文化論B 正森 秀天 後期	• • •	213
1402560 人間文化論 C 宮本 雅子 後期 1402610 発達心理学 上野 有理 前期	• • •	215
1402610 発達心理学 上野 有理 前期		217
1402620 発達心理学 水野 友有 後期		219
1402690 比較認知発達論 上野 有理 後期		221
1402620 発達心理学 水野 友有 後期 1402690 比較認知発達論 上野 有理 後期 1402950 文化社会学 武田 俊輔 前期 1403000 マーケティング論 山田 歩 後期	• • •	223
1403000 マーケティング論 山田 歩 後期	• • •	225
1403100 量的データ解析論 丸山 真央 前期	• • •	227
1403110 量的データ解析論 岡本 裕介 後期集中	• • •	229
1403190 臨床心理学 松嶋 秀明 後期	• • •	231
1600251 教育課程論 木村 裕 後期	• • •	233
1600390 道徳教育論 福井 雅英 前期	• • •	235

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	渡	寛法
ナンバリング番号	101ENG10									

本授業では、	TOEICの問題を教	材に、英語能力、	とくにリスニング	*能力の向上を目排	旨します。聴く	く力を伸ばすためには	は、まず自分自身で	で発音できるこ
とが重要です	「。そこで授業では	は、リスニング問	題を解くだけでなり	く、音読やシャド	ーイングなど	英語を声に出して練	習し、ペアやグル	ープワークを
通して英語に	ニ慣れる活動も行い	1ます。TOEICでの	Dスコアアップには	:、英語の知識だり	ナでなく、120	分に耐える集中力や	、英語を聞いて即	座に反応する
瞬発力も求め	)られます。本授賞	≹ではこうした実	践力を伸ばすことも	も念頭において、	リスニング能	力向上に向けたトレ	ーニングを行いま	す。

# 到達目標

- (1)TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し(30%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

# 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FSTRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ(スマートフォンでも計測機能があればOK)を持ってきてください。

	参考書						
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN			
1							
2							
3							

# 前提学力等

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110121	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	渡	寛法
ナンバリング番号	101ENG10	1					·			

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。
		担当者から一言

英語学習の基本は音読です。まずはTOEICレベルの英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう!

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	渡	寬法
ナンバリング番号	101ENG10									

本授業では、	TOEICの問題	題を教材に、	英語能力、	とくにリスニン	ソグ能力の向.	上を目指します。	。聴く力を伸は	ばすためには、	まず自分自身	アで発音できるこ
とが重要です	「。そこで授	発業では、リス	スニング問題	夏を解くだけで	なく、音読や	シャドーインク	ブなど英語を声	に出して練習	し、ペアやグ	ループワークを
通して英語に	[慣れる活動	も行います。	TOEICでの	スコアアップレ	こは、英語の名	印識だけでなく、	、120分に耐え	る集中力や、	英語を聞いて	即座に反応する
瞬発力も求め	られます。	本授業ではる	こうした実践	む力を伸ばすこ	とも念頭にお	いて、リスニン	/グ能力向上に	向けたトレー	ニングを行い	ます。

# 到達目標

- (1)TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し(30%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

# 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	FSTRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1							
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110122	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	渡   寛法	寛法
ナンバリング番号	101ENG10	2					·			

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期の振り返り、後期の目標確認。
第2回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 15	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 16	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 17	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 18	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 19	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 20	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 21	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 22	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 23	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 24	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。
		担当者から一言

音読のスラスラ度をさらに磨いていきましょう!

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)						
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	香山	山 恵美	
ナンバリング番号	101ENG10	1									
	拉米和西										

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上	と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指	します。コミュニケーションはさまざまなトピッ
クについてペア、またはグループで会話をし、自	分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をす	する練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練
習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピー	ドを向上させます。また、スキミングやスキャンコ	ニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ
練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習な	どを行います。	

# 到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。 TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		
200/ 控光中之0日	712607.	•

- 30% 30% 40%
- 授業内での取り組み 授業内の課題 到達度確認テスト (2回)

# 授業外学習

	教科書											
No	書籍名	書籍名										
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220								
2												
3												

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110131	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	香山	恵美
ナンバリング番号	101ENG10	1								

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	コミュニケーションスキルテスト	コミュニケーションスキルテストを行う
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
		担当者から一言

講義名	英語 B (活性化コース) (人文 )								
講義コード	1110132	単位数	1 開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	香山 恵美 	
ナンバリング番号	101ENG10	2							
					授業概	要			
本授業では、英語 クについてペア、 習問題でテストの 練習や、動画や音	本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。								
					到達目				
日常生活 、社会の  TOEICの問題を解ぐ 	日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。 TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。								
成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題									

30%	授業内での取り組み	
JU /0		

上記以外

授業内での取り組み 授業内の課題 到達度確認テスト(2回) 30% 40%

書籍名

# 授業外学習

教科書

出版社

ISBN/ISSN

著者名

110		700	ш/ж іт	TODITY TOOIT
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				
		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

# 前提学力等

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110132	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	香山	恵美
ナンバリング番号	101ENG10	2								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	授業の進め方説明
第2回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	コミュニケーションスキルテスト	コミュニケーションスキルテストを行う
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
		担当者から一言

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110141	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	101ENG10	)1								

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。 英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事 となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。 授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

# 到達目標

- (1)語彙力の向上 (2)リスニング力の向上 (3)読解力の向上 (4)英語での思考力の向上 (5)英語での発信力の向上

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	50	<ul><li>(1)語彙力10%</li><li>(2)リスニング力10%</li><li>(3)読解力10%</li></ul>							
レポート課題									
上記以外	50	(1)語彙力10% (2)リスニング力10% (3)読解力10%							

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2
2				
3				

# 必ず購入のこと。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修 は認めない。

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)			
講義コード	1110141	単位数	思帆					
ナンバリング番号	101ENG10	1						

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	TOEIC Part1の集中トレーニング	Unit1~7のPart1を演習
第2回	Unit1	Part2, 3, 6を演習
第3回	Unit1	Part4, 5, 7を演習
第4回	Unit2	Part2, 3, 6を演習
第5回	Unit2	Part4, 5, 7を演習
第6回	Unit3	Part2, 3, 6を演習
第7回	Unit3	Part4, 5, 7を演習
第8回	Unit4	Part2, 3, 6を演習
第9回	Unit4	Part4, 5, 7を演習
第10回	Unit5	Part2, 3, 6を演習
第11回	Unit5	Part4, 5, 7を演習
第12回	Unit6	Part2, 3, 6を演習
第13回	Unit6	Part4, 5, 7を演習
第14回	Unit7	Part2, 3, 6を演習
第15回	Unit7	Part4, 5, 7を演習
		担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	101ENG10	)2								

TOEIC形式の教科書を使い、英語を英語のまま理解し、そしてアウトプットできるように、演習形式で特訓します。 英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事 となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。 授業の初めに復習テスト(筆記式)と授業の最後に課題の提出が毎回あります。

# 到達目標

- (1)語彙力の向上 (2)リスニング力の向上 (3)読解力の向上 (4)英語での思考力の向上 (5)英語での発信力の向上

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	50	<ul><li>(1)語彙力10%</li><li>(2)リスニング力10%</li><li>(3)読解力10%</li></ul>							
レポート課題									
上記以外	50	(1)語彙力10% (2)リスニング力10% (3)読解力10%							

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

#### 授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
	FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC TEST Revised Edition	妻鳥千鶴子、田平真澄	センゲージラーニング	978-4-86312-293-2							
2											
3											

# 必ず購入のこと。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

## 前提学力等

2回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず1回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修 は認めない。

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110142	単位数	1	開講期	後期	授業種別	担当教員	佐久間 思帆 		
ナンバリング番号	101ENG10	2								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	TOEIC Part1の集中トレーニング	Unit8~12のPart1を演習
第2回	Unit8	Part2, 3, 6を演習
第3回	Unit8	Part4, 5, 7を演習
第4回	Unit9	Part2, 3, 6を演習
第5回	Unit9	Part4, 5, 7を演習
第6回	Unit10	Part2, 3, 6を演習
第7回	Unit10	Part4, 5, 7を演習
第8回	Unit11	Part2, 3, 6を演習
第9回	Unit11	Part4, 5, 7を演習
第10回	Unit12	Part2, 3, 6を演習
第11回	Unit12	Part4, 5, 7を演習
第12回	実践演習	Pre-testのListeningセッション
第13回	実践演習	Post-testのReadingセッション
第14回	実践演習	Post-testのListeningセッション
第15回	実践演習	Post-testのReadingセッション
		担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)			担当教員	西澤	
講義コード	1110151	110151   単位数   1   開講期   前期   授業種別   演習								裕一
ナンバリング番号	101ENG10	)1								

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

# 到達目標

- 1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
  2.映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
  3.映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
  4.映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
  5.映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度(授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。 遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。 予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133							
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584							
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身 !	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736							

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等
-------

特になし

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110151	1110151 単位数 1 開講期 前期 授業種別 演習								裕一
ナンバリング番号	101ENG10	1								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
		担当者から一言

<sup>12</sup>月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					40
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	101ENG10	2								

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。 語彙の確認、映画によるリスニングの演習、内容を理解した英文を使った発信力の演習、さらに投げ込み教材を使用した読解の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

# 到達目標

- 1.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力を身につけること。
  2.映画を利用してTOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。
  3.映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
  4.映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
  5.映画の表現に親しむことで各学生が英語による自己表現力を高めること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	40%	リスニングに関するレポート課題20% 語彙に関する小テスト20%
上記以外	10%	授業に参加する積極的な態度(授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど)

半期で4回以上の欠席は評価をしません。 遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。 予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	97848600133
2	キクタンTOEIC TEST SCORE 500	一杉武史	アルク	9784757428584
3	こまったカタカナ英語 つうじる英語に大変身 !	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

前	提学	<u>5</u> カ	等
. נים	ᄯᄀ	_/J	ਚ

特になし

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110152	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	101ENG10	2								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方の説明と映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第3回	Roman Holiday (3)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第4回	Roman Holiday (4)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第5回	Roman Holiday (5)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第6回	Roman Holiday (6)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第7回	Roman Holiday (7)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第8回	Roman Holiday (8)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第9回	Roman Holiday (9)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第10回	Roman Holiday (10)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第11回	Roman Holiday (11)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第12回	Roman Holiday (12)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第13回	Roman Holiday (13)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第14回	Roman Holiday (14)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第15回	Roman Holiday (15)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第16回	Roman Holiday (16)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第17回	Roman Holiday (17)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第18回	Roman Holiday (18)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第19回	Roman Holiday (19)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第20回	Roman Holiday (20)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
第21回	Roman Holiday (21)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第22回	Roman Holiday (22)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第23回	Roman Holiday (23)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第24回	Roman Holiday (24)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第25回	Roman Holiday (25)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第26回	Roman Holiday (26)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第27回	Roman Holiday (27)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第28回	Roman Holiday (28)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第29回	Roman Holiday (29)	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習
第30回	Roman Holiday (30)/まとめ	語彙の確認と映画を利用したリスニング演習 
		担当者から一言

<sup>12</sup>月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。とにかく授業中に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてください。

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	関	初海
ナンバリング番号	101ENG10	1								

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

# 到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける (2) リスニング能力の向上 (3) リーディング能力の向上 (4) ライティング能力の向上 (5) スピーキング能力の向上 (6) TOEICスコアをアップさせる

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	60	到達目標(1),(3),(4)について定期試験で評価する。								
レポート課題	0									
上記以外	40	到達目標(2),(6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価(10%)								

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418					
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 前提学力等

講義名	英語 A	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110161	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	関	初海
ナンバリング番号	101ENG10	1								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1 教育とジェンダー
第2回	Unit 1(2)	Unit 1 教育とジェンダー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第3回	Unit 2(1)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第4回	Unit 2(2)	Unit 2 地球温暖化 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 飲料水の確保 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 貧困と飢餓 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第8回	到達確認テスト とフィードバッ ク Unit 4(2)	到達確認テスト 実施と解説 Unit 4 貧困と飢餓
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 病との闘い (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第11回	Unit 6(1)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第12回	Unit 6(2)	Unit 6 テロリズム (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第13回	Unit 7(1)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第14回	Unit 7(2)	Unit 7 日本人強制収容所 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)
第15回	到達確認テスト とフィードバック	到達確認テスト 実施と解説 前期の総復習
		担当者から一言

講義コード     1110162     単位数     1     開講期     後期     授業種別     演習       ナンバリング番号     101ENG102	講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
ナンバリング番号 101ENG102	講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	関	初海
	ナンバリング番号	101ENG10	)2								

この授業では、国際紛争、国際協力、戦争、平和といったトピックを扱い、グローバル社会に生きる大学生に必要な社会問題に関する基礎知識を英語で学びます。そして、学んだ知識を英語で発信できるようにします。さらに、TOEIC受験を視野に入れ、プリント教材を用いて、TOEICの問題形式に慣れてもらい、スコアアップを目指します。

# 到達目標

- (1) 英語の語彙力を身につける (2) リスニング能力の向上 (3) リーディング能力の向上 (4) ライティング能力の向上 (5) スピーキング能力の向上 (6) TOEICスコアをアップさせる

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1),(3),(4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	40	到達目標(2),(6)について2回の到達確認テストで評価(30%) 到達目標(5)について、授業内でのブレゼンテーションで評価(10%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	Global Issues Towards Peace	Keiso Tatsukawa他	南雲堂	9784523177418					
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 前提学力等

講義名	英語 B	(活性化:	コース	)(人文	)					
講義コード	1110162	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	関	初海
ナンバリング番号	101ENG10	2								

	授業計画							
回数	タイトル	概要						
第1回 ————————————————————————————————————	Unit 8(1)	Unit 8 核兵器 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第2回	Unit 8(2)	Unit 8 核兵器 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第3回	Unit 9(1)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第4回	Unit 9(2)	Unit 9 カンボジア大量虐殺 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第5回	Unit 10(1)	Unit 10 地雷撤去 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第6回	Unit 10(2)	Unit 10 地雷撤去 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第7回	Unit 11(1)	Unit 11 難民 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第8回	到達確認テスト とフィードバッ ク Unit 11(2)	到達確認テスト 実施と解説 Unit 11 難民						
第9回	Unit 12(1)	Unit 12 ネルソン・マンデラ (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第10回	Unit 12(2)	Unit 12 ネルソン・マンデラ (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第11回	Unit 13(1)	Unit 13 アウン・サン・スー・チー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第12回	Unit 13(2)	Unit 13 アウン・サン・スー・チー (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第13回	Unit 14(1)	Unit 14 国際赤十字の活動 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第14回	Unit 14(2)	Unit 14 国際赤十字の活動 (DVD視聴と内容理解、リーディング、ライティング、スピーキング、TOEIC演習)						
第15回	到達確認テスト とフィードバッ ク	到達確認テスト 実施と解説 後期の総復習						
		担当者から一言						

講義名	英語 A	(応用コー	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	101ENG10	3							

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test									
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).									

#### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

## 前提学力等

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110331	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	101ENG10	3							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule and assignments. Useful English - question patterns for understanding. 1 page essay structure.
第2回	People Talk	Present simple tense and 'Wh' questions for introductions and small talk.
第3回	Describing Places and Objects/Expressive Speech.	There is/There are/Prepositions of place. Encoding and reproducing expressive speech qualities (Rhythm, Intonation, Stress, Gesture).
第4回	Habits and Routines	Adverbs of frequency, talking about time. Describing a typical day.
第5回	Actions I	Using the present progressive tense to describe current/ongoing actions and future plans.
第6回	Actions II	Mixing the past simple and past progressive forms. What is Mr. Bean doing? exercise.
第7回	Acting Expressively: Radio Play	Students will read, practice and perform a short detective mystery script focusing on expression and good pronunciation.
第8回	Buying and Selling	Shopping role-plays and common phrases. Review the usage of 'much/many, some/any'. Asking questions about products and services.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Where am I?	Giving and asking for directions. Place and business vocabulary.
第11回	Travel and Vacations	Making comparisons between places, people and objects. Talking about travel and ideal destinations.
第12回	Picture Stories	Using past forms and time-order signals to make a narrative about the past. Talking about childhood and school days.
第13回	Modal Mastery	Using modal verbs in different contexts to express permission, obligation, advice and possibilities.
第14回	Food Culture/Speaking Tests	Restaurant English role-plays. Describing food and expressing preferences. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.
第15回	Leisure and Entertainment/Speaking Tests	Expressing likes/dislikes with reasons. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 B	(応用コー	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	101ENG10	4							

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test								
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).								

#### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110332	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	101ENG10	4							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/Future Forms	Explanation of schedule and assignments. Using the 'will' future form. 10 years from now exercise.
第2回	How do 1?	Use of verb-ing after prepositions to describe how something happens. Giving instruction advice, making suggestions.
第3回	Interested or Interesting?	Using adjective forms to express feeling or describe object qualities. Talking about University studies. Adverbs of manner.
第4回	Simple Conditionals	Using the first conditional to ask and answer questions about realistic or probable outcomes.
第5回	Comedy Sketch I	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
第6回	Facts, Figures and Money	Describing trends and patterns in data. How to say long numbers. Talking about prices an personal budgets.
第7回	Comedy Sketch II	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.
68回	To-infinitive and beyond!	Review of the flexible to-infinitive form to express purpose, feelings, wishes and opinions. Combinations with relative clauses.
69回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
10回	Expressing Opinions	Review and practice of common phrases used to express nuanced opinions (strong, neutral tentative). Discussions of Japanese advertising.
第11回	Careers and Personal Development	Usage of will and 'be going' forms to express plans and predictions about the future. Discussion of career plans.
第12回	If I were you	Use of second conditionals to talk about unrealistic or unlikely future situations. The 'If you' game.
第13回	Tourist Troubles	Role playing tourist complaints in different service situations (Hotel, restaurants, repair shop). Review and practice key phrases.
·····································	Socialising/Comedy Sketch Test	Informal vs. formal introductions. Making extended small talk. Useful phrases for socialising. Some students perform comedy sketch test.
第15回	The English Games	Students compete in a round of different language games that test grammar/vocabulary skills. Some students perform comedy sketch test.

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Armando Duarte
ナンバリング番号	101ENG10	3							

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Portfolio: Students write 8 textbook writing assignment essays.

Final Presentation: Students read aloud 1 of their 8 essays to the class.

# 到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	30	In-class final: Choose one of your 8 writings and orally present it to the class. You will be assessed according to the speaking and writing rubrics.							
レポート課題		Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each							
73. 1 m/kg	50	Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%							
上記以外	20	Writing portfolio - Homework assignments from weeks 2-7 and 9-13. Total 8 essays. Show your essays to the teacher for corrections as you finish each essay. Show your collection of corrected essays to the teacher in weeks 14-15.							

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを3回以上欠席なると毎回欠席は採点から3点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5						
2										
3										

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

# 前提学力等

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110341	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Armando Duarte
ナンバリング番号	101ENG10	3							

	ファ田 コ   101 <u>=110</u> 100	
	<b></b>	授業計画
回数	タイトル Explanation of schedule,	概要 Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students.
第1回 ————	grading, rubric Working and jobs	Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	What is a sentence, paragraph	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Giving and receiving gifts Topic sentences	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Giving and receiving gifts Using conjunctions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Travel and places Descriptive vocabulary	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Familiar places Conjunctions and adjectives	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Inspiring people Using adjectives, conclusions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Mid-term	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Inspiring people Punctuation	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Trends Freewriting	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	City or country life Peer reviewing	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Lying Facts and opinions	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Lying Using opinions and examples	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.
第15回	In-class final	Students will orally present their best writing to the class.
		担当者から一言

It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別		担当教員	Armando Duarte
ナンバリング番号	101ENG10	4							

This class is an introduction to academic skills. You will develop all four of your English skills (listening, speaking, reading, and writing). You will read articles, listen to stories, watch videos, and talk about each topic. At the same time that you use English to learn about real-world content, you will apply it to your life and compare and contrast it with Japan.

In this class, we will start to develop skills that you need not only in English but also in Japanese. These include (1) Give, agree with, and politely disagree with opinions. (2) Analyze new facts and apply them to your life. (3) Decide when information is reliable and important. (4) Understand the basic structure of conversations, things you hear, and articles you read. (5) Provide support for your ideas. (6) Participate in pair and small group discussions.

#### 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly, memorize required material) and (3) good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary). Their English will also be (4) grammatically correct.

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験		Interview exam 20% Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade.									
<b>企</b> 积	60	Story Presentation 15%, Writing and Speaking Objectives 1,2, and 3 are worth 50% each of the total grade.									
レポート課題	15	Research Paper 15% Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Writing Objective 2 is worth 50% of the total grade.									
上記以外	25	Home work 15% and In Class participation 10%									

If you miss more than 5 classes, you will not be able to pass the class. Also, if you are more than 30 minutes late, you will be marked as absent for that day.

#### 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	Reading Adventures 3		Cengage National Geographic Learning	978-0-8400-3039-9							
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)								
講義コード	1110342	単位数	1	開講期	後期	授業種別	担当教員 Armando Duarte						
ナンバリング番号	101ENG10	4											

7 7 7 9 3									
C *b	7.1.11	授業計画							
回数	タイトル Orientation	概要							
第1回	Orientation	Introduce the course, ice breaking activities, self-introductions							
第2回	Unit 1A: Hiding from danger	Talk about Cause and Effect							
第3回	Unit 1B: Spider webs	Talk about supporting ideas							
第4回	Unit 2: Remaking Humans	Go over both units A and B, review for interview test							
第5回	Unit 1-2 Progress Check/Role- play	Interview test							
第6回	Unit 3A: Earth's beginning	Talk about sequencing							
第7回	Unit 3B: Deep sea vents	Talk about classification							
第8回	Unit 4: Saturn	Talk about summary completion, review for research paper							
第9回	Report due.	Talk about cause and effect and its importance in language. Talk about different kinds of poetry and poems							
第10回	Unit 6A: Writing around the world	Creative Writing day!							
第11回	Unit 6B: Why do people read?	Talk about ideas for the research paper							
第12回	Report due. Unit 7: Lewis Carroll	Students will present research papers in small groups.							
第13回	Unit 7: Unit 8: Disappearing Lanuguages	Introduce final exam							
第14回	Unit 8B: The Hadza	Review material introduced over the semester and prepare for final exam							
第15回	Final evaluation/presentation	Students present final presentations							
		担当者から一言							

Please come to class each week—and come prepared. English and sports are similar. You need to work on them each week to improve!

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Ashley Mark Stevens
ナンバリング番号	101ENG10	3							

1.77	SH	4nT	-
	業		

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a umber of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well us current events.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価											
種別	割合(%)	評価基準等										
定期試験		60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.										
人一点,	100	5% Final Written Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%										
レポート課題												
上記以外												

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

#### 授業外学習

 $\label{lem:preparation} Preparation \ for \ Quizzes \ (6 \ hours). Topic-related \ writing \ (6 \ hours). Pronunciation \ practice \ (3 \ hours).$ 

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press									
2												
3												

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

## 前提学力等

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110351	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Ashley Mark Stevens
ナンバリング番号	101ENG10	3							

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule, grading, rubric.								
第2回	Unit 1: Getting to know you	Communicative activities to learn about the other students in the class.								
第3回	Pronunciation: learning to speak English	Learning about areas of pronunciation that are particularly challenging for Japanese learners, and how to overcome them.								
第4回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends.								
第5回	Unit 2: Family and friends	Learning key vocabulary and how to talk about family and friends.								
第6回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions.								
第7回	Unit 3: Around town	Giving and receiving directions. Learning key vocabulary about places and directions.								
第8回	Unit 4: School and free time	Focusing on activities and how students spend their time.								
第9回	Unit 4: School and free time	Focusing on activities and how students spend their time.								
第10回	Unit 5: What's going on	Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life.								
第11回	Unit 5: What's going on	Focus on present continous tense and communicative tasks about activities in daily life.								
第12回	Unit 6: Numbers and money	Focus on both large and small numbers, how to pronounce them and diffictulties faced by Japanese learners with some English numbers.								
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test and writen exam.								
第14回	Interview Tests	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.								
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.								
		担当者から一言								

講義名	英語 B	英語 B(応用コース)(人文 )							
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Ashley Mark Stevens
ナンバリング番号	101ENG10	4		•					

Outline: The course aims to develop and expand on learners' existing knowledge of English. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. Students will also be introduced to a umber of learning techniques to empower their own learning experiences. In addition to the topics from the course outline, students will be encouraged to talk about their own interests as well us current events.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験		60% Final Interview Test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.								
人 <u>一</u>	100	25% Final Writing Test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% each and Writing Objective 3 is worth 50%								
レポート課題										
上記以外										

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.

#### 授業外学習

 $Preparation \ for \ Quizzes \ (6 \ hours). Topic-related \ writing \ (6 \ hours). Pronunciation \ practice \ (3 \ hours).$ 

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	Living English II	Hedberg & Mauser	Keystone English Press							
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110352	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Ashley Mark Stevens
ナンバリング番号	101ENG10	101ENG104							

授業計画								
回数	タイトル	概要						
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric.						
第2回	Unit 7: Memory and the past	Focusing on the past tenses and students' memories.						
第3回	Unit 7: Memory and the past	Focusing on the past tenses and students' memories.						
第4回	nit 8: The real you							
第5回	Unit 8: The real you	Communicative activities learning key adjectives to describe personalities.						
第6回	Unit 9: Favorites	Focus on comparatives and superlatives using communicative activities.						
第7回	Unit 9: Favorites	Focus on comparatives and superlatives using communicative activities.						
第8回	Unit 10: Let's eat	Focus on food, drinks and eating habits using role plays and communicative activities.						
第9回	Unit 10: Let's eat	Focus on food, drinks and eating habits using role plays and communicative activities.						
第10回	Unit 11: Experiences	Focus on the present perfect using communicative activities to talk about our past experiences.						
第11回	Unit 11: Experiences	Focus on the present perfect using communicative activities to talk about our past experiences.						
第12回	Unit 12: Future plans	Using the future tenses and communicative activities, students learn to talk about their futures.						
第13回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test and writen exam.						
第14回	Interview Tests	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.						
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.						
		担当者から一言						

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Gordon Maclaren
ナンバリング番号	101ENG10	3							

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3nd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times. In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the intructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

ᄶᅦ	幸	$\blacksquare$	#4

- Students will be able to speak English with good pronunciation. Students will be able to speak English with fluency. Students will be able to speak English with good delivery.

- (2) Students will be able to speak English with good delivery.
  (3) Students will be able to speak English with good delivery.
  (4) Students will be able to speak grammatically correct English.

	成績評価									
種別	種別 割合(%) 評価基準等									
定期試験										
レポート課題										
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity								

#### 授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total)Pairs rewrite 75-90% of a 'new' scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009								
2											
3											

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

前提学力等
-------

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110361	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Gordon Maclaren
ナンバリング番号	101ENG10	3							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	INTRODUCTION	Class &Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology							
第2回	Patching Things Up	Offering Help and Getting to Know a Stranger [II] 第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE							
第3回	Realization Of & Panic Over a Mistake	Calming Someone Down [III]							
第4回	Calling For Assistance	r Assistance Giving Information over the Phone [IV]							
第5回	Upholding Household Rules	Receiving and Confirming Good News [V]							
第6回	Getting Over Jet Lag	Talking About Sleepiness and One's Job [VI]							
第7回	A 'Thank You' Coffee	Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII]							
第8回	Sharing and Eliciting Wonderful News	Warning Over High Expectations [IX]							
第9回	Relating a Tough Situation	Asking About Job Qualifications [X]							
第10回	Returning to the Beginning	The Luggage Mix-Up Conflict [I]							
第11回	First Date	Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI]							
第12回	Under the Table	Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII]							
第13回	Stand-In	Subbing For Someone ill at Work [XIII]; NEW SCENE BRAINSTORMING							
第14回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.							
第15回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together. OUT (in pairs)								
		担当者から一言							

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Gordon Maclaren
ナンバリング番号	101ENG10	4							

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

01 (	the crass is rearning and fistening to the drafog of an English movie.									
				到達目標						
(2)	) Students will be able to speak English with good pronunciation. ) Students will be able to speak English with fluency. ) Students will be able to speak English with good delivery. ) Students will be able to speak grammatically correct English.									
	成績評価									
	種別	割合(%)	評価基準等							
5	定期試験									
レ	ポート課題									
	上記以外 100% 25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity									
				授業外学習						
Stud exte	y 2 scenes fonsive 350-55	or pair pe O word rep	erformance (5 hours tota port on your life, an a	al) Study two or three Screen Pl utobiography, in English (7 hour	ays for movie quiz (3 hours totals)	) Write an				
				教科書						
No			籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1	Pop Stars [N	New Versio	on]		(Drama Works, 2009)					
2										
3										
				参考書						
No		書			出版社	ISBN/ISSN				
1										
2										
3										
					1	ı				
				前提学力等						

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110362	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Gordon Maclaren
ナンバリング番号	101ENG10	4							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	INTRODUCTION	Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone's Hair							
第2回	Keeping Up With Friends' Lives	Shocking News Over the Phone [XV] 第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE							
第3回	Sharing Mixed Results	Celebrating, Evading and Consoling [XVI]							
第4回	Adjusting to a Changed Situation	A Dream Future [XVII]							
第5回	Breaking Some Bad NewsBut with a Silver Lining	Signing On [XVIII]							
第6回	Working Out	Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX]							
第7回	The End'	The Drama's Resolution [XX]							
第8回	Review Entire Story	Scene XIV Performance for any Excused Absence students							
第9回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第10回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第11回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第12回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第13回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第14回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT							
第15回	OFFICIAL EXAM DATE	Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports							
		担当者から一言							

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)								
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	当当教員 Karl Hedberg				
ナンバリング番号	101ENG10	3											

抠		

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

# 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題										
上記以外										

- 25% Mid-term Speaking test. Each Speaking 25% Mid-term Writing test. 25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	Living English I	Hedberg & Mauser	Keystone English Press							
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	英語 A	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110371	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Karl Hedberg
ナンバリング番号	101ENG10	3							

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.								
第2回										
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.								
第4回	Family & Friends									
第5回	Family & Friends	Talking about your friends and learning to learn 2.								
第6回	Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.								
第7回	Around Town	Getting to know Shiga, song 2.								
第8回	School & Free Time	Quiz 4, School life, part-time jobs and schedules								
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.								
第10回	School & Free Time	Free time and hobbies. Comparing Japanese / American college life.								
第11回	What's Going On?	Quiz 5, Talking on the phone, leaving messages.								
第12回	What's Going On? Making invitations and suggestions, song 3.									
第13回	Numbers & Money	Quiz 6, Numbers and money.								
第14回	Numbers & Money Do the math!									
第15回	Review, Review, Review	Review.								
第16回	Final Exam									
		担当者から一言								

講義名	英語 B	(応用コ・	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Karl Hedberg
ナンバリング番号	101ENG10	101ENG104							

400	٧.	107	-
捋	茥	45%	7

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. TV comedy skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

# 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題									
上記以外									

- 25% Mid-term Speaking test. Each Speaking 25% Mid-term Writing test. 25% Vocabulary Quizzes

#### 授業外学習

No     書籍名     著者名     出版社       1     Living English II     Hedberg & Mauser     Keystone English Press       2     4	教科書										
	ISBN/ISSN	出版社	著者名	書籍名							
		Keystone English Press	Hedberg & Mauser	Living English II	1						
3		_			3						

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	英語 B	(応用コ-	-ス)	(人文 )	)			_	
講義コード	1110372	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Karl Hedberg
ナンバリング番号	101ENG10	101ENG104							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	Mamory and the Doot Talking shout your weekend								
第2回									
第3回	Memory and the Past	Quiz 1, Asking about the past.							
第4回	The Real You	Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1.							
第5回	The Real You	Your horoscope and learning to learn 2.							
第6回	My Favorites	Quiz 3, Talking about books, movies, and music.							
第7回	My Favorites	Which do you prefer?, song 2.							
第8回	Let's Eat!	Quiz 4, Talking about food and cuisine.							
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.							
第10回	Let's Eat!	Tastes and textures.							
第11回	Experiences	Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences.							
第12回	Experiences	Have you?, song 3.							
第13回	Future Plans	Quiz 6, Can you see your future?							
第14回	Future Plans	Plans Hopes and dreams for the future.							
第15回	Review, Review, Review	Review.							
第16回	Final Exam								
		担当者から一言							
<u></u>									

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	201ENG20	1								

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、 映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上 を目標として授業を進めていきます。 また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

# 到達目標

- 1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。 2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。 3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。 4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。 通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133							
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751							
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

前提学力等	
けいたナノノマ	

特になし

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110531	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	201ENG20	1								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ
	1	担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	201ENG20	)2								

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、 映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上 を目標として授業を進めていきます。 また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

# 到達目標

- 1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む)を身につけること。 2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。 3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。 4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど)を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。4回以上欠席は評価をしません。

#### 授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。 通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133								
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500		旺文社	978010941751								
3												

	**************************************											
	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

前提学力等	
けいたナノノマ	

特になし

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110532	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	西澤	裕一
ナンバリング番号	201ENG20	2								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ
	1	担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。 忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力をつけて

講義名	英語 A	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	渡	寛法
ナンバリング番号	201ENG20	1								

本授業は、	TOEICのスコアフ	アップを目指し、	リスニングおよ゛	びリーディング	能力の養成を	目的とします。	TOEIC頻出のテー	-マごとに、	語彙や文法を学
びながら、	問題演習を行い	ます。授業では、	音読やシャドー	-イングなど英語	吾を声に出して	[練習し、ペア]	フークやグルース	プワークで実	際に英語を使う
訓練も積み	メ重ねていきます。	。TOEICでのスコ	アアップには、	英語の知識だけ	でなく、120分	た耐える集中を	りや、200問を解	ききる瞬発力	フも求められます
。本授業で	ではこうした実践	力を伸ばすことも	念頭において、	英語力向上に向	コけたトレーニ	こングを行います	す。		

# 到達目標

- (1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し(30%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

# 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEICR TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ (スマートフォンでも計測機能があればOK)を持ってきてください。

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰(監修)	日本能率協会マネジメントセンタ	978-4820749592
2				
3				

# 前提学力等

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110541	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	渡	寬法
ナンバリング番号	201ENG20	1								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit 1 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 1 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 2 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 2 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 3 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 3 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 4 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 4 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 5 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 5 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 6 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 6 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。
		担当者から一言

「飛行機はいつも遅れ、頼んだ荷物は届かず、職場のコピー機はしょっちゅうインク切れ…」、そんなハードなTOEICワールドを楽しみつつ、英語力を磨いていきましょう!

講義名	英語 B	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)			担当教員		
講義コード	1110542	110542 単位数 1 開講期 後期 授業種別 演習							渡	寛法 日本
ナンバリング番号	201ENG20	2								

本授業は、	TOEICのスコアア	'ップを目指し、	リスニングおよ	びリーディンク	゛能力の養成を	E目的とします。	TOEIC頻出のテ	ーマごとに、	語彙や文法を学
	問題演習を行いる								
訓練も積み	メ重ねていきます。	TOEICでのスコ	アアップには、	英語の知識だけ	·でなく、120:	分に耐える集中	□力や、200問を触	解ききる瞬発:	力も求められます
。本授業で	ではこうした実践を	りを伸ばすことも	念頭において、	英語力向上に	句けたトレー	ニングを行いま	す。		

# 到達目標

- (1)TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。 (2)TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。 (3)TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	到達目標(1)に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します(40%)。
レポート課題		
上記以外	60	到達目標(2)に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し(30%)、到達目標(3)に関しては、各回の小テストで評価します(30%)。

出欠状況は毎回確認します。授業を4回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります

# 授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『LIGHTING UP THE TOEICR TEST』	植木美千子ほか	金星堂	978-4-7647-4025-9
2				
3				

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「意味順」で学ぶ英会話	田地野彰(監修)	日本能率協会マネジメントセンタ	978-4820749592
2				
3				

# 前提学力等

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110542	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	渡	寬法 日本
ナンバリング番号	201ENG20	2								

		授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期の振り返り、および後期の目標設定。
第2回	Unit 7 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 7 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 8 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 8 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 9 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 9 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 10 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 10 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 11 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12 前半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 12 後半	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。
		担当者から一言

音読活動には慣れてきたでしょうか。「英文は舌で味わうもの!」と私の師匠はよく言っていました。今学期もさらに音読に磨きをかけていきましょう!

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Walter Klinger
ナンバリング番号	201ENG20	1							

Students will gain confidence and ability in applying English speaking and writing skills in enjoyable and educational communicative activities such as card games and TV comedy skits. Students write a one or two-page essay. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write better sentences. Students next read aloud their essay and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, in the mid-term test, students read aloud their essays to the teacher. The teacher gives grades for writing and speaking. For the final test, students say aloud to the teacher 4 pictures of everyday action sequences. Students also show to the teacher their written story about everyday events. The teacher gives grades for writing and speaking.

#### 到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50	Final Test: Action English Pictures & Never Ending Story. Students meet with the teacher one-by-one and say what is happening in 4 Action English Pictures that we studied in class. Each Speaking Objective is worth 25%. Students also show their written Never Ending								
レポート課題										
上記以外	50	Mid-term Speaking & Writing test: Essay. Students read aloud to the teacher their original written essay. Speaking and Writing are each 50%. Each Speaking Objective on the rubric is worth 25% of the Speaking section. Writing Objectives 1 & 3 on								

#### 授業外学習

Homework:

One hour per week.

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

HandoutsはHPからダウンロードできる。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110551	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Walter Klinger
ナンバリング番号	201ENG20	1							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	Q & A Spring card game.	Ask and listen for information needed to choose a card to play with. For homework: Write a one or two-page essay about any topic.							
第2回	3 Questions Board Game.	Talk about topics as you move around the game board. Continue writing your essay.							
第3回	Saturday Night Live: Cheeseburger Shop.	Say the dialogue from a comedy TV show skit. Show your essay writing to Teacher, then read aloud the corrected writing to Teacher.							
第4回	Saturday Night Live: Hospital Visit, France 1944.	Say the dialogue from TV show skits. Show and read aloud your essay to the teacher if you have not yet done so.							
第5回	Action English Pictures #A & B.	Describe everyday events and actions. Show your essay to the teacher if you have not yet done so.							
第6回	Action English Pictures #C & D.	Describe everyday events and actions. Choose four pictures for the Final Test and practice saying them.							
第7回	Never Ending Story: Speaking	Make a story about everyday events using picture cards.							
第8回	Never Ending Story: Writing	Write a story about everyday events using the picture cards and/or your original ideas. Show your writing to Teacher in the Final Test.							
第9回	Mid-Term Test	Read aloud your essay to Teacher, who will give you grades for speaking and writing. Continue writing your Never Ending Story.							
第10回	What's My Hobby or Sport?	Ask questions to describe sports, hobbies, and pastimes. Continue writing your Never Ending Story and show it to Teacher.							
第11回	A-Z Alphabet game.	Think of words in categories and make sentences. Continue writing your Never Ending Story and show it to the Teacher.							
第12回	Final Answer game.	Ask and answer questions in a quiz game.							
第13回	What Animal Am I?	Describe animals and their environments.							
第14回	English movie.	Read the movie scenario textbook at home before the class. While the movie is playing, come to the Teacher for the Final Test.							
第15回	English movie.	Read the movie scenario textbook at home before the class. While the movie is playing, come to the Teacher for the Final Test.							
		担当者から一言							

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)								
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	□ 担当教員 □ 坂本 輝世 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □					
ナンバリング番号	201ENG20	2											
	授業概要												

この授業では、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは 、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティ ビティーに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていってもらいたい。

# 到達目標

- (1)スピーキング力を向上させる (2)リスニング力を向上させる (3)積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む (4)時事問題への理解を深める

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	25%	到達目標(1)について、期末英語スピーチによって評価 								
レポート課題										
上記以外	75%	到達目標(1)について、単語クイズによって評価(15%) 到達目標(2)について、リスニング・ジャーナルによって評価(15%) 到達目標(2)について、聞き取りクイズによって評価(15%)								

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

## 前提学力等

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110552	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂本	輝世
ナンバリング番号	201ENG20	2								

	<u>.</u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、TVニュースの英語
第2回	Unit 1 Treasury Secretary	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 2 Daylight Saving Time	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 3 Cuba's Gold Rush	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 4 Made in America	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 5 Firestorm	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 6 Deadly Tornado Outbreak	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 7 Zika Emergency	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 8 Yelp! Reviewer Beware	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 9 Bridge Dangers	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Big Change	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 13 Major Abortion Case	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 14 On Alert: Faith and Fear	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 15 Breaking Point	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities
		担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やものの見方を手に入れることができます。リスニングカとスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語 A	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	201ENG20	1								

日本語字幕に頼らずに、	アメリカで制作されたテレビ	ドラマ"FULL HOUSE"を	楽しみます。言語は他の	の人と情報を伝達しあう	らためのものですから、他
の人と関わりあわないと	:英語運用能力は向上しません。	。ですから、ほかの学:	生とペアになっての演	習や音読練習など、授業	ぐへの積極的な参加が出席
の必要条件となります。	内容を確実に身につけている	か確認するため小テス	トと台詞和訳の提出課題	題が毎回あります。必要	<b>タであれば辞書を持参し、</b>
不明な点は各自で調べる	6癖をつけてください。				

# 到達目標

(1)語彙力の向上、(2)リスニング力の向上、(3)読解力の向上、(4)英語での思考力の向上、(5)英語での発信力の向上

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	50	(1)語彙力10%、(2)リスニング力10%、(3)読解力10%、(4)英語での思考力10%、(5)英語での発信力 10%									
レポート課題											
上記以外	50	小テスト等(1)語彙力10%、(2)リスニング力10%、(3)読解力10%、(4)英語での思考力10%、(5)英語での発信力10%									

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

# 授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

#### 前提学力等

3回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110561	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	201ENG20	01ENG201								

	, у ш ¬	
 回数	タイトル	
<u> </u>		(株安 1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
		1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第2回		1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第3回		
第4回	1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第5回	2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第6回	第2話Our Very First Night その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第7回	第3話The First Day of School その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第8回	第3話The First Day of School その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第9回	第3話The First Day of School その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第10回		1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第11回	第4話The Return of Grandma その 2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第12回	第4話The Return of Grandma その 3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第13回	第7話Knock Yourself Out その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第14回	第7話Knock Yourself Out その 2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第15回	第7話Knock Yourself Out その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 B	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	201ENG20	2								

日本語字幕に頼らずに、	アメリカで制作されたテレビ	ドラマ"FULL HOUSE"を	楽しみます。言語は他の	の人と情報を伝達しあう	らためのものですから、他
の人と関わりあわないと	:英語運用能力は向上しません。	。ですから、ほかの学:	生とペアになっての演	習や音読練習など、授業	ぐへの積極的な参加が出席
の必要条件となります。	内容を確実に身につけている	か確認するため小テス	トと台詞和訳の提出課題	題が毎回あります。必要	<b>タであれば辞書を持参し、</b>
不明な点は各自で調べる	6癖をつけてください。				

# 到達目標

(1)語彙力の向上、(2)リスニング力の向上、(3)読解力の向上、(4)英語での思考力の向上、(5)英語での発信力の向上

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	50	(1)語彙力10%、(2)リスニング力10%、(3)読解力10%、(4)英語での思考力10%、(5)英語での発信力 10%									
レポート課題											
上記以外	50	小テスト等(1)語彙力10%、(2)リスニング力10%、(3)読解力10%、(4)英語での思考力10%、(5)英語での発信力10%									

6回の欠席で評価対象から除外されます(出席回数はお知らせしません)。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

# 授業外学習

セリフをすらすらと言いながら書けるまで復習すること。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

プリント配布。プリントおよび音声データ等はアスポにてダウンロード可能。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

どのような物でもよいので辞書を持参のこと。

# 前提学力等

3回生以上の特例処置で再履修を希望する学生は、本シラバスの内容に同意し、初回に出席しなければ受講を認めません。

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110562	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	佐久間	思帆
ナンバリング番号	201ENG20	2								

	_	授業計画
 回数	タイトル	概要
<del></del> 第1回	第10話Joey's Place その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第2回	第10話Joey's Place その2	   1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第3回	第10話Joey's Place その3	   1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第4回	第11話The Big Three-0 その1	   1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認 
第5回	第11話The Big Three-0 その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第6回	第11話The Big Three-0 その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第7回	第13話Sisterly Love その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第8回	第13話Sisterly Love その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第9回	第13話Sisterly Love その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第10回	第17話Danny's very first date その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第11回	第17話Danny's very first date その 2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第12回	第17話Danny's very first date その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第13回	第22話D.J. Tanner's Day Off その1	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第14回	第22話D.J. Tanner's Day Off その2	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
第15回	第22話D.J. Tanner's Day Off その3	1.映像の視聴とディクテーション 2.和訳 3.音読と口頭英作文練習 4.重要表現の確認
		 担当者から一言

授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為(私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等)をする者の受講は認めません。

講義名	英語 A	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	201ENG20	1							

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価											
種別	割合(%) 評価基準等											
定期試験												
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test										
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Final Speaking Test (50%).										

#### 授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

## 前提学力等

講義名	英語 A	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110571	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	201ENG20	1							

	- — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	
		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction and Useful English	Explanation of schedule and assignments. Useful English - question patterns for understanding. 1 page essay structure.
第2回	People Talk	Present simple tense and 'Wh' questions for introductions and small talk.
第3回	Describing Places and Objects/Expressive Speech.	There is/There are/Prepositions of place. Encoding and reproducing expressive speech qualities (Rhythm, Intonation, Stress, Gesture).
第4回	Habits and Routines	Adverbs of frequency, talking about time. Describing a typical day.
第5回	Actions I	Using the present progressive tense to describe current/ongoing actions and future plans.
第6回	Actions II	Mixing the past simple and past progressive forms. What is Mr. Bean doing? exercise.
第7回	Acting Expressively: Radio Play	Students will read, practice and perform a short detective mystery script focusing on expression and good pronunciation.
第8回	Buying and Selling	Shopping role-plays and common phrases. Review the usage of 'much/many, some/any'. Asking questions about products and services.
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.
第10回	Where am I?	Giving and asking for directions. Place and business vocabulary.
第11回	Travel and Vacations	Making comparisons between places, people and objects. Talking about travel and ideal destinations.
第12回	Picture Stories	Using past forms and time-order signals to make a narrative about the past. Talking about childhood and school days.
第13回	Modal Mastery	Using modal verbs in different contexts to express permission, obligation, advice and possibilities.
第14回	Food Culture/Speaking Tests	Restaurant English role-plays. Describing food and expressing preferences. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.
第15回	Leisure and Entertainment/Speaking Tests	Expressing likes/dislikes with reasons. Some students will have a short Q&A speaking test with the teacher.

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 B	(充実コ・	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	201ENG20	2							

The course aims to progressively develop fluency skills and build on the learners' existing grammatical foundations. All four language skills will be covered with a primary emphasis on listening and speaking. This course emphasises the development of practical English skills through stimulating, 'socially interactive' classroom activities. Students will also be encouraged to express their ideas and opinions across a range of topics. Students will also be introduced to a number of learning techniques to empower their own learning experiences.

# 到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, I and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

	成績評価												
種別	割合(%)	割合(%) 評価基準等											
定期試験													
レポート課題	25	Mid-Term Writing Test											
上記以外	75	Mid-Term Speaking Test (25%), Comedy Sketch Performance Test (50%).											

#### 授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

## 前提学力等

講義名	英語 B	(充実コ-	-ス)	(人文 )	)				
講義コード	1110572	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号	201ENG20	2							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	Course Introduction/Future Forms	Explanation of schedule and assignments. Using the 'will' future form. 10 years from now exercise.							
第2回	How do 1?	Use of verb-ing after prepositions to describe how something happens. Giving instructions advice, making suggestions.							
第3回	Interested or Interesting?	Using adjective forms to express feeling or describe object qualities. Talking about University studies. Adverbs of manner.							
第4回	Simple Conditionals	Using the first conditional to ask and answer questions about realistic or probable outcomes.							
第5回	Comedy Sketch I	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.							
第6回	Facts, Figures and Money	Describing trends and patterns in data. How to say long numbers. Talking about prices and personal budgets.							
第7回	Comedy Sketch II	Students will read, rehearse and perform a TV comedy sketch.							
第8回	To-infinitive and beyond!	Review of the flexible to-infinitive form to express purpose, feelings, wishes and opinions. Combinations with relative clauses.							
第9回	Mid Term Test	Students read aloud their essay project to the teacher.							
第10回	Expressing Opinions	Review and practice of common phrases used to express nuanced opinions (strong, neutral, tentative). Discussions of Japanese advertising.							
第11回	Careers and Personal Development	Usage of will and 'be going' forms to express plans and predictions about the future. Discussion of career plans.							
第12回	If I were you	Use of second conditionals to talk about unrealistic or unlikely future situations. The 'If you' game.							
第13回	Tourist Troubles	Role playing tourist complaints in different service situations (Hotel, restaurants, repair shop). Review and practice key phrases.							
第14回	Socialising/Comedy Sketch Test	Informal vs. formal introductions. Making extended small talk. Useful phrases for socialising. Some students perform comedy sketch test.							
第15回	The English Games	Students compete in a round of different language games that test grammar/vocabulary skills. Some students perform comedy sketch test.							
	<u> </u>	担当者から一言							

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	)3								

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取組み、高得点取得を目指します。

# 到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。 (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。 (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。 (4) TOEICのスコアをのばす。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それを用いて学習すること。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641								
2												
3												

辞書を毎回持参すること。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110741	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	3								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	授業の進め方/ 自己紹介/							
第2回	On an Airplane	リスニング/会話練習/空港のチェックポイントの確認。							
第3回	At Immigration and Customs	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第4回	Getting to a Hotel	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題							
第5回	Checking into a Hotel	リスニング//会話練習/Translation/T0EIC問題							
第6回	At a Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題							
第7回	Taking a Subway	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第8回	中間テスト	授業で学んだ表現を身につけていることを確認する。							
第9回	Asking for Direction	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第10回	Fast Food Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第11回	At a Bank	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第12回	Hotel Services	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第13回	Placing a Phonecall	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第14回	Visiting a Campus	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題							
第15回	発表/まとめ	課題発表とまとめ。							
		担当者から一言							

授業で使用するテキストは米国の航空会社協力のもと作成された、実践的なものです。こうしたやりとりを学ぶことで、将来英語を使って仕事をすることへの興味や意識を持って下さい。授業では、航空会社での私の体験談等を交えながら米国の社会事情を紹介します。皆さん自身がまずは海外

講義名	英語 B	(展開コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	)4								

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムースにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムースに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取組み、高得点取得を目指します。

# 到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムースに使えるようになる。 (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。 (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。 (4) TOEICのスコアをのばす。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それを用いて学習すること。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641								
2												
3												

辞書を毎回持参すること。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文 )	1					
講義コード	1110742	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	4								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方/ TOEICサンプルテスト
第2回	At a Pharmacy	リスニング/会話練習/
第3回	Renting a Car	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第4回	At a Gas Station	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第5回	Making Hotel Reservations	リスニング//会話練習/Translation/TOEIC問題
第6回	At a Post Office	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第7回	At a Gift Shop	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第8回	中間テスト	授業で学んだ表現を身につけていることを確認する。
第9回	At a Gift Shop	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第10回	Checking Out	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第11回	Making Complaints	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第12回	Dealing with Problems	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第13回	At the Airport	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第14回	At the Airport	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第15回	発表/まとめ	課題発表とまとめ。
		担当者から一言

授業で使用するテキストは米国の航空会社協力のもと作成された、実践的なものです。こうしたやりとりを学ぶことで、将来英語を使って仕事をすることへの興味や意識を持って下さい。授業では、航空会社での私の体験談等を交えながら米国の社会事情を紹介します。皆さん自身がまずは海外

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	吉田	亞矢
ナンバリング番号	201ENG20	3								

世界で使用されている様々な英語を"World Englishes"と呼ぶことがあるが、今や英語は英語母語話者と話すためだけに必要な言語ではなく、この呼称が物語るように、英語非母語話者の人々との意思疎通を図るためにも有用な言語である。前期は、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、総合的な英語力を養う。テキストの各章は、リーディングとリスニングの構成になっているが、英語でレポートを作成したり(ライティング)、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する(スピーキング)などの課題も随時提示される。受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。

#### 到達目標

- "World Englishes"の概念を理解し、それについて自らの意見を述べる 各国の旅事情、世界の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する 世界の国々の特色について、英語で簡潔に説明する

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テストを行い、全体の40%として評価。								
レポート課題										
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)にて全体の30%として評価。								

<出席について> 授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

#### 授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8							
2											
3											

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801					
2									
3									

・適宜、授業中にプリント配布する。

#### 前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110751	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	吉田	亞矢
ナンバリング番号	201ENG20	3								

回数	, , , , , ,	ファ <u>ロコーニー                                   </u>	+四米-1 m
# 20	同数	タイトル	授業計画  柳
Application			
Assets   Assets	第2回	Chapter 1 AUSTRALIA – Reading	
### 15	第3回		
## 1	第4回		
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	第5回		
### ARCENTINA - Listening ・小テスト	第6回		【前半】 ・ディスカッション
#90	第7回	Unit 5 ARGENTINA - Listening	【前半】 ・小テスト
# 10回   Unit 9	第8回		【前半】 ・ディスカッション
#11回 Unit 1 (前半) (小デスト (小m) (小デスト (小m) (小m) (小m) (小m) (小m) (小m) (小m) (小m)	第9回	Unit 7 GERMANY - Listening	・小テスト
# 12回 Unit 11 (REECE - Reading ・ディスカッション Unit 11 (REECE - Listening ドイスカッション Unit 11 (REECE - Listening ドイスカッション ・世界の言語について・地球語としての英語。を読む ・ドラベルガイド作成元 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第10回	Unit 9 POLAND - Reading	【前半】 ・ディスカッション
# 13回	第11回		
第14回       Review       ・世界の言語について ・学地球部としての英語。を誘き         第15回       列達度確認テスト       グループで前期できとめ課題に取り組む ・トラベルガイド作成完了         日本       日本	第12回	Unit 11 GREECE -Reading	
第15回 到達度確認テスト グループで前期のまとめ課題に取り組む ・トラベルガイド作成完了 ・トラベルガイド作成完了 ・・ラベルガイド作成完了 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第13回	Unit 11 GREECE - Listening	
	第14回		
	第15回	到達度確認テスト	グループで前期のまとめ課題に取り組む ・トラベルガイド作成完了

前期は、オーストラリア、シンガポール、アルゼンチン、ドイツ、ポーランド、ギリシャを英語で旅します!言語とは何かについて、考えていきましょう。

講義名	英語 B	(展開コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	吉田	亞矢
ナンバリング番号	201ENG20	)4								

前期に引き続き、世界各国を旅するレポーターからの英語ニュースとインタビューを視聴しながら、その国の言語・文化への理解を深めつつ、英語の四技能(聞く、話す、読む、書く)を総合的に養う。後期は特に、英語が世界共通語と呼ばれるまでに至った背景的知識を得るため、サブテキストとしてDavid Crystal著 English as a Global Language を参照する。前期同様、受講者には、翻訳作業を除いて、可能な限り英語で受け答えをし、ディスカッションすることが求められる。リーディングとリスニング問題を軸に、英語でレポートを作成したり(ライティング)、英語の質問に対して英語で答え、それを録音する(スピーキング)などの課題も随時提示される。

#### 到達目標

- "World Englishes"に関する発展問題に、自らの意見や引用文を用いて解答する世界の旅事情、今後の英語事情について議論し、その結果を英語で発表する世界の国々の特色について、英語で詳細に説明する

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)について、期末テストを行い、全体の40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標(2)について、到達度確認テストを行い、全体の30%として評価。 到達目標(3)について、隔週の小テスト(10%)および各回のレポート作成・録音作業(20%)で評価。

<出席について> 授業への積極的な参加は前提である。出欠状況は毎回確認するが、いわゆる出席点というものはない。なお、正当な理由なく4回以上授業を欠席した場合は、単位を認めない。遅刻は3回で欠席1回とみなし、30分以上の遅刻は欠席扱いとなる。

#### 授業外学習

これまでの学習内容、これからの学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	On Board for More World Adventures	Scott Berlin・小林めぐみ	金星堂	978-4-7647-3991-8							
2											
3											

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。また、受講者自らが問題に取り組み、理解を深めて

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	English as a Global Language	David Crystal	Cambridge University Press	978-1107611801						
2										
3										

・適宜、授業中にプリント配布する。

## 前提学力等

<辞書について>

外国語学習にとって辞書は必須アイテムである。英語の電子辞書または紙媒体の辞書を必ず持参すること。なお、携帯電話やスマートフォンなどの

講義名	英語 B	-ス)	(人文 )	)						
講義コード	1110752	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	吉田	亞矢
ナンバリング番号	201ENG204									

図数		- 10.1.020 · 10.1.02								
# 20	授業計画 概要									
#20日										
# Space 2	第2回	Chapter 2 INDONESIA - Reading								
### Unit 4 Unit 4 Unit 5 Unit 7 Ty A Ty	第3回									
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	第4回									
###   Minit 8	第5回		【前半】 ・小テスト							
Seeding	第6回		・ディスカッション							
### Dinit 18	第7回		・小テスト							
第10回 SPAIN - Reading 「前半】 - ディスカッション 「前半】 - 小テスト	第8回									
### 110	第9回		・小テスト							
第12回 Mile 13 (前半) (前半) (前半) (小方人) (前半) (小方人) (前半) (小方人) (前半) (小方人) (前半) (小方子大) (前野) (小方子大) (前野) (小方子大) (前野のまとめ課題に取り組む) (小方子ベルガイド作成売了) (小方子ベルガイド・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース	第10回									
# 31-10	第11回	Unit 10 SPAIN – Listening								
第14回       Review       ・世界の言語について・サブテキストの講読         第15回       ブループ・ナラベルガイド作成完了         第16回       「カーマルガイド作成完了」         第16回       「カーマルカー・アルファン・アルコアン・アルファン・ア	第12回									
第15回 到達度確認テスト グループで前期のまとめ課題に取り組む - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成完了 - トラベルガイド作成元 - トラベルガイドイル - トラベルガイドイル - トラベルガイドイル - トラベルガイド・カース - トラベルガイド・カリア・カース - トラベルガイド・カース - トラベルガイ・カース - トラベルオース - トラベルガイ・カース - トライル - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガー・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルガイ・カース - トラベルカース - トラベルカース - トラベルカース - トラベルカース - トラベルカース - トライル - トラベルカース - トライルカース - トライル - トライルカース - トライルカース - トラ	第13回									
	第14回									
	第15回	到達度確認テスト	グループで前期のまとめ課題に取り組む   ・トラベルガイド作成完了							

後期は、インドネシア、中国、メキシコ、フィンランド、スペイン、モロッコを英語で旅します!前期に引き続き、言語とは何かについて、また英語の将来について考えていきましょう。

講義	名	英語 A	-ス)	(人文 )	)						
講義コ·	ード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリン	/グ番号	201ENG203									

この授業では、旅行に関する英語表現を学びながら総合的な英語力をつけ、世界の人とコミュニケーションができるような力をつけることを目指します。テキストは出入国や機内での会話、現地で道を聞く、掲示を読む、書類に記入する、ホテルにチェック・インする、レストランで食事をする・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することにより基本的な表現を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取組み、高得点取得を目指します。

# 到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、使えるようになる。 (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。 (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。 (4) TOEICのスコアをのばす。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。						
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。						
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、授業で行うTOEIC模擬試験によって評価する(10%)。						

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それを用いて学習すること。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641						
2										
3										

辞書を毎回持参すること。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110761	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	3								

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方/ 自己紹介/
第2回	On an Airplane	リスニング/会話練習/空港のチェックポイントの確認。
第3回	At Immigration and Customs	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第4回	Getting to a Hotel	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第5回	Checking into a Hotel	リスニング//会話練習/Translation/T0EIC問題
第6回	At a Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第7回	Taking a Subway	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第8回	中間テスト	授業で学んだ表現を身につけていることを確認する。
第9回	Asking for Direction	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第10回	Fast Food Restaurant	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第11回	At a Bank	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第12回	Hotel Services	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第13回	Placing a Phonecall	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第14回	Visiting a Campus	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第15回	発表/まとめ	課題発表とまとめ。
		担当者から一言

授業で使用するテキストは米国の航空会社協力のもと作成された、実践的なものです。こうしたやりとりを学ぶことで、将来英語を使って仕事をすることへの興味や意識を持って下さい。授業では、航空会社での私の体験談等を交えながら米国の社会事情を紹介します。皆さん自身がまずは海外

講義名	英語 B	(展開コ・	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂元	敦子
ナンバリング番号	201ENG20	4								

この授業では、前期に学習した旅行に関する英語表現をさらに発展させて学び、総合的な英語力をつけ、世界の人とよりスムースにコミュニケーションできる力をつけることを目指します。テキストは現地で電話をかける、買い物をする、ホテルのチェック・アウトをする、問題を解決する・・・といった具体的なシーンを扱っており、こうした状況の会話をペアやグループで練習することによりよりスムースに表現できる力を身につけます。また、海外でよく遭遇する文化の違い・常識の違いなどについても授業で紹介していきます。旅行に関連する英語はTOEICにしばしば出題されますから、TOEICの対策にもなります。授業ではTOEICの問題にも取組み、高得点取得を目指します。

## 到達目標

- (1) テキストで扱われる旅行に関連する表現を理解し、よりスムースに使えるようになる。 (2) 授業で学んだ表現をもとに、さらに自宅で学習やリサーチしたことを提出する。 (3) ペアやグループで英語によるコミュニケーションができ、クラスの活動に積極的である。 (4) TOEICのスコアをのばす。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標(1)については中間・期末の試験で評価する。
レポート課題	20%	到達目標(2)については、課題の提出によって評価する。
上記以外	40%	到達目標(3)については、授業内のアクティビティへの積極的な参加によって評価する(30%)。 到達目標(4)については、12月に実施されるTOEIC試験によって評価する(10%)。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

必ず自宅で予習をすること。テキストについては音声や映像を確認し、関連する本やホームページを参照すること。授業で配布されるプリントを保管し、それを用いて学習すること。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	TravelEnglish at Your Fingertips	島田拓司ほか	成美堂	978479145641								
2												
3												

辞書を毎回持参すること。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

授業内でプリントを配布するので、予習して授業に臨むこと。

前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110762	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂元 敦子	
ナンバリング番号	201ENG20	4								

	•	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方/ TOEICサンブルテスト
第2回	At a Pharmacy	リスニング/会話練習/
第3回	Renting a Car	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第4回	At a Gas Station	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第5回	Making Hotel Reservations	リスニング//会話練習/Translation/T0EIC問題
第6回	At a Post Office	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第7回	At a Gift Shop	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第8回	中間テスト	授業で学んだ表現を身につけていることを確認する。
第9回	At a Gift Shop	リスニング/会話練習/Translation/T0EIC問題
第10回	Checking Out	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第11回	Making Complaints	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第12回	Dealing with Problems	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第13回	At the Airport	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第14回	At the Airport	リスニング/会話練習/Translation/TOEIC問題
第15回	発表/まとめ	課題発表とまとめ。
		担当者から一言

授業で使用するテキストは米国の航空会社協力のもと作成された、実践的なものです。こうしたやりとりを学ぶことで、将来英語を使って仕事をすることへの興味や意識を持って下さい。授業では、航空会社での私の体験談等を交えながら米国の社会事情を紹介します。皆さん自身がまずは海外

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	真田	満
ナンバリング番号	201ENG20	3								

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

## 到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。 正しい発音を身につける。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。 30分以上の遅刻は認めない。 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041								
2												
3												

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110771	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	真田	満
ナンバリング番号	201ENG20	3								

例数			四类計画
# Hou	同数	タイトル	授業計画
# 20	第1回		
第4回 Unit 1. Lessons E and D 教育の診察問題 第五回 Unit 2. Lessons A, B, and C 教育の診察問題 第五回 Unit 2. Lessons E and D 教育の診察問題 第五回 Unit 3. Lessons E and D 教育の診察問題 第五回 Unit 3. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 3. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 3. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 4. Lessons A, B, and C 教育の政育問題 第五回 Unit 4. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 4. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 4. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 5. Lessons A, B, and C 教育の診療問題 第五回 Unit 5. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 6. Lessons A, B, and C 教育の診療問題 第五回 Unit 6. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 Unit 6. Lessons A, B, and C 教育の診療問題 第五回 Unit 6. Lessons A, B, and C 教育の診療問題 第五回 Unit 6. Lessons E and D 教育の診療問題 第五回 E and	第2回	Unit 1. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題
第5回 Unit 2. Lessons E and D 教育の解答問題 党人でおくべき、使える英語表現の演習 発えておくべき、使える英語表現の演習 変えておくべき、使える英語表現の演習 変えておくべき。 世界の解釈語 から は 日本	第3回	Unit 1. Lessons E and D	教科書の練習問題
第5回 Unit 3. Lessons A, B, and C 数	第4回	Unit 2. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第7回	第5回		教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第7回	第6回	Unit 3. Lessons A, B, and C	覚えておくべき、使える英語表現の演習
### Page	第7回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
第10回 Unit 4. Lessons E and D 製料書の練習問題 第17回 Unit 5. Lessons A, B, and C 製料書の練習問題 第17回 Unit 5. Lessons E and D 製料書の練習問題 第17回 Unit 6. Lessons E and D 製料書の練習問題 第18回 Unit 6. Lessons A, B, and C 製料書の練習問題 第17回 Unit 6. Lessons A, B, and C 製料書の練習問題 第17回 Unit 6. Lessons E and D 製料書の練習問題 製入ておくべき、使える英語表現の演習 第17回 Unit 6. Lessons E and D 製料書の練習問題 製入ておくべき、使える英語表現の演習	第8回		これまでの復習
第11回 Unit 5. Lessons A, B, and C 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習 第21回 Unit 5. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習 第41回 Unit 6. Lessons A, B, and C 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習 第15回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習 第15回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習 第15回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2人でおくべき、使える英語表現の演習	第9回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
第12回 Unit 5. Lessons E and D	第10回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
第12回 第2 And Quiz and Review 第2回小テスト 第14回 Unit 6. Lessons A, B, and C 第2回小テスでの複響 第14回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2 大でおくべき、使える英語表現の演習 第15回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2 大でおくべき、使える英語表現の演習	第11回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
第14回 Unit 6. Lessons A, B, and C 教科書の練習問題	第12回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
第15回 Unit 6. Lessons E and D 教科書の練習問題 第2. ておくべき、使える英語表現の演習	第13回		これまでの復習
第15回 党えておくべき、使える英語表現の演習	第14回		覚えておくべき、使える英語表現の演習
	第15回	Unit 6. Lessons E and D	教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習
			ロルネがと一字
<b>純和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。</b>			

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	真田	満
ナンバリング番号	201ENG20	4								

TEDからの素材を使い、英文を読み、Video教材を視聴することで、英語の読解力と聴解力を伸ばす。また、批判的にテキストを読み、聞く力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。英語を読み、聞くだけの受け身の授業ではなく、教科書の文章をもとに、英語を書き、話す際の表現力をさらに向上させることを目標とする。毎回の授業において、音読により弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

## 到達目標

テキストの英文を正確に理解できる。 テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。 テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。 正しい文法を身につけ、英語を書くことができる。 正しい発音を身につける。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標 と について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標 と に関し、2回小テストを行い、評価の30%とする。 到達目標 と に関しては、毎回の宿題と授業でのプレゼンテーションをもとに、評価の30%とする。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。 30分以上の遅刻は認めない。 遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

#### 授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。 TOEIC対策も兼ねた語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

	教科書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1	Keynote 2	David Bohlke	Cengage	9781305965041				
2								
3								

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110772	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	真田	満
ナンバリング番号	201ENG20	4								

第1回	タイトル introduction init 7. Lessons A, B, and C init 7. Lessons E and D init 8. Lessons A, B, and C init 8. Lessons E and D init 9. Lessons E and D init 10. Lessons A, B, and C init 10. Lessons E and D	授業計画 概要  英語IVAで学んだことの復習  教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習  第1回小テスト これまでの復習  教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第1回 Interpretation	nit 7. Lessons A, B, and C nit 7. Lessons E and D nit 8. Lessons E and D nit 8. Lessons E and D nit 9. Lessons A, B, and C nit 9. Lessons E and D st Quiz and Review nit 10. Lessons A, B, and C nit 10. Lessons E and D	英語IVAで学んだことの復習  教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習  教科書の練習問題 覚えておくべき、でき、使える英語表現の演習  教科書の練習問題 第1回小テスト これまでの復習  教科書の練習問題
第3回 Uni 第4回 Uni 第5回 Uni 第6回 Uni 第7回 Uni 第8回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第11回 Un 第13回 Uni 第14回 Uni	nit 7. Lessons E and D  nit 8. Lessons A, B, and C  nit 8. Lessons E and D  nit 9. Lessons A, B, and C  nit 9. Lessons E and D  st Quiz and Review  nit 10. Lessons A, B, and C  nit 10. Lessons E and D	覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習 教科書の練習問題
第4回 Uni 第5回 Uni 第6回 Uni 第7回 Uni 第8回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第11回 Un 第11回 Un 第14回 Un	nit 8. Lessons A, B, and C nit 8. Lessons E and D nit 9. Lessons A, B, and C nit 9. Lessons E and D st Quiz and Review nit 10. Lessons A, B, and C nit 10. Lessons E and D	
第5回 Uni 第6回 Uni 第7回 Uni 第8回 1si 第9回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第11回 Un 第11回 Un 第14回 Un	nit 8. Lessons E and D  nit 9. Lessons A, B, and C  nit 9. Lessons E and D  st Quiz and Review  nit 10. Lessons A, B, and C  nit 10. Lessons E and D	覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   第1回小テスト   これまでの復習   教科書の練習問題
第6回 Uni 第7回 Uni 第8回 1si 第9回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第12回 Un 第13回 Uni	nit 9. Lessons A, B, and C nit 9. Lessons E and D st Quiz and Review nit 10. Lessons A, B, and C nit 10. Lessons E and D	覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   第1回小テスト   これまでの復習   教科書の練習問題
第7回 Uni 第8回 1si 第9回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un	nit 9. Lessons E and D st Quiz and Review nit 10. Lessons A, B, and C nit 10. Lessons E and D	覚えておくべき、使える英語表現の演習   教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習   第1回小テスト   これまでの復習   教科書の練習問題
第8回 1si 第8回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un	st Quiz and Review nit 10. Lessons A, B, and C nit 10. Lessons E and D	覚えておくべき、使える英語表現の演習   第1回小テスト   これまでの復習   教科書の練習問題
第9回 Uni 第10回 Uni 第11回 Un 第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un	nit 10. Lessons A, B, and C	これまでの復習       教科書の練習問題
第10回 Uni 第11回 Un 第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un	nit 10. Lessons E and D	教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習
第11回 Un 第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un		
第12回 Un 第13回 2nd 第14回 Un		教科書の練習問題   覚えておくべき、使える英語表現の演習
第12回 第13回 <sup>2nd</sup> 第14回 <sup>Un</sup>	nit 11. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第13回 Un 第14回 Un	nit 11. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
第14凹 IIn	nd Quiz and Review	第2回小テスト これまでの復習
第15回 Un	nit 12. Lessons A, B, and C	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
	nit 12. Lessons E and D	教科書の練習問題 覚えておくべき、使える英語表現の演習
		担当者から一言
 英和辞書だけ		

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂本	輝世
ナンバリング番号	201ENG20	3								

この授業では、さまざまなアクティビティーによって、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、英語力を伸ばしていってもらいたい。

## 到達目標

- (1)スピーキング力を向上させる (2)リスニング力を向上させる (3)積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む (4)時事問題への理解を深める

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	25%	到達目標(1)について、期末英語スピーチによって評価							
レポート課題									
上記以外	75%	到達目標(1)について、単語クイズによって評価(15%) 到達目標(2)について、リスニング・ジャーナルによって評価(15%) 到達目標(2)について、聞き取りクイズによって評価(15%)							

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310							
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899							
3											

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

## 前提学力等

講義名	英語 A	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110781	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	坂本	輝世
ナンバリング番号	201ENG20	01ENG203								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方・評価方法の説明、自己紹介、TVニュースの英語
第2回	Unit 1 Treasury Secretary	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 1 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 2 Daylight Saving Time	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 2 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 3 Cuba's Gold Rush	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 3 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 4 Made in America: Super Bowl 50	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 4 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 5 Firestorm	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 5 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 6 Deadly Tornado Outbreak	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 6 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 7 Zika Emergency	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities
		担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やものの見方を手に入れることができます。リスニングカとスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語 B	英語 B (展開コース) (人文 )								
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂本	輝世
ナンバリング番号	201ENG20	201ENG204								

この授業では、前期に引き続き、リスニングとスピーキングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。ABC World Newsを用いたテキストでは、実際に放映されたニュースを視聴し、時事問題についても学んでいく。フリップライティングのテキストでは、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。リスニング・ジャーナルなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていってもらいたい。

## 到達目標

- (1)スピーキング力を向上させる (2)リスニング力を向上させる (3)積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む (4)時事問題への理解を深める

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	25%	到達目標(1)について、期末英語スピーチによって評価							
レポート課題									
上記以外	75%	到達目標(1)について、単語クイズによって評価(15%) 到達目標(2)について、リスニング・ジャーナルによって評価(15%) 到達目標(2)について、聞き取りクイズによって評価(15%)							

正当な理由がなく4回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻3回で欠席1回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

#### 授業外学習

語学の学習は、週1回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	ABC World News 19	Shigeru Yamane/Kathleen Yamane	金星堂	9784764740310						
2	Write Your Ideas in 50 Words	Tetsuhito Shizuka	松柏社	9784881986899						
3										

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

## 前提学力等

講義名	英語 B	(展開コ-	-ス)	(人文 )	)					
講義コード	1110782	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	坂本	輝世
ナンバリング番号	201ENG20	4								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8 Yelp! Reviewer Beware	テキスト内容の確認と発展、English activities
第2回	Unit 8 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 9 Bridge Dangers	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 9 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 10 Sky High Bills	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 10 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 11 Big Change	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 11 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 13 Major Abortion Case	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 13 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 14 On Alert: Faith and Fear	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 14 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 15 Breaking Point	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 15 (Continued)	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	English speech preparation	クイズ、期末スピーチ準備、English activities
		担当者から一言

担当者から一言

実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やものの見方を手に入れることができます。リスニングカとスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	情報リテ	ラシー ( ヤ	青報倫	理を含む)	) (人文a)			40 V 教 早		
講義コード	1130090	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	<b> 森</b> 	将豪
ナンバリング番号	101 INF10	2							l	

		生活に資するだけでなく					
本講7	では高年次で開講され	,る講義や演習及び実習に!	必要とされる情報技	術,すなわち,Webブ	<sup>プ</sup> ラウザの操作と検索ッ	ールを用いた文献資料	検索技術
,電子>	メール,文書処理など	をMS Windows環境で習得 <sup>-</sup>	するとともに,情報	倫理についても学ぶ			
マー.7	て レポートや学術論	(文の作成の其木を翌得し	プレゼンテーショ	ンハノフトかどにより	学術論文発表の手法:	<b>を</b> 翌得する	

# 到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること:情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ,文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること:情報倫理についても理解を深めること. (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること. (3) 設定した問題に対し,彼我の論点を整理・対比させ,論理的に結論づけることができる.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我								
上記以外										

# 授業外学習

	教科書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

# テキストに代わる授業資料を配布する

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	知の技法:東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978- 4130033053								
2												
3												

## 前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと.

講義名	情報リテ	ラシー (情	青報倫	理を含む)	) (人文a)					
講義コード	1130090	1130090 単位数 2 開講期 前期 授業種別 講義								将豪
ナンバリング番号	101 I NF10	1011NF102								

	極業計画									
	タイトル 情報処理環境の基本構成と操作	111111								
第1回		・ 情報処理(演習室)環境の基本構成と利用方法 ・ パスワードの設定								
第2回	情報処理環境の慣熟操作と各種設 定	・ 情報処理(演習室)環境の慣熟操作 ・ 電子メールおよびインターネット環境の設定								
第3回	情報倫理について ~情報の保護と責務~	・ 個人情報の管理とインターネット使用上の留意点 ・ 電子メールの使い方について								
第4回	文書作成ソフトウエアの基礎	・ 文書作成ソフトウエアの起動と作成文書の保存(先) ・ 文書作成ソフトによるレポート作成の基本事項								
第5回	表現の形態 ~論文を書くとは~	・ 論文を書くとはどのようなことか , レポートとの相違点 ・ レポートを書くときの注意点 , 論文の標準的なスタイル								
第6回	論文作法 - 1 ~書式設定の詳細~	・ 文書を入力する(書く)前に必要なこと ・ 書式設定の詳細(マージン,フォントとサイズ,段組,等)								
第7回	図書館活用ガイダンス	・ 資料検索ツールおよび図書館での資料検索技術の習得								
第8回	論文作法 - 2 ~論文の構成~	・ 具体的な入力法(章だて,段落,脚注,インデント,など)								
第9回	論文作法 - 3 ~表データの可視化~	・ 作表および表データの可視化 ・ エクセルからの可視化データの読み込み , 等								
第10回	論文作法 - 4 ~論文の形式~	・ 論文の形式と文章の特徴(文体)								
第11回	情報倫理について ~剽窃は犯罪~	・ 情報発信と著作権侵害 ・ 知的財産権について								
第12回	論文作法 - 5 ~剽窃防止と文献引用~	・ 剽窃防止の徹底と文献引用の仕方について ・ 知的所有権と情報へのアクセスの確保								
第13回	論文作法 - 6 ~論文発表の基本~	・ パワーポイントを用いた論文発表の基本とその注意点								
第14回	表現の形態 ~まとめ~	・ 論文作法のまとめ ・ 作成課題 (「表現の形態~論文を書くこと」) の印刷								
第15回	課題レポートの準備	・ 課題レポート(小論文)について								
		担当者から一言								

実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておくことが必要です.

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)	) (人文b)			担当教員		
講義コード	1130100	30100   単位数   2   開講期   前期   授業種別   講義							亀田	彰喜
ナンバリング番号	101 INF10									

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webプラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

## 到達目標

- (1)情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。 (2)学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。

#### 授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版									
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店									
3												

	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

## 前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)	) (人文b)					
講義コード	1130100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	亀田	彰喜
ナンバリング番号	101 INF10	2								

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作								
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定								
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作								
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ								
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア								
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索								
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー								
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得								
第9回	レポートの基本	レポートと学術論文の概念と論文作成の基本								
第10回	情報収集と加工	レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本								
第11回	画像等の処理	レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本								
第12回	統計データ処理	レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本								
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学術論文の作成のまとめ								
第14回	課題の作成	レポート課題の作成								
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学術論文発表のまとめ								
		担当者から一言								

講義名	情報リテ	ラシー ( 🍴	青報倫	理を含む)	) (人文c)					
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	<b> 森</b> 	将豪
ナンバリング番号	101 INF10	2				_				

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく,大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である. 本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術,すなわち,Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術電子メール,文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに,情報倫理についても学ぶ. そして,レポートや学術論文の作成の基本を習得し,ブレゼンテーションソフトなどにより,学術論文発表の手法を習得する.

## 到達目標

- (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること:情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ,文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること:情報倫理についても理解を深めること. (2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること. (3) 設定した問題に対し,彼我の論点を整理・対比させ,論理的に結論づけることができる.

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1)大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること、情報ネットワークの活用によって学術学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができること、情報倫理についても理解を深めること、(2)論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること、(3)設定した問題に対し、彼我
上記以外		

#### 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

## テキストに代わる授業資料を配布する

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	知の技法:東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	4130033050/978- 4130033053							
2											
3											

## 前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと.

講義名	情報リテ	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文c)								
講義コード	1130110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	森	将豪
ナンバリング番号	101 INF10	101 INF102								

		1位 개 +   ㅡ							
授業計画									
回数	タイトル 情報処理環境の基本構成と操作	概要 ・ 情報処理(演習会)環境の其木構成と利用方法							
第1回		・ 情報処理(演習室)環境の基本構成と利用方法 ・ パスワードの設定							
第2回	情報処理環境の慣熟操作と各種設 定	・ 情報処理(演習室)環境の慣熟操作 ・ 電子メールおよびインターネット環境の設定							
第3回	情報倫理について ~情報の保護と責務~	・ 個人情報の管理とインターネット使用上の留意点 ・ 電子メールの使い方について							
第4回	文書作成ソフトウエアの基礎	・ 文書作成ソフトウエアの起動と作成文書の保存(先) ・ 文書作成ソフトによるレポート作成の基本事項							
第5回	表現の形態 ~論文を書くとは~	・ 論文を書くとはどのようなことか , レポートとの相違点 ・ レポートを書くときの注意点 , 論文の標準的なスタイル							
第6回	論文作法 - 1 ~書式設定の詳細~	・ 文書を入力する(書く)前に必要なこと ・ 書式設定の詳細(マージン,フォントとサイズ,段組,等)							
第7回	図書館活用ガイダンス	・ 資料検索ツールおよび図書館での資料検索技術の習得							
第8回	論文作法 - 2 ~論文の構成~	・ 具体的な入力法(章だて,段落,脚注,インデント,など)							
第9回	論文作法 - 3 ~表データの可視化~	・ 作表および表データの可視化 ・ エクセルからの可視化データの読み込み , 等							
第10回	論文作法 - 4 ~論文の形式~	・ 論文の形式と文章の特徴(文体)							
第11回	情報倫理について ~剽窃は犯罪~	・ 情報発信と著作権侵害 ・ 知的財産権について							
第12回	論文作法 - 5 ~剽窃防止と文献引用~	・ 剽窃防止の徹底と文献引用の仕方について ・ 知的所有権と情報へのアクセスの確保							
第13回	論文作法 - 6 ~論文発表の基本~	・ パワーポイントを用いた論文発表の基本とその注意点							
第14回	表現の形態 ~まとめ~	・ 論文作法のまとめ ・ 作成課題 (「表現の形態~論文を書くこと」) の印刷							
第15回	課題レポートの準備	・ 課題レポート(小論文)について							
		担当者から一言							

153.81/2 8

実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておくことが必要です.

講義名	情報リテラシー(情報倫理を含む)(人文d)									
講義コード	1130120 単位数 2 開講期 前期 授業種別 演習	担当教員	山本 洋紀							
ナンバリング番号	101 INF102									
	授業概要									
情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。										

ってし	情報機器はありふれた存在になり、これらを活用し、効率的に仕事をこなしていくことが今後とも求められている。本演習では今後学習や研究を行っていく上で必要とされるレポート作成や論文作成に役立つワープロおよび表計算を中心とした情報処理技術の習得を目指す。使用するOSはWindowsとし、学習用のアプリケーションとしてはWord、Excelなどを用いる。また技術的な面だけでなく、情報化社会において必要な倫理観を養うことも目指す。										
				到達日標							
(2	到達目標 (1) 本学演習室が利用できるように環境を整えること。 (2)情報化社会における倫理について自分の考えが持てるようになること。 (3)情報を発信する際必要となるルールやマナーを身につけること。 (4)ワープロの機能を活用し文書作成ができるようになること。 (5)表計算ソフトの仕組みを理解し、簡単なデータ集計ができるようになること。										
	1 <del>1</del> Dil	如人(*/)		成績評価							
	種別	割合(%)	評価基準等								
レ	ポート課題										
-	上記以外	100	各回の出席および演習課	題の提出(80%)と最終課題	夏の達成度(20%)	•					
各回(	の演習課題が	授業時間内	内に提出できなかった場合	授業外学習は、必ず、次回までに提出		た、進度に応じて宿題を	- :課す。				
				教科書							
No		書	籍名	著者名		出版社	ISBN/ISSN				
1											
2											
3 初回記	 講義時に指示	 する。									
				参考書							
No		<b>建</b> :				 出版社	ISBN/ISSN				
1			TA M	T I		LLI/NA I.L.					
2											
3	3										
	—————————————————————————————————————										
	履修資格										

講義名	情報リテ	ラシー (†	青報倫	理を含む)	) (人文d)					
講義コード	1130120	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	山本	洋紀
ナンバリング番号	101 INF10	1011NF102								

対	授業計画								
図画技衆   文献検索の方法	回数								
第3回 ** Indowsの基本	第1回								
第4回 電子メール 電子メールのしくみ、マナー 電視倫理 (1) インターネットの利用と安全性 情報倫理 (2) 著作権、研究倫理 第7回 ARROによる文書作成(1) 基本機作 ARROによる文書作成(2) 書式 ARROによる文書作成(3) 表 ARROによる文書作成(4) 図 Excelによる表計算(1) 基本機作 Excelによる表計算(2) 書式 Excelによる表計算(3) 関数 Excelによる表計算(4) グラフ 第13回 を Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 第26回 第27回 ARROによる文書作成 ARROによる文書作成 ARROによる文書作成 ARROによる表計算(4) グラフ 第15回 第26回 ARROによる文書作成 ARROによ	第2回								
第5回 情報信理(1) インターネットの利用と安全性 第6回 情報信理(2) 著作権、研究倫理 第7回 MCPDによる文書作成(1) 基本操作 第8回 MCPDによる文書作成(2) 書式 第1回 Excelによる表計算(1) 基本操作 第11回 Excelによる表計算(2) 書式 第1回 Excelによる表計算(2) 書式 第1回 Excelによる表計算(3) 開致 第1回 Excelによる表計算(3) 開致 第1回 McDによる表計算(3) 開致 第1回 McDによる表計算(4) グラフ 第1回 McDによる表計算(5) 開立 第1回 McDによる表計算(6) グラフ 第1回 McDによる表計	第3回								
第6回 情報倫理(2) 著作権、研究倫理 第7回 MONDによる文置作成(1) 基本操作 第8回 MONDによる文置作成(2) 型式 第9回 MONDによる文質作成(4) 図 第11回 Excelによる表計算(1) 基本操作 第12回 Excelによる表計算(2) 超式 第13回 Excelによる表計算(2) 超式 第14回 Excelによる表計算(3) 別数 第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 のordとExcelの連携による文置作成 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回 第15回	第4回	電子メール	電子メールのしくみ、マナー						
##OU MONDによる文書作成(1) 基本操作  ##OU MONDによる文書作成(2) 書式  ##OU MONDによる文書作成(3) 表  ##OU MONDによる文書作成(4) 図  ##III Excelによる表計算(1) 基本操作  ##III Excelによる表計算(2) 書式  ##III Excelによる表計算(3) 開致  ##III Excelによる表計算(3)	第5回	情報倫理(1)	インターネットの利用と安全性						
#80	第6回	情報倫理(2)	著作権、研究倫理						
第9回 1000による文書作成(4) 図	第7回	WORDによる文書作成 (1)	基本操作						
第10回 WORDによる支書作成(4) 図 基本操作 第12回 Excelによる表計算(1) 基本操作 第13回 Excelによる表計算(2) 置式 第13回 Excelによる表計算(3) 関数 第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成	第8回	WORDによる文書作成 (2)	書式						
第11回 Excelによる表計算(1) 基本操作 第12回 Excelによる表計算(2) 書式 第13回 Excelによる表計算(3) 関数 第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成	第9回	WORDによる文書作成 (3)	表						
第12回 Excelによる表計算(2) 書式 第13回 Excelによる表計算(3) 関数 第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成	第10回	WORDによる文書作成 (4)	図						
第13回 Excelによる表計算(3) 開数 第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成	第11回	Excelによる表計算(1)	基本操作						
第14回 Excelによる表計算(4) グラフ 第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成	第12回	Excelによる表計算(2)	書式						
第15回 総合演習 WordとExcelの連携による文書作成 Wordと Note Note Note Note Note Note Note Note	第13回	Excelによる表計算(3)	関数						
94 10 H	第14回	Excelによる表計算(4)	グラフ						
担当者から一言	第15回	総合演習	WordとExcelの連携による文書作成						
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
担当者から一言									
			担当者から一言						

講義名	情報科学	情報科学概論(人文b)							@m = ***	
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	亀田	彰喜
ナンバリング番号	101 I NF10	1								

挼		

インターネッ	ルトや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に <b>、</b>	こ、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法に
ついて学ぶ。	特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、	表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学
ぶ。さらに、	学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などにつ	いっても学ぶ。

## 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

# 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店								
2											
3											

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

講義名	情報科学	概論(人)	文b)							
講義コード	1130200	単位数	2	開講期	後期	授業種別	担当教員	亀田	彰喜	
ナンバリング番号	101 INF10	1								

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理									
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理									
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本									
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成									
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用									
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論									
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用									
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用									
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本									
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本									
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理									
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析									
第13回	第13回 データの検定 学術論文の作成とデータの検定										
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成									
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ									
		担当者から一言									

講義名	情報科学	概論(人)	文a)							
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	森	将豪
ナンバリング番号	101 I NF10	)1							l	

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし,高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の 手法について学ぶ. 特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について,表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ. さらに,学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ.

## 到達目標

- (1) 数式パーに自由に計算式を書くことができ,かつ組込関数も利用できる. (2) 表の可視化を行うことができ,それについて科学的な考察を加えることができる. (3) What-If分析を理解し,応用できる. (4) 回帰分析を理解し,収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる. (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる.

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ,かつ組込関数も利用できる.(2) 表の可視化を行うことができ,それについて科学的な考察を加えることができる.(3) What-If分析を理解し,応用できる.(4) 回帰分析を理解し,収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる.(5)アンケート分析の手法を理解するとと
上記以外		

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# テキストに代わる授業資料を配布する

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390							
2											
3											

授業中に随時担当教員から示される.

## 前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること.初等統計学の基礎を理解していることが望ましい.

講義名	情報科学	概論(人ゝ	₹a)							
講義コード	1130210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	森	将豪
ナンバリング番号	101 INF10	1								

	· / · · · ·										
	授業計画 同数 タイトル										
回数	タイトル	概要									
第1回	情報処理環境の慣熟操作と表計算 ソフトの概要	・ 表計算ソフト(S-sheet)の概要 ・ Excel機能のいくつかの重要なポイント									
第2回	セルの概念と基本操作 	・ カーソルの形と意味・文字列,数値,数式,書式設定 ・ データの移動・複写・変更・消去,等									
第3回	行と列の基本操作	・ 行・列データの計算.数式を自分で書くvs組込関数群 ・ 表の装飾,表データの可視化									
第4回	What-If分析 - 1	・ ケーススタディ・モデル ・ 相対番地と絶対番地									
第5回	What-If分析 - 2	・ 利益計画シミュレーション ・ シナリオマネージャ									
第6回	What-If分析 - 3	・ Diet Planモデル ・ IF文とゴールシーク									
第7回	回帰分析	・ 分析ツール ・ 相関図と回帰分析,回帰直線,最小2乗法									
第8回	単回帰分析	・ 度数分布表と散布図 ・ グラフに合う回帰直線の式,重決定係数									
第9回	演 習 (課題) ~表にまとめて可視化する~	・課題の演習									
第10回	重回帰分析	<ul><li>分析ツールと説明変数が2つの場合</li><li>p値の理解</li></ul>									
第11回	データ集計 - 1	・ アンケート分析の方法 ・ 頻度の集計,合計・平均,階級別ヒストグラム化									
第12回	データ集計 - 2	・ クロス集計とピボットテーブル ・ 集計方法									
第13回	データベース機能 - 1	<ul><li>・ リレーショナルデータベース</li><li>・ ソーティングと検索</li></ul>									
第14回	データベース機能 - 2	・ フィルタリング ・ マクロ処理(プログラミング)									
第15回	課題レポートの準備	・ まとめ ・ 課題レポートについて									
		担当者から一言									

実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておくことが必要です.

講義名	情報科学	概論(人)	文c)							
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	<b> 森</b> 	将豪
ナンバリング番号	101 I NF10	1								

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし,高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の 手法について学ぶ. 特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について,表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ. さらに,学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ.

## 到達目標

- (1) 数式パーに自由に計算式を書くことができ,かつ組込関数も利用できる. (2) 表の可視化を行うことができ,それについて科学的な考察を加えることができる. (3) What-If分析を理解し,応用できる. (4) 回帰分析を理解し,収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる. (5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計ができる.

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ,かつ組込関数も利用できる.(2) 表の可視化を行うことができ,それについて科学的な考察を加えることができる.(3) What-If分析を理解し,応用できる.(4) 回帰分析を理解し,収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる.(5)アンケート分析の手法を理解するとと
上記以外		

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# テキストに代わる授業資料を配布する

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	初等統計学	P.G.ホーエル	培風館	978-4563008390							
2											
3											

授業中に随時担当教員から示される.

## 前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解(講義「情報リテラシー」を修得)していること.初等統計学の基礎を理解していることが望ましい.

講義名	情報科学	概論(人ゝ	ζc)							
講義コード	1130220	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	森	将豪
ナンバリング番号	101 INF10	1								

		授業計画
 回数	タイトル	概要
<del></del>	情報処理環境の慣熟操作と表計算   ソフトの概要	・ 表計算ソフト(S-sheet)の概要 ・ Excel機能のいくつかの重要なポイント
第2回	セルの概念と基本操作	・ カーソルの形と意味・文字列,数値,数式,書式設定 ・ データの移動・複写・変更・消去,等
第3回	行と列の基本操作	・ 行・列データの計算.数式を自分で書くvs組込関数群 ・ 表の装飾,表データの可視化
第4回	What-If分析 - 1	・ ケーススタディ・モデル ・ 相対番地と絶対番地
第5回	What-If分析 - 2	・ 利益計画シミュレーション ・ シナリオマネージャ
第6回	What-If分析 - 3	・ Diet Planモデル ・ IF文とゴールシーク
第7回	回帰分析	・ 分析ツール・ 相関図と回帰分析,回帰直線,最小2乗法
第8回	単回帰分析	・ 度数分布表と散布図 ・ グラフに合う回帰直線の式,重決定係数
第9回	演習 (課題) ~表にまとめて可視化する~	・ 課題の演習
第10回	重回帰分析	・ 分析ツールと説明変数が 2 つの場合 ・ p値の理解
第11回	データ集計 - 1	・ アンケート分析の方法 ・ 頻度の集計,合計・平均,階級別ヒストグラム化
第12回	データ集計 - 2	・ クロス集計とピボットテーブル ・ 集計方法
第13回	データベース機能 - 1	<ul><li>・ リレーショナルデータベース</li><li>・ ソーティングと検索</li></ul>
第14回	データベース機能 - 2	・ フィルタリング ・ マクロ処理(プログラミング)
第15回	課題レポートの準備	・ まとめ ・ 課題レポートについて
		担当者から一言

実習が主になる授業ですので、授業で習った内容について次の授業までに必ず復讐しておくことが必要です.

講義名 情報	<b>与報科学</b> 相	既論(人文	₹d)							
講義コード 113	130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	亀田	彰喜
ナンバリング番号 10分	01 INF101									

挼		

インターネッ	·トや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法に
ついて学ぶ。	特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学
ぶ。さらに、	学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

## 到達目標

- (1) Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。(2) データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を 提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

# 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版								
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

講義名	情報科学	概論(人)	文d)							
講義コード	1130230	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	亀田	彰喜
ナンバリング番号	101 INF10	)1								

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理									
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理									
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本									
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成									
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用									
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論									
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用									
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用									
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本									
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本									
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理									
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析									
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定									
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成									
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ									
		担当者から一言									

講義名	人間探求	学(人間	関係)						     学科教員 / 上野   7   木村   裕 / 後藤   9	与理 / 大野 崇志 / 杉浦	光明 / 由香里 /	
講義コード	1150350	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員		表示 / 杉/開 未来 / 細馬 真央	宏通/	
ナンバリング番号	101HUM10	)1							YA	共大		

授業概要	

学生自らが人間関係学科での学びを探求し、新しい視点を発	想・発見することを支援する。
対話型の少人数学習の機会も設定し、個々の学生の質や能力	、理解度に応じた学習を支援する。

# 到達目標

自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えをじっくり理解する能力を養い、さらに多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験								
レポート課題								
上記以外	100	リアクションペーパー・小テスト(50%) レジュメ作成・ディスカッションへの参加・レポート(50%)						

# 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

テキストについては、講義中に指示する。

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

参考書については、講義中に指示する。

# 前提学力等

講義名	人間探求	学(人間	関係)					学科教員/上野 有理/大野 光明/ 木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/	
講義コード	1150350	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央
ナンバリング番号	101HUM10	1							竹山崎   万四   九山   兵不

	授業計画							
回数	タイトル	概要						
第1回	カリキュラムガイダンス	大学での学びを充実させるために何に留意すべきか、履修登録に先立ち、カリキュラムガイダンスを 行う。						
第2回	大学で学ぶとういうこと	大学で学ぶということの意味や意義および、大学での学びを進めるために必要となる基本的な知識やスキルについて講じる。						
第3回	図書情報センターの活用法	ライブラリーツアーを行ない、図書情報センターの機能や活用法を紹介する。						
第4回	レポート・論文の書き方 基礎	レポートや論文の基本的な型、作法について講じる。						
第5回	(学科人権研修)							
第6回	レポート・論文の書き方 実践	レポートや論文の基本的な型、作法にかかわって実習・演習させる。						
第7回	デジタルリテラシーの基礎	デジタルリテラシーとは何か、情報媒体の活用法と情報倫理についての講じる。						
第8回	社会情報の収集と活用	新聞など社会情報の活用法について講じる。						
第9回	人間関係学科で学ぶということ	人間関係論関連領域の教育研究が、人間の発達やコミュニケーションへの理解、市民的教養の構築に いかに関与するかを講じる。						
第10回	(学部防犯講習)							
第11回	ゼミの基本	各教員毎に分かれ、少人数の演習を行う(6~7人グループ×5)。資料をもとに報告資料を作成し、プレゼンし、質疑応答および議論という一連の流れを経験することでその方法を学ぶ。						
第12回	ゼミの基本	各教員毎に分かれ、少人数の演習を行う(6~7人グループ×5)。資料をもとに報告資料を作成し、プレゼンし、質疑応答および議論という一連の流れを経験することでその方法を学ぶ。						
第13回	ゼミの基本	各教員毎に分かれ、少人数の演習を行う(6~7人グループ×5)。資料をもとに報告資料を作成し、プレゼンし、質疑応答および議論という一連の流れを経験することでその方法を学ぶ。						
第14回	ゼミの基本	各教員毎に分かれ、少人数の演習を行う(6~7人グループ×5)。資料をもとに報告資料を作成し、プレゼンし、質疑応答および議論という一連の流れを経験することでその方法を学ぶ。						
第15回	ゼミの基本	各教員毎に分かれ、少人数の演習を行う(6~7人グループ×5)。資料をもとに報告資料を作成し、プレゼンし、質疑応答および議論という一連の流れを経験することでその方法を学ぶ。						
		担当者から一言						
		J						

講義名	川の未来	<del></del> 学										
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	村上	修一		
ナンバリング番号												

本科目は,専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる,川の問題をとりあげる。まず,国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に,川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で,川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

## 到達目標

- (1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。 (2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。 (3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験	0							
レポート課題	0							
上記以外	100	到達目標 (1): ワークシート1 (30%) 到達目標 (2): ワークシート2 (30%) 到達目標 (3): ワークシート3 (40%)						

ワークシート1,2,3は,それぞれ第5,10,14回の授業時間内に履修生が記述し,回収される。第6,11,15回に解説が行われ,履修生は理解を深める。

#### 授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	第十堰日誌	<b>姫野雅義</b>	七つ森書館	978-4822811426						
2	吉野川住民投票 市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922						
3	再帰的近代の政治社会学 吉野川可動堰問題と 民主主義の実験	久保田滋 他	ミネルヴァ書房	978-4623050826						

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

講義名	川の未来	学								
講義コード	1150451	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	村上	修一
ナンバリング番号	·									

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	あなたにとって川とは?	川との関わりを再認識し,川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。							
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。							
第3回	川の未来像を決める最初の一歩	河川整備基本方針の内容を理解する。							
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは?	河川整備計画の内容を理解する。							
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。							
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。							
第7回	これだけは変えられない?	川の未来像を決める二重構造 - 河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。							
第8回	川は「溝」なのか?	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。							
第9回	川の未来像を決める「みんな」とは?	流域委員会の現状と問題点を理解する。							
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。							
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。							
第12回	国内の事例にはどのようなヒント がある?	川の未来像の決め方はどうあるべきか,新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。							
第13回	海外の事例にはどのようなヒント がある?	川の未来像の決め方はどうあるべきか,新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。							
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。							
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。							
		担当者から一言							

講義名	比較住居	論								
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	藤木	庸介
ナンバリング番号	101HUM17	01HUM1761,33RED121,135LAH206								

	- 地域に固有な(ヴァナキュラーな)さまざまな住まいが存在する。ヴァナ	
ついて、主に中国、東南アジアから西アジア、	インド、アフリカ、ヨーロッパの事例を紹介しながら、その形式や技術、	住まいに対する思想につい
て解説するとともに、風土、歴史、文化、社会	除制度、生活様式など多様な観点から、その構成原理を考える。	

# 到達目標

- (1)世界の多様な住居のあり方を理解し、事例を挙げて説明ができる。(2)人々の生活と住居構成に関する相関性を理解し、説明ができる。(3)様々な居住文化のあり方に対して、自らの生活を相対化して位置づけられる。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題										
上記以外	100	到達目標に挙げた(1)(2)(3)の内容を包含した小テスト 2 回により評価。 成績への寄与率は小テストの合計を100%とし、60%以上を合格とする。								

# 授業外学習

教科書、並びに授業で配布されるプリントを復読することが望ましい。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	住まいがつたえる世界のくらし-今日の居住文 化誌	藤木庸介(編)	世界思想社							
2										
3										

教科書は2回目授業から使用する。

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

教科書に記載の無い講義内容については、プリントを配布する。

前提学力等

講義名	比較住居	論								
講義コード	1150460	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	藤木	庸介
ナンバリング番号	101HUM17	101HUM1761,33RED121,135LAH206								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	本講義の内容と目的、講義の進め方、評価の方法等を解説する。							
第2回	中国の住居(1)	中国北部の居住文化と住居構成について解説する。							
第3回	中国の住居(2)	中国中部の居住文化と住居構成について解説する。							
第4回	中国の住居(3)	中国南部の居住文化と住居構成について解説する。							
第5回	世界のトイレ事情・世界のスラム 事情	世界におけるトイレ文化、スラム街とそこでの暮らしなどについて解説する。							
第6回	東アジアの住居(1)	台湾、フィリピン等の居住文化と住居構成について解説する。							
第7回	東南アジアの住居(1)	インドネシア、マレーシア等の居住文化と住居構成について解説する。							
第8回	東南アジアの住居(2)	タイ、ラオス、ベトナム等の居住文化と住居構成について解説する。							
第9回	西アジアの住居(1)	イラク南部におけるかつての居住文化と住居構成について解説する。							
第10回	西アジアの住居(2)	トルコにおけるかつての居住文化と住居構成について解説する。							
第11回	インドの住居	インド北部の居住文化と住居構成について解説する。							
第12回	アフリカの住居(1)	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。							
第13回	アフリカの住居(2)	アフリカ北部の居住文化と住居構成について解説する。							
第14回	ヨーロッパの住居	ヨーロッパん南東部の居住文化と住居構成について解説する。							
第15回	まとめ	本講義の総括を行い、居住文化と住居構成の多様性について考察を行う。							
		担当者から一言							

講義名	History	of Japane	ese Ci	nema			_		
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号									

History of Japanese Cinema is a two-credit culture studies course that examines Japan's world-renowned cinematic output over the last one hundred years. The defining developmental periods and golden eras of Japanese cinema will be examined through the work of major studios, auteur directors and their landmark films. The course will contextualise changes within the film industry and aesthetic developments against the socio-cultural background of particular periods (e.g. post-war/late modern, postmodern).

## 到達目標

This course aims to:

- 1. Deliver a comprehensive introductory course on the history of Japanese narrative cinema; one tailored for students who are not film majors.
- 2. Instruct students on approaches to film analysis as a means to broaden their study of Japanese society and culture.
- 3. Encourage students to develop a scholarly appreciation of film.

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題	60	Mid-term paper (30%), Final Review paper (30%)							
上記以外	40	Group Presentation: Film Review.							

Students are required to write and submit two 'film review' papers (mid-term, final). Students will also complete a group presentation project - a critical review of a Japanese film.

#### 授業外学習

This is a lecture-based course. Due to time limitations, only film clips will be screened in class. Students will be provided with access to lecture materials and readings online.

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

## 前提学力等

No prior film studies knowledge is required. Non-native speakers of English should ideally have a solid intermediate skill level (e.g. TOEFL iBT score of around 70).

講義名	History	of Japane	se Ci	nema					
講義コード	1150540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号									

授業計画							
回数	タイトル	概要					
第1回	Introduction	Course Overview. An Introduction to Film Studies: Paradigms, Concepts and Theories.					
第2回	The Birth of an Industry	Early Developments in Japanese Film. Experimentalism and Art Movements.					
第3回	The 1st Golden Age	The 1920's and 1930's: The 1st 'Golden Age' of Japanese Film. Modernist influences. Studios & Genre (Gendai-geki. Jidai-geki)					
第4回	Propaganda & Censorship	National policy films and the motion picture law. Post-war occupation and censorship: Critical reactions in Japanese film.					
第5回	The 2nd Golden Age Part I	Gendai-geki films. Post-occupation humanism in Japanese film. Director case studies: Mikio Naruse, Yasujiro Ozu.					
第6回	The 2nd Golden Age Part 2	Jidai-geki films. Director case studies: Kenji Mizoguchi, Akira Kurosawa.					
第7回	Voices of Rebellion	Sun Tribe (taiyozoku) films. Japanese 'New Wave' Cinema. Director Case Studies: Shohei Imamura, Nagisa Oshima.					
第8回	Post-Modern Transitions	Studio decline and the rise of independent film. Sex, violence and dark satire in indie film.					
第9回	The Yakuza on Film	A Brief History of Yakuza Films. Director Case Studies: Juzo Itami, Takeshi Kitano.					
第10回	Monsters, Ghosts and Horror	Tokusatsu and Daikaiju Movies. 'Vengeful Spirits'– Narrative themes in Japanese Horror. Nouvelle horror genre and western remakes.					
第11回	A Settled Picture	Genre films and Anime. Current industry Status and notable recent releases.					
第12回	The Fictive Japan in Western Film	Representing Japan in Western Film. Semiotics and film analysis.					
第13回	Japanese Documentary Films	Styles of documentary (non-fiction film). The value of documentary as ethnography.  Documenting Japanese society.					
第14回	Group Presentations	Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback.					
第15回	Group Presentations/ Course Review	Groups will present a critical review of a Japanese film. Class Q&A and feedback. Course Review and final questions.					
	•	担当者から一言					

担当者から一言

Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. This includes completing background readings and watching films.

講義名	Patterns	in Japar	ese C	ulture &	Society				
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号									

This introductory Japan studies course sets out to critically examine paradigms that have shaped academic and lay perceptions of Japanese social structures, identity and collective consciousness. The selection of topic domains is intended to underpin a broad based contextual analysis of contemporary social issues facing Japan. Concordantly, this enquiry is supported by an interdisciplinary conceptual framework that draws on salient perspectives from sociology, social psychology and cultural studies. The course adopts a simple unit structure and a lecture / seminar format. Students will be expected to participate actively in seminar discussions.

#### 到達目標

- To introduce the research principles that define interdisciplinary sociocultural studies.
   To encourage students to adopt an interdisciplinary perspective towards sociocultural studies of Japan.
   To stimulate informed debate about contemporary issues affecting Japanese society.

成績評価						
種別	割合(%)	評価基準等				
定期試験						
レポート課題	40	Essay				
上記以外	60	Seminar Review Questions [30] / Participation in group work and class discussions [30].				

Students are required to write and submit: (1) A short essay on a relevant topic from the course, (2) Long paragraph answers to 4 review questions taken from the seminar classes.

#### 授業外学習

教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

## 前提学力等

講義名	Patterns	in Japan	ese C	ulture &	Society				
講義コード	1150550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	Carl John Boland
ナンバリング番号									

授業計画										
D数   タイトル   概要										
第1回		Course Overview / Interdisciplinary Sociocultural Studies / Geopolitics and the shaping of modern Japan.								
第2回	Seminar 1: Cross-Cultural Influence	Group work and class discussions. litoko-dori / From Japonisme to Cool Japan.								
第3回	Lecture 2: Japan Studies	Japan Studies: Paradigms & Debates / Cultural Relativism / Emic & Etic Concepts.								
第4回	Seminar 2: 'In the Field'	thnography and Fieldwork. Group work and discussions based on lecture 2 and HW readings.								
第5回	Lecture 3: The Empire of Signs	Semiotics and Cultural Studies / Filmic Representations of Japan.								
第6回	Seminar 3: Food Culture	Analysing Japanese Food Culture / Group work and discussions based on lecture 3 and HW readings.								
第7回	Lecture 4: Lensing the Media	Patterns in the Japanese media / Censorship and scandals.								
第8回	Seminar 4: Japanese Advertising	Analysing patterns in Japanese advertising / Group work and discussions based on lecture 4 and HW.								
第9回	Lecture 5: Social Structure	The Family System / Social Stratification / Wealth & Cultural Capital / Social Order.								
第10回	Seminar 5: Beneath the Veneer	Documentary Analysis / Group work and discussions based on lecture 5 and HW.								
第11回	Lecture 6: The Japanese Mind	The Self and Social Identity / Collectivism / Emic Psychological Concepts.								
第12回	Lecture 7: The Societal Conundrum	Japan's social demographic dilemmas / Economic impacts.								
第13回	Seminar 6: Engineering Social Change	Group work and discussion based on lectures 6, 7 and HW.								
第14回	Lecture 8: The Road Ahead	Recent Political History / Abenomics / Social Policy / Geopolitics / Regional Security.								
第15回	Seminar 7: Japan 2020	Course Review / Group work and discussions / Essay preparation workshop.								
		担当者から一言								

Students must have English skills that allow them to participate actively in class discussions as well as a good standard of academic writing for assignments. Having a TOEFL ibt level of 70 or higher is advisable, or a study abroad experience.

講義名	Model Un	ited Stat	es of	America			+D.V. *		
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	Benjamin John McCracken
ナンバリング番号									

Model USA is an educational simulation in which students will learn about the United States of America (	("USA") and its unique form
of government. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a	senator from one of the 50
states that make up the USA. Through this process students will build public speaking, debating, and wi	riting skills, in addition to
critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and unders	stand people from the USA.

### 到達目標

(1) Students will learn about US history and how it impact the current policital environment. (2) Students will learn about the US governmental system and the role political parties play in it. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.								
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities.								

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

### 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the US. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

### 前提学力等

講義名	Model Un	ited Stat	es of	America					
講義コード	1150560	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	Benjamin John McCracken
ナンバリング番号									

	ファ <u>田</u> コ	ATT NV + 1							
回数     タイトル       概要									
回数	Introduction	概要 Course overview							
第1回									
第2回	Basic USA History	Lecture on US history							
第3回	US Government I	Lecture on the US governmental system							
第4回	US Government II	Lecture on the US governmental system							
第5回	Seminar I	Group work - Students will be devided into states and assigned political parties and committees							
第6回	Political Parties	Lecture on US political parties							
第7回	Seminar II	Group work - Students prepare for presentations on US states and issue presentations							
第8回	State Presentations I	Students present on their respective states							
第9回	State Presentations II	Students present on their respective states							
第10回	Seminar III	Group work - Students prepare for issue presenations							
第11回	Issue and disucssion I	Students present and discuss issue in mock debate							
第12回	Issue and discussion II	Students present and discuss issue in mock debate							
第13回	Issue and discussion III	Students present and discuss issue in mock debate							
第14回	Issue and discussion IV	Students present and discuss issue in mock debate							
第15回	Review	Course review and essay preperation workshop							
		担当者から一言							

Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	Model Un	ited Nati	ons				<b>七</b>		
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	Benjamin John McCracken
ナンバリング番号									

Model United Nations is an educational simulation in which students will learn about the United Nations (UN) and its role in the world. This course requires students to research issues and topics, which they will debate as a representative of from one of of the many nations that make up the UN. Through this process students will build public speaking, debating, and writing skills, in addition to critical thinking, teamwork, and leadership abilities. Students will also learn to empathize and understand people from around the world.

### 到達目標

(1) Students will learn about the history of the United Nations and how it impacts our world. (2) Students will learn about parlimentary procedure and how issues are debated at the UN. (3) Students will learn current events and debate potential solutions to these issues. (4) Students will learn to present facts and conduct a debate inorder to reach a solution to a problem.

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	Students will write a three page paper on their expereince.
上記以外	80	Presentation 30 points x2 and 20 points for particpation in class and group activities.

Students are expected to actively participate in class. Failure to activily participate will cause grades to be reduced.

### 授業外学習

Students will need to be aware of current events in the world. Students will need to spend some time outside of class reading online newspapers or doing online research.

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

### 前提学力等

講義名	Model Un	ited Nati	ons						
講義コード	1150570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	Benjamin John McCracken
ナンバリング番号							·		

回数	タイトル	概要								
第1回	Introduction	Course overview								
第2回	History of the UN	Introduction to the UN and its history								
第3回	Parlimentary Procedure	Introduction to parlimentary procedure and roberts rules of order								
第4回	Simulation Practice simulation									
第5回	Seminar I	Group work - Students will be devided into countries and assigned committees								
第6回	Seminar II	Lecture on committees. Group work - Students prepare for country presentations								
第7回	Seminar III	Group work - Students prepare for country presnetations								
第8回	Country Presentations I	Students present on their respective countries								
第9回	Country Presentations II	Students present on their respective countries								
第10回	Seminar IV	Group work - Students prepare for issue presentations and discussion								
第11回	Issue I	Students present and discuss issue in mock debate								
第12回	Issue II	Students present and discuss issue in mock debate								
第13回	Issue III	Students present and discuss issue in mock debate								
第14回	Issue IV	Students present and discuss issue in mock debate								
第15回	Review	Course review and essay workshop								
		担当者から一言								

Students will be provided with all materials including handouts that are intended for self-study.

講義名	政治学									
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	望月	詩史
ナンバリング番号	212PEL30	1,235LAH	304							

本講義では「政治学の世界」をテーマに、「政治」とは何であり、「政治学」とはどのような学問であるのかについて考えていきたい。そして政治学の各分野を取り上げながら、政治現象をどのような観点から分析しているのかについて詳しく見ていく。 政治というと、議員や議会を思い浮かべる人が多い。確かに政治における重要なアクターであることは事実だが、決してそれらの専有物ではない。好むと好まざるとに関わらず、政治は私たちの日常生活と密接不可分の関係にある。そこで政治に係わる時事問題も積極的に取り上げていきたい

。 政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本 講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。 本講義の内容は、公務員試験(教養試験「社会科学(政治)」や専門試験「政治学」)にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は 積極的に受講してもらいたい。

### 到達目標

- (1)「政治」、「政治学」とはどのような現象、学問であるのかを理解することができる。 (2)政治現象に対する問題意識を持つことができる。 (3)過去と未来への視座を含みながら現在を考えることができる。 (1)「政治」

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標(1)(2)(3)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」 をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

### 授業外学習

- (1)授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。(2)新聞やニュースに目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ファンダメンタル政治学 [ 増補改訂版 ]	等松春夫監修・竹本知行、尾崎庸 介編	北樹出版	9784779303678
2				
3				

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	政治学入門	阿部齊	岩波書店	978-4000260015								
2	政治学への道案内	高畠通敏	講談社	978-4062921107								
3	政治学をつかむ	苅部直ほか	有斐閣	978-4641177154								

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

講義名	政治学									
講義コード	1201980	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	望月	詩史
ナンバリング番号	212PEL30	1,235LAH3	804							

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	政治学の世界								
第2回	政治とは何か	「政治」の定義、政治と権力								
第3回	国家の誕生とその変遷									
第4回	統治	憲法								
第5回	統治	議会制度・司法制度ほか								
第6回	各国の政治制度	アメリカ・イギリス・フランス・ドイツほか								
第7回	各国の政治制度	日本・中国・韓国								
第8回	選挙	選挙の原則・機能・選挙制度の分類								
第9回	選挙	日本の選挙制度								
第10回	政治体制と政治変動									
第11回	政党・政治家・官僚									
第12回	圧力(利益)団体									
第13回	政治意識と投票行動									
第14回	マスメディアと世論									
第15回	まとめ	現代政治の行方								
	1	担当者から一言								

講義名	政治学	(国際政治	台を含	む)						
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	望月	詩史
ナンバリング番号	212PEL30	5,235LAH3	305							

本講義では、政治思想と国際政治を取り上げる。
政治思想では、古代から近代までの各時代を代表する思想家や知識人に焦点を当てながら、主要な政治思想を取り上げる。「 主義」という政治概念が頻繁に登場するが、できる限り具体的な中身を明らかにしていきたい。なぜならば、その意味内容が時代ごとに変化するのはもちろん、同時代においても相違が見られるからである。
国際政治では、国内政治との共通点・相違点について考えていきたい。特に後者を明らかにするために、国際政治の成り立ち(歴史)、国際社会における政治現象を分析する枠組み、そして今日的課題(テロリズム、核、環境問題など)を取り上げる。これらのテーマの理解度を高めるには、具体的な政治現象と関連付けて考えることが望ましい。したがって、政治に係わる時事問題も積極的に取り上げていく。
政治学を学ぶ上で大切なのは、第一に政治現象に対する問題意識を持つこと、第二に過去と未来への視座を含みながら現在を考えることである。本講義は、こうした問題意識や思考を養う機会としたい。本講義の内容は、公務員試験(教養試験「社会科学(政治)」や専門試験「政治学」)にも対応しているので、同試験の受験を考えている学生は積極的に受講してもらいたい。

### 到達目標

- (1)現在の価値観を前提とせず歴史的に政治思想を理解できることができる。 (2)国際政治と国内政治の共通点・相違点を理解することができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	到達目標(1)(2)について、論述式試験を行う。
レポート課題		
上記以外	20	コメントペーパーの「内容」に基づいて評価する。コメントペーパーには、担当者が設定したテーマについて「意見」 をまとめる場合と配布資料を読んだ上で「(自らの)解釈・評価」をまとめる場合の二通りがある。

#### 授業外学習

- (1)授業内容をテキストの該当箇所を読んで復習すること。(2)新聞やニュース等に毎日目を通して政治に係わる時事問題に関心を持つこと。

		教科書						
No	書籍名	書籍名						
1	ファンダメンタル政治学 [ 増補改訂版 ]	等松春夫監修・竹本知行、尾崎庸 介編	北樹出版	9784779303678				
2								
3								

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	国際政治学をつかむ 新版	村田晃嗣ほか	有斐閣	978-4641177222								
2	西洋政治思想史	宇野重規	有斐閣	978-4641220010								
3	近代日本思想案内	鹿野政直	岩波書店	978-4003500187								

初回授業時に、教科書・参考書について説明する。

前提学力等

講義名	政治学	(国際政治	台を含	む)						
講義コード	1201990	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	望月	詩史
ナンバリング番号	212PEL30	5,235LAH3	305							

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	政治思想・国際政治の世界
第2回	古代・中世の政治思想	民主政と君主政・政治と宗教
第3回	近代の政治思想	国家主権・社会契約説
第4回	近代の政治思想	自由主義と保守主義
第5回	近代の政治思想	民主主義・社会主義・共産主義
第6回	近代の政治思想	大衆社会とファシズム、ナショナリズム
第7回	近代日本の政治思想	啓蒙思想・自由民権思想ほか
第8回	近代日本の政治思想	初期社会主義・民本主義ほか
第9回	国際政治	国際政治とは何か・アクター・安全保障ほか
第10回	国際政治	国際政治理論、国際政治の仕組み
第11回	国際政治	ウェストファリア体制 ~ ウィーン体制
第12回	国際政治	二つの大戦
第13回	国際政治と日本	1850年代~1910年代
第14回	国際政治と日本	1920年代~2000年代
第15回	まとめ	歴史や思想を通して現代政治の今日的課題を考える。
		担当者から一言

講義名	法学概論	(国際法を	を含む	)						
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	╽坂田	雅夫
ナンバリング番号	212PEL30	2,235LAH3	303,13	71LA103						

この授	業では法律	聿に関す	る基本知	識を講義	します。	隣の人が自	目分の家の	壁を壊した	:。怒って	て訪問して	ても、の	らりくら	りとして	、金を払う	うどころか、
謝りさ	えしない。	訴えて	やりたい	けど、ど	うすれば	良いのか。	ある朝、	家にいきな	り警察な	が来て、ハ	ひ当たり;	がないこ	とで、遠	関捕された、	自分はどう
なって	しまうのが	か。こう	いった、	本当は余	り身近に	来てほしく	くないけど	、運が悪け	ればいこ	つかやって	てくる厄:	介ごと。	皆さんか	「思い浮かく	べる法律とは
、こう	) した問題	こからむ	ものばか	りでしょ	う。もち	ろん、こう	ういう問題	もこの授業	では取り	り上げます	す。それり	以外にも	法律は、	皆さんのE	常生活にい
ろいろ	と深く結び	びついて	います。	ニュース	、街角、	そして日常	営生活でみ	るいろいろ	な問題や	▶単語がシ	去律と結び	びついて	いるんた	ごと理解して	てもらえるの
がこの	)授業の目標	漂です。													

# 到達目標

- (1)ニュースで出てくる法律関係の用語を理解できるようになる。 (2)公務員試験の法律・政治学関係の問題への基礎的知識を習得する
- 成績評価

   種別
   割合(%)
   評価基準等

   定期試験
   100

   レポート課題

   上記以外

# 授業外学習

## 初回講義時に指示

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	『判例法学〔第5版〕』	西村健一郎、西井正弘	有斐閣	9784641184046								
2												
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

## 前提学力等

講義名	法学概論	(国際法で	き含む	)						
講義コード	1203110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	坂田	雅夫
ナンバリング番号	212PEL30	2,235LAH3	303,13	71LA103						

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	講義内容の概説と参考文献一覧表を配布します。
第2回	裁判所や警察に行くことになった ら	日本の裁判警察制度の概要
第3回	民法 1	さあ、   さんを裁判に訴えてみよう。
第4回	民法2	結婚、離婚、遺産 
第5回	刑事法	警察に捕まった大変だ・・・
第6回	憲法1(国際法1)	人権(私たちはどんな権利を持っているのか)
第7回	憲法 2	国会、裁判所、内閣
第8回	国際法 2	平和と安全保障 1 : 国際連盟まで
第9回	国際法 2	平和と安全保障 2 : 国際連合
第10回	国際法3(憲法3)	平和と安全保障 3 : 平和維持活動 ( PKO)
第11回	国際法 4	貿易
第12回	国際法5	海外投資
第13回	海洋法、日本の抱える領土問題	海に関する国際法。北方領土や竹島のように日本が抱える領土問題
第14回	国際裁判	国際紛争の処理の方法について
第15回	まとめ	全体を概観します。
		担当者から一言

講義名	カウンセ	リング論》	寅習							
講義コード	1400300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY32	0								
						1= NV 107 7	_			

ナン	バリング番号	335PSY32	0				
				授業概要			
クラ	イエントの感	情や行動を	理解しながら、彼(女)	らのかかえる生きづらさを理解 得、およびロールプレイ、事例	し、生活の細	部を想像し、支えるための	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
。 。	めにカウノと	0 7 7 Pil	はないは端 2知識の自	付、のよびロールノレイ、事例:	<b>听九なこで</b> 迪	した美味的なカラブピリブ	ノ技法の自得をはかる
				到達目標			
クラ	イエントが生	きづらいと	はどういうことなのか想	像し、それを支えるとはどうい	うことか体験	的に理解する。	
				成績評価			
	種別	割合(%)	評価基準等				
5	定期試験						
レ	ポート課題						
			それぞれの回でのローク	への参加と そのしつしたいっ		- ルプレイ溶羽への参加と	 
	上記以外		ポートの提出を総合的に	への参加と、そのレフレクショ 判断する	ノ、取扱のロ	一ルノレイ演員への参加と	, C115 & & C 01 E V
				授業外学習			
No		書	————————— 籍名	著者名	T	出版社	ISBN/ISSN
1							
2							
3							
<b>ルキュー</b>	<u> </u> 指定しない						
17 IC	田足りない			(1 to the			
No		<b>*</b>		参考書 著者名	<u> </u>	 出版社	ISBN/ISSN
NO		百	簡节	有自有		山水红	1301/1331
1							
2							
3							
				新担 <b>举</b> 力等			
臨床	心理学を受講	しておくこ	 ことが望ましい。	前提学力等			
-HH // I		\ _					

講義名	カウンセ	リング論》	寅習							
講義コード	1400300	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY32	0								

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	カウンセリング概論	カウンセリングとはなにか?臨床心理学や心理療法とはどのように違うのか?どのようなことを目指 すのか、など概論的に学ぶ									
第2回	理論を知る一来談者中心療法	来談者中心療法についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる									
第3回	理論を知る一家族療法	家族療法についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる									
第4回	理論を知る一不安障害	不安障害についての文献をジグソー学習し、相互教授によって理解をふかめる									
第5回	理論をまとめる	2 - 4回の内容をふまえて仮想事例についてどのように返答するのかを学ぶ									
第6回	マスターセラピストに学ぶ	カウンセリングの実際を、教育用DVDでのロールプレイを視聴し、特徴についてディスカッションすることを通して学ぶ									
第7回	技法をしる一質問	カウンセリングの基礎技術である質問についてワークを通して学ぶ									
第8回	技法をしる一傾聴	カウンセリングの基礎技術である傾聴についてワークを通して学ぶ									
第9回	アセスメント	仮想事例をもとに、どのようなことが問題となり、どのように対処すればよいのか計画をたてる									
第10回	台本読みのワーク	マスターセラピストのロールプレイの模様の文字起こし資料をよみ、それを実際に台本として演じて みることで、マスターセラピストの体験過程を知る									
第11回	ロールプレイの設定、練習	実際の相談事例について、よりリアルな設定をつくるためにカウンセラー役、来談者役にわかれて役 作りをし、実際に練習してみる									
第12回	ロールプレイ実習ーカウンセラー	今回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。									
第13回	ロールプレイ実習ー来談者	前回と次回とは、ロールプレイの本番をおこなって、来談者、カウンセラーの体験について知る。									
第14回	ロールプレイのリフレクション	過去2回おこなってきたロールプレイ実習の模様をビデオ視聴しながら、自分たちのやってきたことについて									
第15回	まとめ	これまでの学習内容についてふりかえり、カウンセリングについて学びを深める									
		担当者から一言									

講義名	環琵琶湖	文化論実習	習(人	間関係)					学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 / 木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 /	
講義コード	1400330	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央	
ナンバリング番号	135LAH12	.0							14年 万四,九山 县大	

髜	我コート		十四級	打印	<del>,</del> 77/	٦٣٦	Г	以未作的		-		松嶋	秀明/丸山、真央	H WA	·2 ·2 ·
ナン	バリング番号	135LAH12	20												
								授業概	要						
滋賀	 県の歴史、文	 化、生活を	 その対象と	:して実習	をお	こなう。	テー			ノ、	調査を実施	し、報	告書の作成をおこな	う。	
								如法口	t亜						
ウ	献調査 現地	調査、聞き	・取り調査を	- 体験し	· 拉文	収集とこ	フィー	<u>到達目</u> -ルドワー		ト ト を	身につける				
地個	献調査、現地 域の歴史、文 人だけでなく 査結果を発表	化、生活に	対し、興味	・関心を	持つた	ようにな	こう。 よる。 ナス	701 7	, <del>, , , , , ,</del>	۳ ر		0			
調調	査結果を発表	、 ノルーノ し、報告書	にまとめる	能力を身	こつ	ける。	いる。								
			L.=.					成績評	価						
	種別	割合(%)	評価基準等	<b></b>											
)	定期試験														
レ	ポート課題														
			3% ± ± 1	v + + = -		-#-	٠ - د حد	<b>.</b>		=	, to the character of the	- <del></del>	A		
	上記以外	100	発表および 	) 台教員に	よっ	(指示る	z n t	に提出レボ	一ト、茸	<b></b>	*報告書の内	谷を総	合して評価する。		
								授業外等	¥ 33						
								反耒州	F自						
						,		教科書	Ė T		_				
No		書	籍名					著者名				<u>H</u>	出版社	_	ISBN/ISSN
1															
														+	
2															
3								<u> </u>							
授業															
1×*		, <b>v</b> <sub>0</sub>						<b>↔</b> +=	<del>b</del>						
No		<b>=</b>	第4 <b>ク</b>					参考書	=			ц	J 반드 2+	T	LCDN/LCCN
No			籍名					著者名					出版社	+	ISBN/ISSN
1															

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										
坪坐	ー 中に適宜指定する									

授業中に適宜指定する。

前提学力等

講義名	環琵琶湖	文化論実習	習(人	間関係)					学科教員/上野 有理/大野 光明/ 木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/
講義コード	1400330	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央
ナンバリング番号	135LAH12	:0							14 响 万时 / 九山 县大

	授業計画										
回数	タイトル	概要									
第1回	オリエンテーション・班編成	オリエンテーションを行うとともに、班別学習のための班の編成を行う。									
第2回	班別学習	第2回から第30回までは班別での学習となる。 詳細はオリエンテーションで説明する。									
		担当者から一言									

講義名	教育学概	論					+D \/ +F =			
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	神代	健彦
ナンバリング番号	204TEA10	1,235EDU2	202							

塪	7111	TOT	-

本授業では、	教育の基本的原理	また理念とその	歴史的変遷につい	1て講義する。	一般に教育は極	めて身近な事象で	·あるがゆえに、	誰もが語ることだ	が
		かし、単に個人的							
識枠組みや知	『識を獲得すること	ニが欠かせない。 本	授業では、教育に	こついて考え、	議論するために	最低限必要となる	そのような知(	教育学の基礎)	を
習得すること	:を目指す。								

(1)教育の原理、歴史、制度、実践などについての基礎知識を習得する。 (2)望ましい教育のあり方について、生産的に主張し議論するための力量を身につける。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	55	最終試験									
レポート課題											
上記以外	45	ミニテスト(×3)									

集中講義4日間の日程で、それぞれ一日のまとめにミニテスト(最終日は最終試験)を行い、総合的に評価する。3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

## 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

### 前提学力等

講義名	教育学概	論								
講義コード	1400510	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	神代	健彦
ナンバリング番号	204TEA10	1,235EDU2	202							

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション							
第2回	教育学の基礎(1)	教育の問い方について							
第3回	教育学の基礎(2)	教育を語る語彙について							
第4回	教育学の基礎(3)	学校という人間形成の方式について							
第5回	西洋における教育の理念と歴史 (1)	ヨーロッパ古典古代の教育思想							
第6回	西洋における教育の理念と歴史 (2)	キリスト教と教育							
第7回	西洋における教育の理念と歴史 (3)	イギリス・フランスの近代教育思想							
第8回	西洋における教育の理念と歴史 (4)	ドイツ・アメリカの近代教育思想							
第9回	日本における教育の理念と歴史 (1)	日本の教育における前近代と近代							
第10回	日本における教育の理念と歴史 (2)	日本の近代教育のはじまり							
第11回	日本における教育の理念と歴史 (3)	大正期の教育実践と家族							
第12回	日本における教育の理念と歴史 (4)	総力戦体制と教育							
第13回	現代の教育と教育学(1)	憲法と教育基本法							
第14回	現代の教育と教育学(2)	経済と教育							
第15回	現代の教育と教育学(3)	政治と教育							
第16回	まとめ	まとめ							
		担当者から一言							

講義名	教育観察	実習									
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習	担当教員	原	未来 / 木村	裕
ナンバリング番号	235EDU32	0									

4107	٧.	тот	-
捋	茥	积线	뿌

今日における学校内外の教育の現状を把握するため現	!地学習を行い、直接観察するこ	ことにより、教育のあり方を学習する。
(なお、受講生の関心や実習先の都合に応じて、順序	等が変更になる可能性がある〕	)

学校教育、社会教育の実態を把握すること。その上で、教育に関わる問題関心を持つこと。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	最終レポート
上記以外	40	見学および事前事後指導への参加

上記を、総合的に評価する

# 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

講義名	教育観察	実習									
講義コード	1400520	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習	担当教員	原	未来 / 木村	裕
ナンバリング番号	235EDU32	20									

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション							
第2回	学校見学の事前指導	学校見学の事前指導							
第3回	学校見学 1	学校見学							
第4回	学校見学 2	学校見学							
第5回	学校見学3	学校見学							
第6回	学校見学 4	学校見学							
第7回	学校見学 5	学校見学							
第8回	学校見学の事後指導 / 社会教育施 設見学の事前指導	学校見学の事後指導 / 社会教育施設見学の事前指導							
第9回	社会教育施設見学 1	社会教育施設見学							
第10回	社会教育施設見学 2	社会教育施設見学							
第11回	社会教育施設見学3	社会教育施設見学							
第12回	社会教育施設見学 4	社会教育施設見学							
第13回	社会教育施設見学 5	社会教育施設見学							
第14回	社会教育施設見学の事後指導	社会教育施設見学の事後指導							
第15回	まとめ	全体のまとめとふりかえり							
		担当者から一言							
必ず初回	オリエンテーションに参加すること								

講義名	教育心理	 学								
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	黒田	真由美
ナンバリング番号	304TEA20	1,335PSY	310							

4107	٧.	107	-
捋	茥	484	7

児童期の発達・学習・記憶・	・動機づけ等の心理学の基本的な概念について概説する。	また、	教育実践の事例を通して、	いじめや発達障害等の問題
について理解を深める。				

「学ぶ」ことの諸側面について、児童期の発達、学習、集団・適応という観点から学ぶ。心理学の用語や理論などの知識を習得すると同時に、心身の発達過程について体系的に学ぶことを目標とする。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題	100								
上記以外									

# 授業外学習

	教科書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

	<b>◆</b> <del>◆</del> ◆ <del>*</del>								
	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

# 前提学力等

講義名	教育心理	学								
講義コード	1400530	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	黒田	真由美
ナンバリング番号	304TEA20	304TEA201,335PSY310								

回数     タイトル     概要       第1回     教育心理学概観       第2回     教育心理学の基礎(1)     条件づけ学習       第3回     教育心理学の基礎(2)     学習理論       第4回     教育心理学の基礎(3)     観察学習       第5回     教育心理学の基礎(4)     動機づけ	
第1回 第2回 教育心理学の基礎(1) 条件づけ学習 第3回 教育心理学の基礎(2) 学習理論 第4回 教育心理学の基礎(3) 観察学習	
第3回 教育心理学の基礎(2) 学習理論 第4回 教育心理学の基礎(3) 観察学習 新奈心理学の基礎(4) 動機づけ	
第4回 教育心理学の基礎(3) 観察学習 教育心理学の基礎(4) 動機づけ	
お本人田学の甘味(4)   動機づけ	
第5回 教育心理学の基礎(4) 動機づけ	
第6回 教育心理学の基礎(5) 記憶	
第7回 教育心理学の基礎(6) 記憶	
第8回 発達心理学の基礎(1) 児童期の発達	
第9回 発達心理学の基礎(2) 児童期の自己理解の発達	
第10回 教育心理学の応用(1) 学級集団,教師期待効果	
第11回 教育心理学の応用(2) 教室での協同学習	
第12回 教育心理学の応用(3) 不登校といじめ	
第13回 教育心理学の応用(4) 教師の抱える問題	
第14回 発達障害の理解(1) 発達障害とは何か	
第15回 発達障害の理解(2) 発達障害児の発達と支援	
担当者から一言	

講義名	教育制度									
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	藤村	祐子
ナンバリング番号	304TEA202,335EDU304									

1.77	SH	1DT	-
	業		

本講義では、	わが国の教育制度の基本原理を歴史的	]展開や具体例を踏まえて[	明らかにし、21世紀における	教育制度の将来像を検討していく。	したが
って、講義で	では教育制度の成立背景や発展の展開、	制度を形作る基本原理、	教育実践と制度の相克に関す	る事例や論点を取り上げていく。	

- (1)わが国の教育制度(教育の社会的、制度的および経営的事項)の基本理念、歴史的展開、法構造を理解している。(2)教育制度をめぐる論点を理解し、根拠を持って意見を述べられる。(3)「読む、書く、話す、聞く」の一連のサイクルを共同で経験し、省察的学習の実践の方法論を身につけている。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験	50	最終試験						
レポート課題	20	中間レポート						
上記以外	30	感想および授業中の作業課題						

感想および授業中の作業課題と中間レポート、最終試験の結果をもとに総合的に判断する。

### 授業外学習

授業の予習として事前に教科書の該当箇所を必ず読むこと。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	新・教育制度論	高妻紳二郎	ミネルヴァ書房						
2									
3									

テキストを必ず入手すること。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

### 前提学力等

教職論、教育学概論を履修していることが望ましい。

講義名	教育制度	教育制度論								
講義コード	1400540	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	藤村	祐子
ナンバリング番号	304TEA202,335EDU304									

	·	授業計画				
回数	タイトル	概要				
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション				
第2回	教育制度を学ぶ意味	教育制度とは何か				
第3回	子どもの権利	子どもの権利条約				
第4回	教育法のしくみ	教育法規の体系				
第5回	日本国憲法と教育基本法	日本国憲法の誕生				
第6回	日本国憲法と教育基本法	戦後教育基本法と新教育基本法				
第7回	教育の目的と目標	教育の目的と目標				
第8回	教育内容の制度	教育内容に関する制度				
第9回	学校の制度	学校の制度				
第10回	義務教育の制度	義務教育の制度				
第11回	教育の機会均等	授業料と奨学金				
第12回	教職員の制度	教職員に関する制度				
第13回	教育行政の制度	教育行政のしくみ				
第14回	社会教育の制度	社会教育に関する制度				
第15回	まとめ	ふりかえりとまとめ				
	'	担当者から一言				

講義名	教育方法	の理論と持	支術/						
講義コード	1400550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村 裕 
ナンバリング番号									
	授業概要								
学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、教育評価の役割と実践 方法、情報機器の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改義するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を									

万法、情報機器の活用方法、予提供することをねらいとする。

### 到達目標

- (1) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能(情報機器および教材の活用を含む)を習得すること。 (2) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。 (3) 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

	成績評価						
種別	割合(%)	評価基準等					
定期試験							
レポート課題	50	まとめのレポート					
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど					

### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

講義名	教育方法	教育方法の理論と技術/								
講義コード	1400550	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村	裕
ナンバリング番号										

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行うとともに、「めざす授業」「めざす教育活動」に対する一人ひとりのイメージを共有する機会を提供する。
第2回	学習指導案の目的とその概要	学習指導案の目的と、どのような項目から構成されているのかについて講義する。
第3回	授業の構成要素	授業がどのような要素によって構成されているのかについて講義する。
第4回	「学力」と教育目標	「学力」をめぐる議論や教育目標設定の論理などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育目標と教材	教育目標と関連づけた教材のあり方やその重要性について講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第6回	教材研究	教材研究の目的や意義、具体的な方法について講義するとともに、実際に教材研究を体験する機会を提供する。
第7回	教育評価	教育評価の目的や機能、近年の議論などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法の概要を説明するとともに、これまでの講義内容をふまえて、作成に取り掛かる機会を提供する。
第9回	授業研究の進め方とその意義	授業研究の進め方とその意義について講義する。
第10回	実践事例の検討	探究型の授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第11回	実践事例の検討	エンカウンターの手法を取り入れた授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第12回	実践事例の検討	情報機器を活用した授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第13回	学習指導案検討会	各自が作成した学習指導案を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの学習指導案をより良いもの にしていくための機会を提供する。
第14回	実践記録	実践記録の目的や意義について講義するとともに、実践記録を読み、気づいたことを共有する機会を 提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。
		担当者から一言

講義名	教育方法	教育方法論								
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	★村	裕
ナンバリング番号	204TEA10	2,235EDU	301							

400	٧.	107	-
捋	茥	484	7

学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して	<b>「、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、教育評価の役割と実践</b>
方法、情報機器の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践	k・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を
提供することをねらいとする。	

- (1) 自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能(情報機器および教材の活用を含む)を習得すること。 (2) 自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること。 (3) 他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになること。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験								
レポート課題	50	まとめのレポート						
上記以外	50	講義中に提出するワークシートなど						

## 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

講義名	教育方法	教育方法論								
講義コード	1400555	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村	裕
ナンバリング番号	204TEA10	2,235EDU3	301							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行うとともに、「めざす授業」「めざす教育活動」に対する一人ひとりのイメージを共有する機会を提供する。
第2回	学習指導案の目的とその概要	学習指導案の目的と、どのような項目から構成されているのかについて講義する。
第3回	授業の構成要素	授業がどのような要素によって構成されているのかについて講義する。
第4回	「学力」と教育目標	「学力」をめぐる議論や教育目標設定の論理などについて講義するとともに、それについての一人ひ とりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育目標と教材	教育目標と関連づけた教材のあり方やその重要性について講義するとともに、それについての一人ひ とりの考えを深めるための機会を提供する。
第6回	教材研究 	教材研究の目的や意義、具体的な方法について講義するとともに、実際に教材研究を体験する機会を 提供する。
第7回	教育評価	教育評価の目的や機能、近年の議論などについて講義するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成方法の概要を説明するとともに、これまでの講義内容をふまえて、作成に取り掛かる機会を提供する。
第9回	授業研究の進め方とその意義	授業研究の進め方とその意義について講義する。
第10回	実践事例の検討	探究型の授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第11回	実践事例の検討	エンカウンターの手法を取り入れた授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第12回	実践事例の検討	情報機器を活用した授業の実践事例を共有し、実際に授業研究を行う機会を提供する。
第13回	学習指導案検討会	各自が作成した学習指導案を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの学習指導案をより良いもの にしていくための機会を提供する。
第14回	実践記録	実践記録の目的や意義について講義するとともに、実践記録を読み、気づいたことを共有する機会を 提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。
		担当者から一言

講義名	形成論演	習							l			
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木村	裕/杉浦	由香里/原	未来
ナンバリング番号	235EDU22	235EDU220										

教育学に関わる問題群の中から関心のあるテーマを選び、	各自の問題意識をまとめ、	参考書や自分で選んだ	資料を用いて発表を行うと	ともに、発表
内容に関して他者と議論を行い、互いの考えを深める機会		「る(そのため、演習の「	内容および進め方について	は、受講生の
興味・関心に応じて変更する可能性があることを了承され	<i>,</i> たい)。			

### 到達目標

(1)教育学に関わるテーマについて視野を広げるとともに、さまざまな参考書や資料の検討なども行い、自身の考えを深めること。(2)他者と議論を行い、互いの考えを深めるとともに、それを論理的かつ説得的に言葉で説明できるようになること。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	50%	まとめのレポート									
上記以外	50%	発表、および、演習への参加(議論への参加、事前事後コメント用紙)									

「3分の2以上の出席」「発表(「ふりかえり」も含む)」「まとめのレポートの提出」を単位認定の最低条件とする。

### 授業外学習

必ずテキストを事前に読み、その内容に関する意見や疑問などを準備したうえで、毎回の授業に臨むこと。具体的な方法などについては、授業中に 適宜指示する。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	新・教育学[第2版]現代教育の理論的基礎	南新秀一ほか編著	ミネルヴァ書房	462305327X						
2										
3										

テキストを必ず入手すること。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

### 前提学力等

講義名	形成論演	習										
講義コード	1400610	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木村	裕/杉浦	由香里/原	未来
ナンバリング番号	235EDU22	0										

	T	
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	演習全体の概要の説明を行う。
第2回	グループ作業	発表準備を行う。
第3回	グループ発表	「教育とは何か」に関して、発表ならびに議論を行う。
第4回	グループ発表	「発達と教育」に関して、発表ならびに議論を行う。
第5回	グループ発表	「教育課程」に関して、発表ならびに議論を行う。
第6回	グループ発表	「教育方法」に関して、発表ならびに議論を行う。
第7回	グループ発表	「生活指導」に関して、発表ならびに議論を行う。
第8回	グループ発表	「進路指導」に関して、発表ならびに議論を行う。
第9回	グループ発表	「教師論」に関して、発表ならびに議論を行う。
第10回	グループ発表	「教育制度」に関して、発表ならびに議論を行う。
第11回	グループ発表	「子どもの人権・権利」に関して、発表ならびに議論を行う。
——— 第12回	グループ発表	「学力論」に関して、発表ならびに議論を行う。
第13回	グループ発表	「特別支援教育」に関して、発表ならびに議論を行う。
<del></del> 第14回	グループ発表	「社会教育と生涯学習」に関して、発表ならびに議論を行う。
<del></del> 第15回	後期オリエンテーション	前期のまとめと後期のオリエンテーションを行う。
第16回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第17回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第18回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第19回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第20回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第21回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第22回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第23回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第24回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第25回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第26回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第27回	グループ発表	受講生の興味に沿ったテーマについて、発表ならびに議論を行う。
第28回	レポート検討会の準備	レポートの草稿を持ち寄り、互いのレポートを検討するための準備を行う。
第29回	レポート検討会	レポートの草稿を持ち寄り、検討会を行う。
第30回	まとめ	演習全体のふりかえりとまとめを行う。
		 担当者から一言

講義名	現代ジャ	ーナリズム	ム論							
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	関根	英爾
ナンバリング番号	33080030	4,335LAH3	309							

メディアを取り巻く環境に大きな変化が起きている。コンピュータ、インターネットという強力なテクノロジーの進化は、現代ジャーナリズムに構造的な変革を迫る勢いを見せる。
近代市民社会の形成とともに生まれ、育ったジャーナリズム。いま「100年に一度」ともいわれる変化の時代にあって、ジャーナリズムとは何か。なんのためにあるのか。そこには、どんな問題が生じているのか。ジャーナリストはどのような職業で、その本分とはいかなるものか。あらためてその存在意義が社会的にも歴史的にも問われている。
本講義では、主として既存マスメディアの軸である新聞とテレビ放送を中心に、日本におけるジャーナリズムの現状と課題について現実、倫理、歴史、理論の領域から考察する。その際、一般にあまりよく知られていない報道・編集の仕組みや情報収集の最前線である取材現場の実像を紹介し、国内外で生起する時事問題、自らの記者体験なども織り交ぜ進める。
新たな「ネット時代」のなかで、ジャーナリズム、ジャーナリストのあり方、生き方はどうあるべきか。その機能と役割、責任は変わるのか、それとも変わらないのか。「ジャーナリズムは生きる」をテーマに追究することにする。
講義は、配布するレジュメと資料をもとに行う。講義テーマは時の政治、経済、社会などの動きによって変更することもある。

#### 到達目標

- (1)時々刻々推移する国内外の「できごと」への関心、感性を高める。 (2)新聞を読む習慣とメディア・リテラシー(読み解く力)を身につける。 (3)情報の収集、発信、分析、評価における「倫理」の重みを知る。 (4)ジャーナリズムの思想と行動をきちんとつかむ。 (5)「民主主義と言論の自由」という普遍的価値への理解を深める。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	7 0 %	期末レポート試験を行う。テーマは事前に提示する。期限までに教務部に提出する。									
レポート課題											
上記以外	3 0 %	レスポンスペーパーで講義内容に関する意見、提言、感想などを求める。									

期末レポートとレスポンスペーパーで総合的に判断する。

#### 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名		著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	ジャーナリズムの思想	原	寿雄	岩波書店	ISBN4-00-430494-6						
2	ジャーナリズムの可能性	原	寿雄	岩波書店	ISBN978-4-00-431170-6						
3	現代メディア史	佐藤	卓己	岩波書店	ISBN4-00-026015-4						

#### 前提学力等

講義名	現代ジャ	ーナリズム	な論				10 V *L G			
講義コード	1400650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	関根	英爾
ナンバリング番号	330S0C30	4,335LAH3	809				·			

	)	授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	はじめに	講義スケジュールや進め方、試験・成績評価の方法を説明する。講義に関する意見や提言、感想などの提出を踏まえ、文章の書き方(ポイント)を指導する。米大統領選を機に「偽ニュース」「ポス
第2回	新聞と新聞社	新聞とは何か。どんな商品で、その特性、機能はどこにあるのか。新聞大国ニッポンだが、新聞離れが続く。経営環境は総じて厳しい。その背景と実態に迫る。 < 「現実を映す鏡」、かわら版、新聞
第3回	地方紙	一般日刊紙は全国紙、地方紙(ブロック紙、県紙)、地域紙などに大別される。あたかも日本の約 治機構にならうかのように配置し、存立している。地方紙を焦点に地域ジャーナリズムを考える。 <
第4回	新聞記者	ニュースを追い、ニュースに追いかけられる職業。日々、紙面で評価される能力・結果主義の競争 社会。そこに生きる記者の生態を見る。 < 特ダネ、筆力、締め切り時間、番記者、夜討ち朝駆け、詣
第5回	ニュースとは	ジャーナリズムは何に食指を動かし、目を凝らし、こだわる? ありふれたことはニュースにならない。新しい、珍しい、変わった、特異なことこそニュースになる。この価値基準に変化の波が打ち
第6回	テレビと法	東京キー局を軸に全国にネットワークを形成するテレビ。新聞とは違って法律の規制を受ける。ラレビの特性を知り、NHK,民放の現状とあり方を考察する。 < 速報性、臨場感、放送法、電波法、公共
第7回	政治と報道	権力を監視すべきジャーナリズムが権力に監視される。「自由な報道」が揺れる背景に何が起きているのか。政治との関係はどうあるべきかを考える。 <nhk、政治的公平、番組編集の自由、介入、< td=""></nhk、政治的公平、番組編集の自由、介入、<>
第8回	選挙報道	民主主義社会において選挙は国民の意思を政治に反映させる有効で重要な手段。その選挙の「公」 な報道」をめぐり論議が高まる。どこに問題があるのか。 < 不偏不党、公平中立、客観性、世論調
第9回	誤報	ジャーナリズムへの信頼を大きく揺るがす誤報、虚報がなくならない。原因はどこに。「朝日報道」など具体的事例を踏まえさぐる。<捏(ねつ)造、やらせ、松本サリン事件、人権侵害、警察情
第10回	報道被害	事件事故報道を中心にプライバシーの侵害、犯人視が後を絶たない。事件関係者のもとヘマスメラィアが殺到する集団的過熱取材(メディアスクラム)も起きる。報道倫理の視点から考える。<個
第11回	実名か匿名か	事実に基づく報道はジャーナリズムの原点。事件事故、不正の追及には、事実の発掘、確認、追訴、検証が欠かせない。その「事実の核」である実名が伏せられる。なぜか。 < プライバシー権、売
第12回	戦争と報道	戦争の歴史は、国家の情報操作に屈したジャーナリズムの歴史と重なる。日清・日露戦争から太 洋戦争に至る言論史を通して、戦争とジャーナリズムのかかわりを考える。 < 発禁、白虹事件、不
第13回	知る権利	マスメディアの報道は「国民の『知る権利』に奉仕するもの」といわれる。知る権利とは何か。- の成立基盤と構造を明らかにし、今後の展開をさぐる。<憲法、国民主権、取材・報道の自由、取材
第14回	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの歴史、思想と行動を概観し、「価値と精神」をさぐる。職業人としてのジャーフリストの役割と倫理、責任をも考える。〈近代人、社会のパーツ、グーテンベルク革命(活版印
第15回	ジャーナリズムのあした	ジャーナリズムはアナグロ時代からネット時代に。それは「情報の自由市場時代」。情報源は細分化され、真偽も定かでない情報が大量にあふれ、流通する。「広大な情報の海」の中で、ジャーナリ
-		
		 担当者から一言

担当者から一言

新聞に触れてもらいたい。ニュース、読み物などが、どの面に、どんな扱いで掲載されているか。トップニュースは何か。関心をいだく分野の記事一つだけでもいい。見出しだけでもかまわない。ざっと目を通すことで、「ジャーナリズムのいま」を知る手がかりがつかめる。授業の日、図書

講義名	現代社会	福祉論								
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	中村 	好孝
ナンバリング番号										

400	٧.	107	-
捋	茥	484	7

本講義は、	障害、	貧困、	居住、	虐待など、	福祉につい	1ての個別	のトピック	7と、福	『祉の社会的	りな仕組みに	こついてき	考察する。	本講義が特	にとりは	がげるの
は、お金が	バなかっ	たり身	体が動	かなかった	とり住む場所	斤がなかっ	たりする人	、も大変	<b>ぎだというこ</b>	ことであり、	そうい	った人の役	とに立つ制度	も大切が	ごという
ことである	3。														

(1)そもそも現代社会の福祉にはどのような対象があるのか、そしてどのような活動が行なわれてきたのか、行なわれているのか、これらについて知る。(2)それらをとりまく社会的条件を知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(10%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(10%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(50%)。									
レポート課題											
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。									

小テストを3分の1以上提出しなかった者は評価対象にしない。

## 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

通常はレジュメを配布する。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

### 前提学力等

講義名	現代社会	福祉論					10 V/ *E =			
講義コード	1400670	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	中村	好孝
ナンバリング番号	335S0C30	7-C					·			

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	福祉について社会学的に考えるスタンスについて学ぶ。
第2回	障害学	福祉についての社会学的議論を代表する議論である、障害学の考え方を学ぶ。
第3回	障害者福祉1	身体障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。
第4回	障害者福祉2	知的障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。ノーマライゼーションという概念について理解する。
第5回	障害者福祉3	精神障害者福祉の歴史と現状について学ぶ。パターナリズムという概念について理解する。
第6回	高齢者福祉	高齢者福祉の歴史と現状、仕組みについて学ぶ。
第7回	児童福祉	児童福祉の歴史と現状、仕組みについて学ぶ。
第8回	居住福祉	居住福祉という考え方について学ぶ。
第9回	公的扶助	公的扶助の歴史と現状について学ぶ。生活保護の仕組みについて理解する。
第10回	貧困問題1	貧困問題の現状について学ぶ。
第11回	貧困問題2	子どもの貧困の現状について学ぶ。
第12回	ケア論	ケアという概念について学ぶ。
第13回	規範について	福祉についての議論についてまわる、規範的な議論について学ぶ。これまで行なわれてきた、福祉を 正当化する色々な議論について理解する。
第14回	福祉国家論	福祉についてのマクロな議論の代表である、福祉国家論について学ぶ。
第15回	全体のまとめ	全体のまとめを行なう。
		担当者から一言

講義名	現場心理	学								
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY30	8								

1.77	SH	1DT	-
	業		

私たちの日常生活には「当たり前」になっていることがいくつもある。こうした「当たり前」の存在を問い直し、批判的に日常をとらえ	.なおす力
を養うことを狙いとする。具体的には「司法領域」における現場をとりあげつつ、そこでとりあげられる諸問題に対して、心理学がどのよ	うに迫れ
るのか、いくつかの立場からの研究例を示しつつ解説する。授業では一方向的なレクチャーだけではなく、受講者同士のディスカッション	、種々の
ワークをとりいれる。積極的な参加を期待する。	

司法臨床場面をあつかった心理諸科学における基礎的用語を理解し、用いることができる。 司法臨床的な問題解決についての自分なりの方針をたてることができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普段の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)をもとに総合的に判断する。

## 授業外学習

授業毎にグループでの話し合いなどをする場合がある。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

講義名	現場心理	現場心理学								
講義コード	1400710	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY30	8								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	これからの授業展開、とりくむ課題について説明しつつ、非行少年の現状について統計にもとづいて 学ぶ							
第2回	犯罪捜査の心理	犯罪捜査場面で用いられる心理学的知見、とりわけ、認知的インタビュー法について紹介する							
第3回	自白の心理	なぜやってもいない罪を自白するのか。冤罪を防ぐための取り組みの実際について紹介する							
第4回	非行少年の誤謬	非行少年とはどのような存在かをめぐる、社会一般でもたれているイメージを、統計的研究の結果からよみとく							
第5回	裁判員ゲーム	仮想事例について考えていくことで裁判において大事になってくるコミュニケーションのあり方につ いて学ぶ							
第6回	虐待と非行	非行に密接な影響を与えるもののひとつである虐待について述べる							
第7回	虐待が人の心身にもたらす影響	非行にかかわらず、虐待をもっていることがいかにその人の人生に生きづらさをもたらすのかを紹介 する							
第8回	非行少年への心理的視点	非行少年の共感性、あるいは規範意識、罪悪感のなさといったところでの特徴について知り、非行少 年の心理学的見方を紹介する							
第9回	非行少年への福祉的視点	非行少年にあたえる貧困や、居場所の影響について知るとともに、児童自立支援施設でのとりくみを 紹介する							
第10回	非行少年の家族支援	非行少年がいることで、社会からの非難の目にあいがちな保護者、家族をどのように支えていくべき なのか、あるいは家族再統合はありえるのかといった問題について紹介する							
第11回	非行少年と発達障害	非行少年事例のなかに少なからずあって、処遇を困難にする要因とされる発達障害について概説する							
第12回	非行少年への心理的アプローチ	非行少年の更生をねらった処遇におけるSSTや内省作業といったものについて、DVDを視聴することを 通して体験的に学ぶ							
第13回	学校教育における非行ーいじめ	学校教育場面のなかでしばしば問題にされるいじめの問題についてとりあげる							
第14回	学校教育における非行ー暴力、警察連携	学校教育場面におけり、生徒と教師、生徒同士からなる暴問題と、警察との連携の実際につい知る							
第15回	まとめ	過去の内容をふまえ、仮想事例について作成し、それを処遇の観点から語り直す							
		担当者から一言							
		1—1 H / H							

講義名	行動論演						细目	宏通/上野	有理 / 後藤	崇志 /			
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	細馬 松嶋	宏通 / 上野 秀明	<b>月</b> 埕/俊滕	示心 /	
ナンバリング番号	235PSY221												

ノノハリノク留ち	23373122	<u> </u>							
			授業概要						
行動科学や社会科学における問いのたて方や研究方法の実際について学ぶ。身近な生活や地域での人々のかかわりに素材を得て研究テーマを設定するところから、グループ演習を中心に授業を実施する。									
<i>るこころい</i> ら、ソ	ルーノ供自	9 を中心に技業を美肥する	0.						
			到達目標						
質問紙法、検査法	、実験法の	D基本原理を理解し、デー	・夕の収集や分析、結果の表現や考察	察までのプロセスを実践的に習得る	する。				
			成績評価						
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
 レポート課題									
レハード赤庭									
上記以外	上記以外 100% 授業中の発表や各教員によって指示された提出レポート等を総合して評価する。								
			#h 1 \ <del>=</del>						
No		 籍名	数科書 著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1									
2									
3									
			参考書						
No	書	籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1									
2									
3									
<u> </u>									
			前提学力等						
			履修資格						

講義名	行動論演	習							<i>4</i> m ∈	空汤 / L 取	左珊 / 络藤	出士 /
講義コード	1400840	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	細馬   松嶋	宏通 / 上野 秀明	有理 / 後藤	崇志 /
ナンバリング番号	235PSY22	<u>!</u> 1										

授業計画										
回数	タイトル	概要								
第1回	心理学研究法の概要	実証的研究のタイプと長所・短所に関する理論的事項の説明								
第2回	実験法 1	要因計画法による実験の実施(1)								
第3回	実験法 2	要因計画法による実験データの分析(1)								
第4回	実験法 3	要因計画法による実験の実施(2)								
第5回	実験法 4	要因計画法による実験データの分析(2)								
第6回	実験法 5	要因計画法による実験デザインの考え方								
第7回	実験法 6	実験レポートの書き方								
第8回	実験法 7	実験計画の実践:立案から実験の実施、データのまとめまで								
第9回	質問紙法1(質問紙法の基礎)	手法の特徴を知る								
第10回	質問紙法2(質問紙調査の計画)	仮説を立てる 								
第11回	質問紙法3(質問紙調査の計画)	質問項目を作る								
第12回	質問紙法4(質問紙調査の分析)	質問紙の構造を調べる								
第13回	質問紙法5(質問紙調査の分析)	仮説を検討する								
第14回	質問紙法6(質問紙調査の報告)	分析結果をまとめる								
第15回	質問紙法7(質問紙調査の報告)	分析結果を報告する								
第16回	相互行為分析	行動を記述するための基本:発声に注目する / 動作に注目する。注釈をつける (annotation)。								
第17回	相互行為分析	動作の基本的分析:身体の特定部位に注目する。動きと停滞を区別する								
第18回	相互行為分析	動作と身体を割る:身体の各部位ごとに、動きの分節点を明らかにする								
第19回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析(1):個人内の変化を記述する								
第20回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析(2):個人間の会話を記述する。トランスクリプトを作る。 								
第21回	相互行為分析	発声と動作の連鎖分析(3):個人間の動作を記述する。簡単な分析結果をレポートにする。								
第22回	相互行為分析	映像分析:ショットとカットを区別する。発声と動作のタイミングに注意しながら簡単な映像分析を   レポートにする。 								
第23回	インタビュー法 1	インタビューの特徴について知る								
第24回	インタビュー法 2	質問項目を考える								
第25回	インタビュー法 3	インタビューをやってみる 								
第26回	インタビュー法 4	アズイフによるリフレクション								
第27回	インタビュー法 5	TEAによる分析								
第28回	インタビュー法 6	グラウンデッドセオリーによる分析 								
第29回	インタビュー法 7	インタビュー分析結果の発表								
第30回	総括 	全体のまとめ								
ー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・										

講義名	産業心理	学								
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	滑田	明暢
ナンバリング番号	335PSY31	1								

私たちは消費者や雇用者として、産業と密接に関わりながら生活をしている。そのため、人の心や行動の理解を促す心理学的研究の知見を参考に
できる場面は多い。産業社会において個々人がより生き生きと暮らしていけることを目指し、本講義では、消費者行動、作業の能率と快適性、生活できる場所はあります。
とキャリア、職場の人間関係などに関わる心理学的知見を学ぶ。研究の積み重ねから得られた知見と自身の生活とのつながりを考える機会としたい

## 到達目標

- 1)各講義で紹介あるいは議論された知見を自分自身の言葉で要約して表現することができる。 2)産業心理学に関わる事象を複数の観点から理解し、その事象についての自分自身の意見や見解を伝えることができる。 3)産業心理学の知見(授業で身に付けた知識や考え方)と自身の生活との関連を表現して伝えることができる。

	成績評価
割合(%)	評価基準等
60	・レポート課題(60%:到達目標2と3に対応)
40	・毎回の講義のコミュニケーションペーパーの提出(30%:到達目標1に対応) ・ワーク、プロジェクトなどの授業内の活動への参加と振り返り(10%:到達目標2と3に対応)
	60

# 授業外学習

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

	参考書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1	よくわかる産業・組織心理学	山口裕幸・金井篤子(編)	ミネルヴァ書房	ISBN-10: 4623048713 ISBN -13: 978-4623048717									
2													
3													

各回授業時に資料を配布します。

## 前提学力等

講義名	産業心理	学								
講義コード	1400920	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	滑田	明暢
ナンバリング番号	335PSY31	1								

	ファ <u>田</u> ラ	+₩ ÷								
 回数	タイトル									
第1回 第1回	導入:産業心理学とは?	概女 授業概要、成績評価方法を確認する。産業心理学の背景と特徴を理解する。								
第2回	作業とヒューマンエラー	作業の効率、エラーに関わる知見を学ぶ。								
第3回	■ 職場におけるコミュニケーション と集団意思決定(1)	ワーク:合意形成を体験する。								
第4回	職場におけるコミュニケーションと集団意思決定(2)	集団とコミュニケーションについての理論を学ぶ。								
第5回	リーダーシップ	リーダーシップに関する理論の流れを理解する。								
第6回	採用と人事評価	知見と議論をもとに、採用と人事評価を考察する。								
第7回	仕事への動機づけとワークモチベ ーション	動機づけの理論を学ぶ。								
第8回	職場のストレスとメンタルヘルス	働くことと健康についての知見を学ぶ。								
第9回	ワーク・ライフ・バランス(1)	ワーク:家事分担から考察する								
第10回	ワーク・ライフ・バランス(2)	仕事と生活の調和に関する知見を学ぶ。								
第11回	キャリアの開発と発達 (1)	キャリア開発の理論を学ぶ。								
第12回	キャリアの開発と発達 (2)	キャリア発達の理論を学ぶ。								
第13回	消費者行動とマーケティング (1)	消費者の購買行動に関わる知見を学ぶ。								
第14回	消費者行動とマーケティング (2)	プロジェクト:モノを買うことの物語を理解する。								
第15回	産業心理学の応用可能性	産業心理学の応用可能性についての知見の紹介と議論、質疑。								
		担当者から一言								

受講者数などによって、授業の順番や内容を変更することがあります。

講義名	質的デー	夕解析論								
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	230S0C20	5,2358002	205				Ī			

社会調査法のうち、「量的調査法」に対して「質的調査法」として総称されるデータの収集方法と分析方法について、それぞれの方法に基づく優れた既存研究や、担当者個人の研究を例に挙げて、どのような方法がどのように研究に生かされているかを明らかにする。と共に、実際にそれぞれの調査・分析方法に関してレポート課題を与え、成果を提出してもらう。データの収集・分析方法の単なるマニュアルでなく、調査に至るまでの準備や、調査を通じて適切な問いを立ち上げるプロセスに踏み込み、質的調査の方法を習得することを目的とする。

## 到達目標

- (1)先行研究や必要な統計データを収集する手段を使用できる。 (2)特定のテーマのインタビューにあたり、適切な調査依頼と質問項目の策定ができる。 (3)質問項目に基づきつつ、適切に質問項目を追加・削除してインタビューを実施できる。 (4)参与観察の基本的な考え方を習得できる。 (5)行ったインタビュー内容を、論文・報告書の作成に使えるように整理することができる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	100	以下の5回のレポートを課す。 1) 先行研究や関連資料、統計データを収集することができる(20%)。 2)インタピュー調査を適切に依頼し、また事前に適切な質問項目を設定することができる(20%)									
上記以外		毎回提出してもらうレスポンスカードの内容が優れていた場合、加点を行うことがある。1回につき2点、ただし15回の授業を通して、5回以内(10点以内)とする。									

レポートの提出回数が3回以下の場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

	教科書												
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN									
1													
2													
3													

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	自分で調べる技術 市民のための調査入門	宮内泰介	岩波書店	4007001170
2	フィールドワークの技法 問いを育てる、仮説をきたえる	佐藤郁哉	新曜社	4788507889
3	よくわかる質的社会調査 プロセス編	谷富夫・山本努	ミネルヴァ書房	4623058441

授業中にレジュメやレポート執筆に必要な資料を配付する。

### 前提学力等

社会調査士資格認定科目(F科目。資格取得にはE科目の応用データ解析論と本科目のいずれか1つを履修すること)であり、1回生配当の社会調査論を履修済みであることが望ましい。

講義名	質的デー	夕解析論								
講義コード	1400980	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	230S0C20	5,2358002	205							

	1	
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	質的調査法の概要と講義全体のスケジュール、レポート評価課題について説明する。 
第2回	社会調査における「質的調査法」 の位置づけと特徴:「量的調査」	量的調査と質的調査を対比させつつ、量的調査におけるサンプルの「代表性」と、質的調査における事例の「典型性」という考え方について説明する。
第3回	調査における「問題意識」の重要 性	調査を行う上で、どのような問題意識を持つかによって、同じ事例を見ていても全く見え方が変わってくる。調査を進めていく中での問題意識の変容とそのことが持つ意義について説明する。
第4回	質的調査におけるドキュメントの 発見・収集とデータ化:公的文書	調査を行うに当たって、まず行わなければならないのはテーマに関する先行研究や関連資料の収集である。それらの収集方法について具体的な方法を説明する。
第5回	ドキュメント分析の具体例と実践	収集した文書資料をどのように分析するか、その具体的な実例と方法を説明する。
第6回	聞き取り調査による素材の収集と データ化のプロセス	インタビュー調査をどのように行うか。その依頼のプロセスに始まって、実際にインタビューを行う 上での注意点、またインタビューで得たデータをどのように分析するかについて説明する。
第7回	聞き取り調査の具体例と実践	担当者自身の聞き取り調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第8回	参与観察法による素材の収集とデ ータ化のプロセス	参与観察による調査をどのように行うか。その注意点やデータの整理・収集、その分析方法について 説明する。
第9回	参与観察調査の具体例	担当者自身の参与観察調査に基づくデータ分析を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第10回	データの整理と編集:メモ・ノート・カード・KJ法	史資料・インタビュー・参与観察等を通じて様々な形で集まったデータについて、いかにメモやフィールドノーツを作成し、また整理するのか。その具体的な方法について説明する。
第11回	社会調査という行為の社会性:「 調査非協力」・ラポール・オー	社会調査を行う上で注意しなくてはならない調査倫理、そして調査そのものが持つ社会性という問題について論じる。
第12回	歴史社会学的研究:内容分析と言 説分析	担当者自身の内容分析・言説分析に基づく研究を事例として、その具体的な方法論を説明する。
第13回	言説生成研究と社会問題の社会学	ある特定のテーマが「社会問題」として人々の意識に浮かび上がるプロセスについて、どのように分析するかを説明する。
第14回	ライフヒストリー研究:フィール ドとしての個人	ある1人の個人の人生にも、そこには「社会」が反映している。そうした個人もまた一つのフィールドであり、そうした個人を通じて社会のあり方を分析する方法について説明する。
第15回	概念の構築と脱文脈化・再文脈化 :調査を「報告書」「卒論」に	実際に調査したデータを、報告書や卒論にまとめるまでにどのようなプロセスを経るのかについて説明し、講義全体のまとめを行う。
	1	担当者から一章

担当者から一言

映像資料を数多く用い、それを見ていることを前提に講義を行います。また授業内でレポートを書いてもらうことや、授業内でレポート執筆に必要な資料を配付することもあります。欠席しないこと。

講義名	社会・経	済政策論									
講義コード	1401020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	木下	ちがや	
ナンバリング番号	335\$0031	0									
授業概要											

本授業では、戦後日本政治と社会運動について論じていく。

2011年3月の原発震災以後、日本社会では近年みられなかった社会運動が台頭している。この社会運動は、原発事故というショックに対応して台頭したが、しかしその性格は、21世紀という特殊な時間におおきくは規定されていると思われる。この授業では、この現代の社会運動を構造的に規定する要因について論じていく。社会運動を歴史的、構造的にとらえることで、運動を媒介にして「現在」の政治社会の問題を理解していくことが達成目標である。

## 到達目標

本授業は、「社会運動」をテーマにしながら、それをとりまく戦後の政治・社会・経済について論考えていくことを重視します。本授業は専門性よりも、「社会問題」を総合的な視点から理解し、考察していきます。毎回の講義でレジュメを配布し、それにもとづいて講義をしていきます。レジュメの内容と講義内容をきちんと把握し、そのうえで自分の意見を確立していくことを目標とし、評価の基準とします。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題											
上記以外	100%	講義全体を踏まえた試験を行う。また出席は三分の二以上が必須。									

#### 授業外学習

	教科書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1												
2												
3												

	参考書											
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN								
1	社会を変えるには	小熊英二	講談社現代新書	4062881683								
2												
3												

### 前提学力等

講義名	社会・経	済政策論								
講義コード	1401020	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	木下	ちがや
ナンバリング番号	335S0C31	0								

, , , , , ,	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	712 AT - 1 -
	<b>5</b> 7 1 11	授業計画
回数	タイトル 道 λ 近伏と社会運動	概要 概要 本接美では、土に第二次世界土晄後の、日本国事注判字ででの社会運動をとけるげていく。その前世
第1回	導入 近代と社会運動	本講義では、主に第二次世界大戦後の、日本国憲法制定下での社会運動をとりあげていく。その前提として、近代化と社会運動の関係について講義する。
第2回	敗戦と戦後民主主義 	敗戦と占領、民主化という、日本の近代化の特殊な過程が、現在にいたるまでの日本の社会運動の特性をつくりあげた。その形成過程について講義する。
第3回	敗戦と戦後民主主義	占領下の社会運動は、民主化期と冷戦期というふたつの時期をまたいで展開していく。このふたつの時期の転換が、日本の社会運動にどような刻印をきざんだかを講義していく。
第4回	安保闘争と高度成長	1950年代に日本は「独立」し、高度経済成長期にはいり、この時期に本格的な大衆的社会運動が形成されていく。1960年の安保闘争にいたるまでの社会運動のプロセスについて論じていく。
第5回	安保闘争と高度成長	1960年の日米安保反対運動は、日本史上最大の運動であるとともに、その後の日本政治の在り方を規定する画期的なものであった。この運動が戦後日本を象徴する運動になっていった過程について講義
第6回	1968年と世界	1968年は、ベトナム戦争と公民権運動を背景に、世界同時的に大規模な社会運動が台頭した。しかもこの社会運動、それまでの労働組合中心から「新しい」社会運動に変化する契機でもあった。この変
第7回	1968年と日本	1968年は日本でも、学生運動を中心に激しい社会運動が行われた。しかし、他国とは異なる展開をし、その後社会運動が停滞していく契機ともなった。高度成長を経て経済大国化した日本の変容と社
第8回	企業社会と運動の衰退	高度経済成長を経て形成された「日本型大衆社会」とは何か。またその社会がどのようにして日本の社会運動の担い手や要求を変貌させたかについて講義する。
第9回	企業社会と労働運動の衰退	「日本型大衆社会」における社会運動の衰退の中心は、労働組合運動の衰退にある。日本の労働組合 運動がどのように形成され、そしてなぜこの時期に衰退したのかについて講義する。
第10回	新自由主義・グローバル化と社会 運動	1980~90年代にかけて、東アジア、東欧では民主主義革命が台頭し、冷戦崩壊後にむけた新たな社会 運動がかたちづくられていく。そのプロセスを、同時期の日本の社会運動の状態を対比しつつ講義す
第11回	┃   新自由主義・グローバル化と新た   な社会運動	┃ ┃ グローバル化は「格差・貧困」という課題を生み出し、世界的にグローバル化に抵抗する社会運動が ┃ 台頭する。日本でも貧困を課題とした社会運動がふたたび登場した。この時代の変容の構造と背景に
第12回	3・11後の社会運動	東日本大震災と原発事故という「複合災害」は、日本の「安全神話」を崩すとともに、新たな大衆的な社会運動を生み出した。その形成のプロセスについて講義する。
第13回	3・11後の社会運動	日本で「複合震災」が発生した2011年は、世界的にみてもアラブ革命、オキュパイ運動など、現在の世界的な政治の動向を反映した大規模な社会運動が発生した年でもあった。この時代以後の社会運動
第14回	3・11後の社会運動	世界的なポピュリズム政治の台頭をはじめ、不安定化する政治と経済のなかで、社会運動はどのような役割を果たしていくのか。その可能性と意義について講義する。
第15回	まとめ	これまでの授業のまとめを行う
		1 担当者から一言

担当者から一言

とにかくおおまかにでも歴史的な事実を知ることが大事です。講義で興味をもったら、こういうものを読んだらいいというアドバイスをしますので、聞いてください。 なお、授業中、必要なコミュニケーション以上の私語を行っていると判断した場合には、ただちに退席してもらいます。

講義名	社会学演	習										
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	丸山	真央 / 大野	光明 / 中村	好孝
ナンバリング番号	235\$0022	0										

400	٧.	107	-
捋	茥	484	7

j	この演習では	「社会と	人間」と	いう視点か	ら、人間関	係を理解・	・認識する <i>†</i>	こめの「見る	3眼」と	「問題を発見	する能力」	を習得する	ることを狙	111とする
	問題意識を													
l	ノて演習を進	める。発	表者はレ	ジュメを作り	成して報告	し、それに	こついて全員	員で討議する	3。発表	・討議が完了	'したのち、	発見された	と問題点、	共有され
t	:見解につい	てレポー	トを作成	し、提出す	る。									

- (1)人間関係の時間的変化と空間的・領域的差異を認識し理解することができる。 (2)社会の構造と変動を捉える基礎知識と視点を獲得し、現代日本社会の諸問題を社会学的に捉えることができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	レポートを課し、到達目標の(1)と(2)について評価する((1)50%、(2)50%)。
上記以外		

# 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 教科書は使用しない。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

参考書はその都度紹介する。前もってプリント等を配布する。

## 前提学力等

講義名	社会学演	習										
講義コード	1401040	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	丸山	真央 / 大野	光明 / 中村	好孝
ナンバリング番号	235S0C22	0										

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	この授業全体について、ガイダンスを実施する。 
第2回	日本の社会構造と人間関係(1)	「タテとヨコ」「内と外」について考える。
第3回	日本の社会構造と人間関係(2)	「〈甘え〉と自立」「状況と自己」について考える。
第4回	日本の社会構造と人間関係(3)	「ホンネとタテマエ」「顔と腹」について考える。
第5回	人間関係 理解と誤解(1)	「問題としての人間関係」について考える。
第6回	人間関係 理解と誤解(2)	「人間関係の形成」について考える。
第7回	人間関係 理解と誤解(3)	「ことばと人間関係」について考える。
第8回	人間関係 理解と誤解(4)	「組織と人間」について考える。
第9回	人間関係 理解と誤解(5)	「うそとまこと」について考える。
第10回	人間関係 理解と誤解(6)	「人間関係と人間開発」について考える。
第11回	社会関係資本から学ぶ「社会と人間」	「社会関係資本」の考え方を学ぶ。
第12回	社会関係資本とは何か	社会関係資本論の基本を学ぶ。
第13回	信頼・規範・ネットワーク	社会関係資本の捉え方について考える。
第14回	社会関係資本は何の役に立つか	社会関係資本の効果・影響について考える。
第15回	何がかたちづくるのか、どう測る のか	社会関係資本への影響要因と計測方法を考える。
第16回	健康と福祉の向上	社会関係資本と健康・福祉の関係を考える。
第17回	社会関係資本の男女差	社会関係資本の属性別の違いを考える。
第18回	社会関係資本を壊す	社会関係資本と格差の関係を考える。
第19回	社会関係資本のダークサイド	社会関係資本の負の側面を考える。
第20回	中間のまとめ	第11回から第19回までのまとめを行う。
第21回	プライドと自己	「プライド」という概念について整理する。
第22回	プライドと家族	家族というテーマから「プライド」について考える。
第23回	プライドと地域	地域というテーマから「プライド」について考える。
第24回	プライドと階級	階級というテーマから「プライド」について考える。
第25回	プライドと容姿	容姿というテーマから「プライド」について考える。
第26回	プライドと学歴	学歴というテーマから「プライド」について考える。
第27回	プライドと教養	教養というテーマから「プライド」について考える。
第28回	プライドと宗教	宗教というテーマから「プライド」を考える。
第29回	プライドと職業	職業というテーマから「プライド」を考える。
第30回	全体のまとめ	第1回から第29回のまとめを行う。
		担当者から一言

講義名	社会学概	2					武田	俊輔 / 大野	光明 / 中村	好孝 /		
講義コード	1401050	単位数		開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	細馬	宏通 / 丸山	真央	기チ/
ナンバリング番号	130S0C10	2,1358002	201									

400	٧.	тот	-
捋	茥	积线	뿌

本講義は、	社会学の基本的な思考方法、	基礎概念、	研究方法について概説し、	あわせて社会学の主要分野の <i>〉</i>	<b>、門的な講義を行うものである。</b>

(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる。 (2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	100	(1)社会学の基本的な思考方法を理解し、基礎概念を修得することで、社会現象を社会学的に理解することができるようになる(50%)、(2)社会学の主要分野の成り立ちと今日的争点を知ることで、様々な社会現象への関心を深める一歩を獲得することができるようになる(50%)について、小レボート・中間レボート・最終レボート(合計100%)。								
上記以外										

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

# 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	社会学 第5版	アンソニー・ギデンズ	而立書房	4880593508							
2	Do!ソシオロジー 改訂版 現代日本を社会 学で診る	友枝敏雄他編	有斐閣	4641124965							
3	社会学入門	塩原良和・竹ノ下弘久編	弘文堂	4335551401							

## 前提学力等

高校の倫理・政治経済、現代社会、世界史、日本史で修得している程度の知識は必要だが、とくに問わない。

講義名	社会学概	論								/⇔* <b>±</b> / <b>→</b> m▽	V	+7. <del>22</del> /
講義コード	1401050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	武田細馬	俊輔 / 大野 宏通 / 丸山	光明 / 中村 真央	好孝 /
ナンバリング番号	130S0C10	2,1358002	201									

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	社会学に何ができるのか	イントロダクションとして、社会学的な発想に親しむ。							
第2回	家族	家族の社会学的研究の基礎を学ぶ。							
第3回	村落・地域社会	村落・地域社会の社会学的研究の基礎を学ぶ。							
第4回	階層・階級	階層・階級の基本的な考え方と現実の姿を学ぶ。							
第5回	逸脱・社会問題	社会問題に関する基本理論を学ぶ。							
第6回	医療	医療社会学の基礎を学ぶ。							
第7回	福祉	福祉についての社会学的な議論を学ぶ。							
第8回	ミクロ、エスノメソドロジー	ミクロ社会学・エスノメソドロジーについて概説する。							
第9回	差別・マイノリティ	差別やマイノリティについての社会学的な議論を学ぶ。							
第10回	政治・社会運動	政治のイメージ、政治的行為、社会運動、労働運動等について概説する。							
第11回	NPO · NGO	NPO・NGOについての社会学的な議論を学ぶ。							
第12回	教育	教育社会学、若者の移行過程について学ぶ。							
第13回	文化・情報・メディア	メディアを素材とした内容・言説分析の方法を学ぶ。							
第14回	グローバル化とナショナリズム	ナショナリズムに関する基本理論を、日本の事例から学ぶ。							
第15回	まとめ	社会学を学ぶことで獲得する視点と、その意義を学ぶ。							
		担当者から一言							

講義名	社会心理	会心理学(人間関係)						+D.V. +4+ E		
講義コード	1401100	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	後藤	崇志
ナンバリング番号	235PSY30	35PSY304								

人が社会をどのように認識し、自己を位置づけ、他者や世界と関わっているのかを明らかにしようと、社会心理学で行われてきた研究の方法や成果について解説する。人の認知や行動が、他者の存在や、他者との関係性によってどのように影響を受けているのかについて、理解を深めることを目的とする。

## 到達目標

- (1) 人の社会的な行動を支える心の仕組みについて理解を深める。(2) 社会問題の解決や社会の改善に向けて、心理学的なアプローチをとるための考え方を身に着ける。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。								
レポート課題	50%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。								
上記以外										

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

#### 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	グラフィック社会心理学 第2版	池上知子・遠藤由美	サイエンス社	978-4-7819-1191-5						
2	社会心理学概論	北村英哉・内田由紀子 編	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1059-5						
3	新 社会心理学 心と社会をつなぐ知の統合	唐沢かおり 編	北大路書房	978-4-7628-2851-5						

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

講義名	社会心理	社会心理学(人間関係)								
講義コード	1401100	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	後藤	崇志
ナンバリング番号	235PSY30	35PSY304								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	社会心理学の特徴について学ぶ。							
第2回	推論と帰属	周囲の物事を解釈し、仕組みや法則を知ろうとする心の働きについて学ぶ。							
第3回	態度と説得	社会行動と関わる態度の概念について学ぶ。							
第4回	感情	社会生活の中で、感情が持つ機能について学ぶ。							
第5回	対人認知	人が周囲の他者をどのように認識しているかについて学ぶ。							
第6回	自己認知	人が社会の中に自己をどのように位置づけて認識しているかについて学ぶ。							
第7回	自己と動機	自己の認識が、行動や周囲の認識とどのように関わっているかについて学ぶ。							
第8回	自己の制御	人が自己の認識や行動を制御しようとする心の仕組みについて学ぶ。							
第9回	対人行動	攻撃行動や援助行動のように、他者に向けた行動を支える心の仕組みについて学ぶ。							
第10回	人間関係	友人や恋愛といった人間関係が成立・維持・変容する際に関わる心の仕組みについて学ぶ。							
第11回	個人と集団	個人の認知や判断が、集団にどのように影響を受けている/与えているのかについて学ぶ。							
第12回	集団間関係	戦争のような集団間葛藤に関わる心の仕組みについて学ぶ。							
第13回	文化	人の心が文化に影響を受け、また文化を維持・変容させようとするプロセスについて学ぶ。							
第14回	進化	社会行動を支える心の仕組みが、進化の過程でどのように備わってきたかを理解しようとするアプローチについて学ぶ。							
第15回	アクションリサーチ	様々な社会の課題に対して、社会心理学の知見や方法を活かしながら、当事者とともに解決を図ろうとするアプローチについて学ぶ。							
		担当者から一言							

講義名	社会精神	t会精神医学 						40.V.*L. B	 	
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	久保田	泰考
ナンバリング番号	335PSY31	3								

「こころ」が、体のひとつの器官としての脳の働きによって成り立っているとすれば、「こころの病気」を扱う精神医学は、脳の調子が崩れる仕組みを研究し、それを効率よく適切に治療することに専念すればよい、と考えられるかもしれません。しかし、そこで抜け落ちてしまうのは、こころを病む「人間」はたった一人で病んでいるといるというと派立していたらそれだけで「うつ」になってしまいそうです。また一方で人間関係がわずらわしく、どこかに消えてしまいたいと思うこともまた誰にもあるかもしれません。現代社会の生活から生じるストレスは高まる一方であり、「こころの病気」になる人が増え続けていると言われもします。こうした言説がどれほどの真実をついているかはさておき、今日社会と「こころを病む人」の関係を問い直すことの重要性は否定しようもないことでしょう。このような状況の中で生きる私たちは、それぞれが固有の社会精神医学的視点を作り上げる必要に迫られているともいえます。講義では精神医学全般についての知識を広く学習しながら、今日どのように社会と精神医学の関係を捉えることが可能であるのかについて、各自が自分なりの見解を持つことを目標とします。適宜映像資料なども交えて、アクチュアルな問題について検討する場を持ちたいと考えています。

짂	陸	н	ᄺ

- (1)主要な精神疾患・障害について、歴史的な視座も含めた基礎的な理解を深める(2)社会がどのように精神疾患・障害を扱ってきたかについて、批判的に主要な論点を説明することができる(3)こころを病む個人と社会の関係について、例えば芸術作品を例に各自が自分なりの観点を持つことができる

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題	6 0 %	各自の疑問点を網羅的にリストアップするレポート 1 と、固有のテーマについて各自の考えを自由に展開するレポート 2 から評価する。							
上記以外	4 0 %	授業中の簡単な討議や意見の表明における積極性、独自の見方を表明する能力、および授業中の小レポート(感想文) から評価する。							

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 授業中に資料を配布

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	ニューロサイコアナリシスへの招待	岸本寛史他	誠信書房	4414400988						
2										
3										

### 前提学力等

こころの病気に関心があること唯一の条件です。

講義名	社会精神	社会精神医学								
講義コード	1401110	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	久保田	泰考
ナンバリング番号	335PSY31	335PSY313								

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	うつと社会 1	うつ病の基礎的概念について、その歴史的な変遷について								
第2回	うつと社会 2	鬱病の治療と社会の関わり、特に自殺予防対策について								
第3回	狂気と社会 1	近代社会は狂気をどのようにとらえてきたか								
第4回	狂気と社会 2	現代社会における狂気の在り方、芸術と狂気、テクノロジーと狂気について								
第5回	ヒステリーと社会 1	ヒステリーとはなにか、近代精神医学・精神分析とヒステリー								
第6回	ヒステリーと社会 2	現代におけるヒステリー、ヒステリーとサイボーグ								
第7回	パーソナリティー障害と社会	現代におけるパーソナリティー障害の概念、ボーダーラインパーソナリティーを中心に								
第8回	ジェンダーと精神医学	精神医学はジェンダー・性の問題をどのように扱ってきたか								
第9回	自閉スペクトラムと社会 1	自閉症の歴史について								
第10回	自閉スペクトラムと社会 2	自閉スペクトラム概念の拡大と現代の病理								
第11回	精神疾患と犯罪 1	そもそも精神疾患と犯罪の関係をどのように考えるべきか								
第12回	精神疾患と犯罪 2	刑法と近代精神医学の関係について								
第13回	こころの薬	臨床精神薬理学の概説、精神科の薬と社会の関係について								
第14回	精神療法	言葉による治療、社会的な言説とこころの病気の関係について								
第15回	まとめ	各自が疑問・問題点を整理し、討論する								
		担当者から一言								
<u></u>										

講義名	社会調査	社会調査実習(地域文化、人間関係)										
講義コード	1401120	401120 単位数 1 開講期 通年 授業種別 実習					担当教員	武田	俊輔/塚本	礼仁		
ナンバリング番号	312ETR30	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320										

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個々人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。なおこの実習は社会調査士資格・地域調査士資格を取得する際に必要となる認定科目である。

## 到達目標

- (1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。 (2)調査計画を立案することができる (3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。 (4)調査成果を発表し、討論することができる。 (5)報告書を作成することができる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる(10%)、(2)調査計画を立案することができる(10%)、(3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる(10%)、(5)報告書を作成することができる(60%)については最終報告書の原稿で評価する。									
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。									

#### 授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動に基づいて調査を行い、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	地域分析八ンドブック Excelによる図表づく りの道具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9							
2											
3											

講義の中で紹介する。

### 前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習れかの単位を修得していることが望ましい。 のいず

講義名	社会調査	社会調査実習(地域文化、人間関係)										
講義コード	1401120	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	担当教員	武田	俊輔/塚本	礼仁	
ナンバリング番号	312ETR30	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320										

可继元	タイトル	
回数 第1回	ガイダンス	大学 と
	調査方法の解説(1)	社会調査の調査方法について解説する。
第2回	調査方法の解説(2)	社会調査の調査方法について解説する。
第3回	調査方法の解説(3)	社会調査の調査方法について解説する。
第4回	先行研究の収集と読解(1)	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第5回	先行研究の収集と読解(2)	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第6回	先行研究の収集と読解(3)	班ごとに先行研究を収集し、読解して報告する。
第7回		
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査計画を策定し、各班ごとに報告する。
第12回	現地調査(1)	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第13回	現地調査(2)	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第14回	現地調査(3)	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第15回	現地調査(4)	現地調査を行い、各班ごとにその内容を報告する。
第16回	調査成果の発表と討論(1)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第17回	調査成果の発表と討論(2)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第18回	調査成果の発表と討論(3)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第19回	調査成果の発表と討論(4)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第20回	調査成果の発表と討論(5)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第21回	調査成果の発表と討論(6)	現地調査の成果について各班ごとに報告し、ディスカッションを行う。
第22回	追加調査(1)	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第23回	追加調査(2)	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第24回	追加調査(3)	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第25回	追加調査(4)	ディスカッションを踏まえた追加調査とその結果について、各班ごとに報告する。
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	報告書の原稿を各班ごとに作成し、報告とディスカッションを行う。
		 担当者から一言

講義名	地域社会	調査実習										
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	担当教員	武田	俊輔/塚本	礼仁	
ナンバリング番号	312ETR30	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320										

社会調査・地域調査に必要とされる実践的能力の習得をめざして、受講生全員が個々人であるいはグループで、質的調査の企画から報告書の作成まで、全過程をひととおり実習する。具体的には、調査方法のガイダンス、問題の設定、先行研究の精査、調査計画の策定、調査の実施、発表と討論、報告書の作成をおこなう。

## 到達目標

- (1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる。 (2)調査計画を立案することができる (3)適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる。 (4)調査成果を発表し、討論することができる。 (5)報告書を作成することができる。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	90	(1)先行研究、統計データ等を収集し精査することができる $(10\%)$ 、 $(2)$ 調査計画を立案することができる $(10\%)$ 、 $(3)$ 適切な調査方法を習得し、調査を実際におこなうことができる $(10\%)$ 、 $(5)$ 報告書を作成することができる $(60\%)$ については最終報告書の原稿で評価する。								
上記以外	10	(4)調査成果を発表し、討論することができる(10%)については、毎回の授業内でのディスカッションへの参加で評価する。								

#### 授業外学習

夏季休暇中を中心に、授業時間外での自発的な調査活動にもとづいて調査をおこない、その進行状況および概要について何度も報告してもらうことになる。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	民俗芸能の伝承活動と地域生活	澁谷美紀	農山漁村文化協会	978-4-540-05325-2							
2	地場産業産地の革新	上野和彦	古今書院	978-4-7722-4105-2							
3	地域分析ハンドブック Excelによる図表づく りの道具箱	半澤誠司ほか	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0917-9							

講義の中で紹介する。

### 前提学力等

社会調査論、社会調査方法論、社会統計学、統計学基礎、量的データ解析論 もしくは質的データ解析論、人文地理学B、地理学実習れかの単位を修得していることが望ましい。 のいず

講義名	地域社会	調査実習										
講義コード	1401125	単位数	1	開講期	通年	授業種別	実習	担当教員	武田	俊輔/塚本	礼仁	
ナンバリング番号	312ETR30	312ETR301-C,330S0C303,335S0C320										

授業計画										
回数	タイトル	概要								
第1回	ガイダンス	実習全体のガイダンスと班編成をおこなう。								
第2回	調査方法の解説(1)	地域・社会調査の方法、特に調査倫理、危機管理、依頼文書の作成法などについて解説する。								
第3回	調査方法の解説(2)	地域・社会調査の方法、特に社会学的な基本事項(インタビュー調査や質的調査における質問紙・調査票の作成、データの整理方法など)について解説する。								
第4回	調査方法の解説(3)	地域・社会調査の方法、特に地理学的な基本事項(統計データの入手・使用法、地形図の使用法、土地利用調査・景観調査の手法など)について解説する。								
第5回	先行研究の収集と読解(1)	年度のテーマ ( 祭祀、 地場産業)に関する先行研究 (「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。								
第6回	先行研究の収集と読解(2)	年度のテーマ(祭祀、地場産業)に関する先行研究(「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに収集し、読解して報告する。								
第7回	先行研究の収集と読解(3)	年度のテーマ ( 祭祀、 地場産業)に関する先行研究 (「参考図書」掲載図書も含む)を班ごとに 収集し、読解して報告する。								
第8回	調査計画の策定と発表(1)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに 報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。								
第9回	調査計画の策定と発表(2)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに 報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。								
第10回	調査計画の策定と発表(3)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに 報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。								
第11回	調査計画の策定と発表(4)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに 報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。								
第12回	調査計画の策定と発表(5)	調査の対象地域、対象者、項目、方法、スケジュールなどからなる「調査計画」を策定し、班ごとに 報告する。また、コメントをふまえて修正・調整もおこなう。								
第13回	現地調査(1)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。								
第14回	現地調査(2)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。								
第15回	現地調査(3)	計画にもとづいて現地調査をおこない、班ごとに内容を報告する。また、ここでのコメント等をふまえて、夏季休暇中に補強調査を実施する。								
第16回	調査成果の発表と討論(1)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。								
第17回	調査成果の発表と討論(2)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。								
第18回	調査成果の発表と討論(3)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。								
第19回	調査成果の発表と討論(4)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。								
第20回	調査成果の発表と討論(5)	班ごとにインタビュー内容の整理や図表・主題図の作成といった作業をまとめ、現地調査の成果について報告し、ディスカッションをおこなう。								
第21回	追加調査(1)	第16回~第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その 結果を報告する。								
第22回	追加調査(2)	第16回~第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その 結果を報告する。								
第23回	追加調査(3)	第16回~第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その 結果を報告する。								
第24回	追加調査(4)	第16回〜第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その 結果を報告する。								
第25回	追加調査(5)	第16回~第20回までのディスカッションをふまえ、内容を検討したうえで追加調査をおこない、その 結果を報告する。								
第26回	報告書原稿の作成と討論(1)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。								
第27回	報告書原稿の作成と討論(2)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。								
第28回	報告書原稿の作成と討論(3)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。								
第29回	報告書原稿の作成と討論(4)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。								
第30回	報告書原稿の作成と討論(5)	班ごとに報告書の原稿を作成し、報告とディスカッションをおこなう。								
		担当者から一言								

講義名	社会調査	方法論					+0.1/.44.5			
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	大野	光明
ナンバリング番号	230\$0020	230S0C204,233MKD281,235S0C203								

本講義では、社会調査の企画・設計から資料・データの収集と整理までの具体的な過程と方法を学び、自分で調査できるだけの具体的な調査技術を 身につけることを目的とする。量的調査については、質問紙調査の方法を修得することに重点を置き、具体的には、調査の企画・設計、仮説構成、 調査方法の選定(全数調査と標本調査)、標本抽出(無作為抽出、標本数・標本誤差の理解)、質問文・質問紙の作成、調査の実施(質問紙の配布 ・回収の方法)、収集されたデータの整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)について学ぶ。質的調査については、インタビ ュー調査の方法を学び、面接調査の実際とフィールドノートの作成方法を修得する。講義の中では、質問紙の作成等においてグループ学習をとり入 れることを考えている。

## 到達目標

- (1)調査目的・方法・手順および調査問題の選択と定式化について理解することができる。(2)社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく具体的な方法が理解できる。(3)質問紙の作成についての技術と能力を身につけることができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	到達目標(1)、(2)、(3)について、最終試験を実施して評価する。
レポート課題		
上記以外	50%	到達目標(1)と(2)について、授業中に数回の小課題を出して評価する。

#### 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 教科書は使用しない。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

前提学力等

講義名	社会調査	方法論								
講義コード	1401130	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	大野	光明
ナンバリング番号	230S0C20	230S0C204,233MKD281,235S0C203								

, , , , , ,	フク留亏 250500204,255MRD201,2555								
G#	<b>7.7.1.11</b>	授業計画							
回数	タイトル ガイダンスとイントロダクション	概要 概要 授業の進め方について説明する。							
第1回									
第2回	調査の目的と方法	特に量的調査をおこなう場合の目的と調査方法の決め方について概説する。							
第3回	調査の企画	調査の企画に際して考えるべきことを概説する。							
第4回	調査の設計と仮説の構成	調査テーマの決定と仮説の構成について概説する。							
第5回	全数調査と標本調査	対象者全体に実施する調査と一部を対象に実施する調査の違いと方法について概説する。							
第6回	無作為抽出	無作為抽出の原理と方法について概説する。							
第7回	標本数と標本誤差	調査に必要な標本数と誤差について概説する。							
第8回	サンプリングの方法	標本抽出の諸方法と実際について概説する。							
第9回	質問文の作成	質問項目、質問文(ワーディング)の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。							
第10回	質問紙の作成	質問紙の作成方法を概説し、実際にグループで作成する。							
第11回	質問紙調査の実施方法   質問紙調査の諸方法と実際について概説する。								
第12回	調査データの整理(1) エディティング、コーディング、データクリーニング等について概説する。								
第13回	面接調査の方法	インタビュー調査の方法と実際について概説する。							
第14回	調査データの整理(2)	フィールドノートの作成方法について概説する。							
第15回	まとめ	授業全体のまとめをおこなう。							
		<u> </u> 担当者から一言							
		7-140 F							

社会調査士資格認定科目(B科目)。

講義名	社会調査	論								
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	中井	治郎
ナンバリング番号	130S0C10	130S0C103,133LVD107,135S0C202								

社会調査とは、	社会事象を人間	間の社会的生	活連関における	る意味に即して調査	することをいう。	。本講義では、	現代社会においる	て社会的現実を知る有力
な手段である社	上会調査の概要、	歴史、種類	、問題点など、	基本的事項を概説	するとともに、	その意義につい	1て考える。	

# 到達目標

- (1)社会調査の分類や倫理に関する基本的事項が理解できる。 (2)社会調査の歴史や手法に関する知識と理解力を身につけることができる。 (3)国勢調査の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50%	到達目標(3)については、論述式試験を行う。								
レポート課題										
上記以外	50%	到達目標(1)(2)については、5回程度授業中に小レポートを実施する。								

# 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 教科書は使用しない。

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

参考書はその都度紹介する。授業中にプリントを配布する。

# 前提学力等

講義名	社会調査	論								
講義コード	1401140	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	中井	治郎
ナンバリング番号	130S0C10	130S0C103,133LVD107,135S0C202								

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	社会調査とは何か	社会調査士資格、原語、主要な要素と性格、目的、意義などについて述べる。
第2回	社会調査の分類	実践的調査と科学的調査について述べる。
第3回	社会調査の類型	統計調査(センサス)、学術調査、世論調査、市場調査について述べる。
第4回	社会調査の歴史(1)	ヨーロッパの社会調査の歴史について概観する。
第5回	社会調査の歴史(2)	アメリカの社会調査の歴史について概観する。
第6回	社会調査の歴史(3)	日本の社会調査の歴史について概観する。
第7回	国勢調査	日本の国勢調査の歴史、時期、地域、対象、事項、方法、問題点などについて述べる。
第8回	国際比較調査	国際比較調査の実際と課題について概説する。
第9回	調査研究の方法(1)	量的調査と質的調査について概説する。
第10回	調査研究の方法(2)	統計的方法と事例研究法について概説する。
第11回	調査票調査	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第12回	フィールドワーク	調査の種類、手順、過程などについて述べる。
第13回	様々なデータの活用	ドキュメント分析や映像分析などについて、その手法と課題を述べる。
第14回	社会調査と倫理	調査の規範、倫理、調査とプライバシーなどについて述べる。
第15回	まとめ	この授業全体について、総括を行う。
		 担当者から一言

この科目は社会調査士資格科目でもあるので、社会調査士の資格を取得しようと思っている人は必ず受講してください。

講義名	社会変動	論								
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	丸山	真央
ナンバリング番号	330S0C30	330S0C301-C,335S0C306-C								

社会変動論は、数十	-年、時に百年単位で	社会の変化を捉える、	社会学の基本的な発想の	O根幹をなす研究領域でる	ある。本講義では、	村落・地域社会と
いう具体的な空間や	<sup>り</sup> 場所をめぐって社会	<b>空動がどのように現</b> 象	はし展開したのかを学ぶ。	講義前半では村落の近位	弋化を、後半では∽	今日の地域社会が直
面する変動の諸相を	:概観する。本講義を〕	<b>通じて、社会変動の</b> 基	基礎理論を学ぶとともに、	村落・地域社会に関する	る社会学的アプロ-	-チの基本を身につ
ける。						

# 到達目標

- (1)社会変動の基本的な考え方や概念を理解する。(2)地域社会の具体的な社会的事象を社会変動論の観点から捉えることができる。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	30%	レポート課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)15%、(2)15%)。								
上記以外	70%	授業中・授業外の小課題を通じて、到達目標の(1)と(2)についての理解度を評価する((1)30%、(2)40%)。								

# 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

教科書は使用しない。レジュメ等を授業中に配布する。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	むらの社会を考える	日本村落社会研究学会編	農文協							
2	地域社会学講座1~3	地域社会学会編	東信堂							
3	新版キーワード地域社会学	地域社会学会編	ハーベスト社							

# 前提学力等

講義名	社会変動	論								
講義コード	1401180	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	丸山	真央
ナンバリング番号	330S0C30	330S0C301-C,335S0C306-C								

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス&イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	社会変動と村落・都市・地域社会	社会変動論の基本と村落・地域社会の変動について概説する。
第3回	家と村 (1)	近代化以前の家と村について、滋賀県内の農村を舞台にした記録映画を通じて理解する。
第4回	家と村 (2)	伝統家族と近代家族について概説する。
第5回	家と村(3)	家・村理論について概説する。
第6回	家と村の近代化(1)	戦後改革と家・村について概説する。
第7回	家と村の近代化(2)	高度成長と家・村について概説する。
第8回	家と村の近代化(3)	過疎化と過疎問題について概説する。
第9回	現代の地域変動(1)	過疎問題から「限界」問題への変化について概説する。
第10回	現代の地域変動(2)	「限界集落をどうするか」という課題について、グループワーク等を通じて理解を深める。
第11回	現代の地域変動(3)	超高齢化と地域社会の変動について概説する。
第12回	転換期の家と村(1)	他出家族・都市移住者と村落について概説する。
第13回	転換期の家と村 (2)	巨大災害と家・村の変動について概説する。
第14回	地域変動と社会構想 (1)	地域格差の拡大と地域間連帯の可能性について概説する。
第15回	地域変動と社会構想(2)	「環境と公共性」という課題について、グループワーク等を通じて理解を深める。
		担当者から一言

講義名	社会問題	の社会学								
講義コード	1401190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	中村	好孝
ナンバリング番号	235S0C30	235S0C302-C								

1.77	SH	1DT	-
	業		

		社会病理や逸											
学ぶ。社会問	閉題について	は、当事者か	ら・家族から	ら・支援者	から・国	国家からなる	ビ、また心	)理的・約	経済的なと	、色々な観点	点から考え	ることが	可能であ
るが、社会学	生も独自の、	相当にひねく	れた考察を行	亍なってき	た。社会	会学は常識な	を相対化す	する点を特	特徴とする	ところがあり	〕、そもそ	もひねく	れた学問
であるけれど	ざも、社会問	題の社会学に	は、その特長	長が分かり	やすくえ	見われている	ると思う。						

(1)社会問題について、社会学の諸理論を理解する。(2)現代の社会問題にはどのような対象があるのか、およびそれらをとりまく社会的条件がどのようなものなのかについて知る。(3)それらについて事実をふまえて論じることができるようになる。

	成績評価											
種別	割合(%)	評価基準等										
定期試験	70	到達目標(1)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(10%)。到達目標(2)について、穴埋め式あるいは選択式問題を行なう(10%)。到達目標(3)について、論述式試験を行なう(50%)。										
レポート課題												
上記以外	30	到達目標(1)について、毎回小テストを行なう(15%)。到達目標(2)について、毎回小テストを行なう(15%)。										

小テストの提出が3分の2に満たない者は評価の対象としない。

# 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

通常はレジュメを配布する。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

# 前提学力等

講義名	社会問題	の社会学								
講義コード	1401190	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	中村	好孝
ナンバリング番号	235S0C30	)2-C								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	社会問題について社会学的に考えるとはどのようなことか、イントロダクションとしての理解を行な う。							
第2回	社会問題の定義をめぐって	社会問題がどのように定義されるのか、考える。							
第3回	社会問題の社会学の諸理論1	機能主義の考え方について理解する。							
第4回	社会問題の社会学の諸理論2	アノミー論を展開した議論について理解する。							
第5回	社会問題の社会学の諸理論3	ラベリング理論について理解する。							
第6回	社会問題の社会学の諸理論4	構築主義について理解する。							
第7回	メディア	メディアが社会問題を取り上げることによって、社会問題がどのように形づくられるのか、理解する。							
第8回	当事者	社会問題における当事者をめぐる議論について理解する。							
第9回	家族	社会問題論における、家族の位置づけとその変化について理解する。							
第10回	支援者	社会問題論における支援者の役割について理解する。							
第11回	医療専門家	社会問題論における専門家論として、医療専門家の位置づけについて考える。							
第12回	福祉	社会問題論における専門家論として、福祉の位置づけについて考える。							
第13回	社会的排除	社会的排除概念について理解する。							
第14回	現代の社会問題	摂食障害やDVなど、現代的な社会問題の諸事例について理解を深める。							
第15回	全体のまとめ	全体のまとめを行なう。社会問題について社会学的に考える方法態度について整理する。							
		担当者から一言							
L									

講義コード1401340単位数2開講期前期授業種別講義ナンバリング番号204CUR103,235EDU203-C担当教員	講義名	生涯学習	論							京 未来	
ナンバリング番号 204CUR103,235EDU203-C	講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業種別	担当教員	原		
	ナンバリング番号	204CUR10	3,235EDU2	203-C							

塪	7111	TOT	-

人々の学びは、さまざまな時期に、さまざまな場で展開されている。本講義では、人間的および社会的な発達を視野に入れた生涯学習や社会教育の 実践や理論を学んでいく。そのなかで、人々にとっての学ぶことの意味を深めるとともに、自らの学習を振り返る機会としてほしい。

## 到達目標

- ・学ぶことの意味を様々な視点・立場から捉えなおすことを通じて、学習の意義を考え理解する ・他者との議論のなかで、自らの教育観・学習観を言語化し、また、他者の意見から自らの考えを深める
- \*受講者の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更します

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	70	学期末レポート								
上記以外	30	授業後のリアクションペーパーの内容								

上記を、到達目標に即して、総合的に評価する

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

授業中に随時プリント資料を配布するほか、参考書も適宜紹介する

前提学力等

2年次以降の履修が望ましい

講義名	生涯学習	論								
講義コード	1401340	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	原	未来
ナンバリング番号	204CUR10	3,235EDU2	203-C							

/ - / -	ファロコ == ··································	+应张·兰·····									
同数	回数     タイトル     概要										
	オリエンテーション	「似女 オリエンテーション、グループづくり									
第1回											
第2回	なぜ学ぶのか	「教育」と「学習」									
第3回	生涯学習とは	生涯教育 / 生涯学習の理念									
第4回	子ども・若者期の学習 1	遊びと学び、居場所									
第5回	子ども・若者期の学習 2	青少年教育施設									
第6回	子ども・若者期の学習3	青少年教育施設の取り組み(ゲスト)									
第7回	子ども・若者期の学習4	若者支援									
第8回	人々の生活と学習 1	障碍をもつ人々の生活と学び									
第9回	人々の生活と学習 2	老年期の学び									
第10回	人々の生活と学習 3	公民館									
第11回	人々の生活と学習4	公民館の取り組み(ゲスト)									
第12回	生涯学習の理論	生涯学習における学習論									
第13回	生涯学習の課題	生涯学習の今日的課題									
第14回	レポート相互検討	レポート相互検討									
第15回	まとめ	全体のまとめ									
		担当者から一言									

グループワーク・意見交流などの機会が比較的多い授業になります。

講義名	消費生活	<b>当費生活論</b>								
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	┃小牧 美江 ┃	
ナンバリング番号	133MKD18	33MKD182,134NUT214,135LAH207								

私たちは、生活に必要な商品(物・サービス)を購入し、消費することで生活を営んでいる「消費者」である。消費生活論は、私たちの生活のあらゆる場面を消費者が行う消費の側面から分析し、その成果をもとに、より良い消費行動を通じて経済活動を活性化し、消費者被害・消費者問題の発生を防ぎ、消費者被害救済のシステムを改善するなど、私たちの生活の改善や社会の改善につなげていく学問である。本講義では、消費生活を分析する視点として、「法」と「人権」に着目する。「消費」を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直し、そこに登場する「消費者」「事業者」の権利と責任、関係性、消費者トラブルの実情と原因、消費者法・消費者行政が果たす役割、消費者の人権について考えていく。 消費者が、社会問題、倫理、世界情勢、将来世代の状況等、様々な社会状況や課題を考慮して消費行動を選択することで事業者や政府に対して能動的に働きかけを行うことを通じて、消費者自身の権利を守り、公正な事業活動を促進し、その結果として構築される公正で持続可能な社会を「消費者市民社会」という。本講義では、この消費者市民社会の実現をめざす「消費者市民」とはどのような消費者なのかについても、消費者の権利と責任をキーワードとして考え、自らも「消費者市民」としての行動ができるようになることをめざす。また、「消費者市民を育てる消費者教育」のあり方についても考えていく。 講義形式を中心とするが、適宜、グループ討論やプレゼンテーションなどの演習も取り入れる。

#### 到達目標

- (1)消費生活をさまざまな角度から分析するための基礎となる知識を学び、自分の言葉で説明することができるようになる。
- 、ハルスエルローとしているのでは、コンドックのグラックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、ロッグロックでは、1000円では、10

- この、このである。 (3)消費者の権利と責任、消費者市民社会について理解し、消費者市民としての行動ができるようになる。 (4)消費者教育が様々な年齢層・場面等に応じて行われることを学び、自分が消費者教育に関わることができる場面と方法を見つけることができるようになる。
- うになる。 (5)消費生活をさまざまな側面から分析することを学び、自分が専門に研究を深めたいと考えている分野の学問と消費生活との接点を見つけることができるようになる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	到達目標(1)(4)(5)については、レポート試験を課す。50点満点とし、課題を理解し説明できているか(25点)、自分の学習成果を盛り込み見解を述べているか(15点)、レポート全体が文章として完成しているか(10点)の3基準で採点する。
上記以外	50	到達目標(2)(3)については、授業中に提示する小レポートの成果(20点満点)と、課題レポートについての課題発表会での発表(プレゼンテーション)の成果と発表方法(30点満点)を採点する。

3分の1以上欠席した場合は評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業外においても、消費者庁、国民生活センター、適格消費者団体等のウェブサイトで公開されている消費者被害情報など、消費者に関する情報や 報道に注目し、自身の消費者としての日常生活における行動を点検する姿勢を身に付けてほしい。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	新しい消費者教育 - これからの消費生活を考える	神山久美・中村年春・細川幸一編 著/日本消費者教育学会関東支部	慶應義塾大学出版会	9784766423075						
2	ハンドブック消費者2014	消費者庁	全国官報販売協同組合	9784864580595 ( 978486458 0596 )						
3										

授業中に配付するレジュメ・資料と共に用いる。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	18歳から考える消費者と法・第2版	坂東俊矢・細川幸一	法律文化社	9784589036124						
2	ジェンダーで学ぶ生活経済論・第2版	伊藤純・斎藤悦子	ミネルヴァ書房	9784623073542						
3	消費者政策 - 消費生活論・第5版	鈴木深雪	尚学社	9784860310806						

この他、授業中に参考図書を適宜紹介する。

前提学力等

講義名	消費生活	肖費生活論							
講義コード	1401380	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	小牧 美江
ナンバリング番号	133MKD18	33MKD182,134NUT214,135LAH207							

	フク省号 1338(101214,133)	
□ #L	6.41	授業計画
回数	タイトル	概要  「株装の合け像と名様美ニュアの位置付け、列達中様をニオレレナに、光典老明師、光典老家和の時内
第1回	現代の消費生活(ガイダンス)	講義の全体像と各講義テーマの位置付け、到達目標を示すとともに、消費者問題、消費者運動の歴史と現状を概観し、「消費生活」の研究・分析のための視点を示す。
第2回	消費生活と法 「契約」から「   消費」を考える	「消費」という現象を「契約」(法律行為)という法の視点から分析し直す。契約の原則から、消費者・事業者の権利と責任、関係性について考える。
第3回	消費生活と子ども	子ども消費者(幼児、小・中・高校生)の消費文化と消費者トラブルの実情、子どもの権利条約から   見た子ども消費者の権利について考える。
第4回	消費生活と高齢者・障がいのある 消費者	高齢者・障がいのある消費者の消費者トラブルの実情、成年後見制度について、人権の視点から考える。
第5回	消費生活とジェンダー	ジェンダーバイアスや性差別が存在することで、消費者・事業者の意思決定過程にどのような影響が 及ぶかなど、消費生活における諸課題をジェンダーの視点から見直し、考える。
第6回	契約トラブル 消費者法・消費 者行政の役割	消費生活における民法及び消費者に関する法律の役割、消費者行政の必要性と役割、消費者政策のあり方について考える。
第7回	意思決定過程と家計管理 - 衣生活・食生活の諸課題	衣生活・食生活の諸課題を例として、消費行動における意思決定過程と家計管理、消費者信用について考える。
第8回	住生活の法律と生活設計	住宅の契約(売買、賃貸借)に関する法律、住生活の諸課題と生活設計について考える。
第9回	消費生活と情報・安全	事業者による広告・表示など、安全に関する情報を含む情報発信のあり方、消費者による消費生活情報の収集の課題、批判的思考について考える。
第10回	消費生活と環境	持続可能な消費と資源・エネルギー・環境保護に関する諸課題、持続可能な開発のための教育 (ESD)について考える。
第11回	消費者市民社会と消費者教育	「消費者市民社会」の担い手となる「消費者市民」を育てるための消費者教育について、消費者教育体系イメージマップをもとに考える。
第12回	学校教育と消費者教育	学習指導要領の消費者教育に関する内容を確認し、教科教育(家庭科、社会科、公民科)における消費者教育、金融経済教育の課題について考える。
第13回	「消費者市民」を実践する(課題 発表)	「消費生活と安全」に関する課題発表を通じて、「消費者市民」として、主張し、行動する方法を考え、実践する。
第14回	「消費者市民」を実践する(相互 評価)	課題発表による情報を、「消費者市民」として、批判的に検討する方法を考え、実践する。
第15回	消費者市民社会の実現のために( 総括)	消費生活論の学習内容全体を振り返り、消費者市民社会実現のために、自分は「消費者」として何を すべきか、自分の研究課題の中で何ができるかについて考える。
		担当者から一言

担当者から一言

担当者は、司法書士でもあります。法律専門家にとっても、消費生活論は非常に興味深い学問です。その興味深さを皆さんと共有できればと考えています。

講義名	心理・発	心理・発達・行動学実験演習							细重	宏通 / 上野	有理 / 後藤	崇志 /
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	細馬 松嶋	秀明	<b>月</b> 埕/夜豚	赤心 /
ナンバリング番号	135PSY22	135PSY220										

1.77	SH	1DT	-
	業		

人間行動に対する総合的な研究実習を目的とす	る。1)人間の行動や心の働きを、どのように記号化	し、どのように解析することができるか・で
	)観察行動自体を制約するヒトの認知・コミュニケー	
的な心理学実習を実施し、データの扱いを学ぶ。	3)行動発達の場である、野外の研究フィールドや教	育・福祉関係の実践現場にでかけ、各種観察
法を宝習する。		

行動観察法の基本原理を理解し、データの収集や分析、結果の表現や考察までのプロセスを実践的に習得する。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験									
レポート課題									
上記以外	100%	発表や各担当教員によって指定された提出レポートを総合して評価する。							

# 授業外学習

適宜実施する。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社 ISBN/ISSN							
1										
2										
3										

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

# 前提学力等

講義名	心理・発	達・行動等	学実験	演習					<i>4</i> m ∈	空海 / Lm	7 左珊 / 络萨	出士 /	
講義コード	1401520	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	細馬   松嶋	宏通 / 上野 秀明	· 有理 / 後藤	崇志 /	
ナンバリング番号	135PSY22	0											

		授業計画
 回数	タイトル	概要
第1回	フィールドに出てフィールドノー トに書く	フィールドノートを書く。イヤー・クリーニングと簡単なできごとの記述。
第2回	行動観察の第一歩	┃ ┃鉛筆の持ち方を題材に、行動の分類方法を考える。タイプ(排他的)とアスペクト(排他的でない) ┃の考え方。
第3回	目を使わずに考える	アイマスク歩行実習。体験をことばにする。
第4回	映像と音声記録の基本	カメラの扱い方、三脚、レコーダーの使い方。フィールドで映像と音声を記録する方法。記録したものを保存し分ける方法。
第5回	学内フィールドワーク	学内インターフェースの調査。静止画像の撮影方法と収集、比較方法。画像を取り込んだレポートの書き方。
第6回	学内フィールドワーク(2)	学内のドア開け行動を観察する。多人数のインタラクションを記述する第一歩。
第7回	行動の時間構造を分類する。	簡単な相互行為を撮影、記録して、そのデータを、もとに行動を時間に沿って捉える演習。
第8回	行動研究の意義	行動を指標として心の働きを考える
第9回	行動研究の過程	行動研究の進め方
第10回	行動研究の手法	実験的手法と自然観察
第11回	学外実習のための事前学習	研究対象と観察手順の理解
第12回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第13回	学外実習	研究対象の行動を観察・記録
第14回	観察データの処理	学外実習で得た観察データの分析とまとめ
第15回	観察結果の報告	グループ発表会と総括
第16回	自己と他者	ゲーミング・ワークショップを通じて、自己と他者の知識や認識の相違点。類似点について体験的に 学ぶ
第17回	他者とコミュニケーション(1)	ゲーミング・ワークショップを通じて、他者とのコミュニケーションに関わる心の働きについて学点
第18回	他者とコミュニケーション(2)	ゲーミング・ワークショップを通じて、他者とのコミュニケーションに関わる心の働きについて学点
第19回	自己の物語(1)	ゲーミング・ワークショップを通じて、人々が自分の過去・現在・未来をどのように捉えているのだ を体験的に学ぶ
第20回	自己の物語(2)	ゲーミング・ワークショップを通じて、人々が自分の過去・現在・未来をどのように捉えているのだ を体験的に学ぶ
第21回	個人・集団の意思決定(1)	ゲーミング・ワークショップを通じて、自分一人、あるいは集団で意思決定をする際に関わる心の側 きについて学ぶ
第22回	個人・集団の意思決定(2)	ゲーミング・ワークショップを通じて、自分一人、あるいは集団で意思決定をする際に関わる心の側 きについて学ぶ
第23回	学外フィールド実習	「関与しながらの観察」とは何かを知る。ぶあつい記述とは何かについて知る。
第24回	学外フィールド実習(事前学習 1)	自分たちの学校外の時間、遊びの記憶から、放課後の体験の意義について学ぶ。
第25回	学外フィールド実習(事前学習 2)	レクチャーをもとに、「放課後児童クラブ」の実際について学ぶ。
第26回	学外フィールド実習 (フィールド・エントリー 1)	放課後児童クラブでの参与観察(1):現場を体験的に知る
第27回	学外フィールド実習(自然場面の 記述)	放課後児童クラブでの参与観察(2):現場になじむ
第28回	学外フィールド実習(仮説検証し つつの観察)	放課後児童クラブでの参与観察(3):現場にはたらきかける
第29回	学外フィールド実習(ぶあつい記述)	放課後児童クラブでの参与観察(4):現場を記述する
第30回	学外フィールド実習 ( レフレクション )	参与観察結果をもとにレフレクションを行い、体験を深める。
		担当者から一言

講義名	心理学基	礎								
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	後藤	崇志
ナンバリング番号	133LVD10	5,134NUT1	106,13	5PSY201						

授業概算	

現代心理学の基本的なテーマについて解説する。	人間の行動の仕組みや行動の予測、	制御のメカニズム、	人間発達の原理や人格形成の理論	àなどσ
テーマをとりあげる。心理学的なアプローチにより	人間を理解しようとするための基礎	楚的な知識や考え方を	:身に着けることを目的とする。	

- (1) 人の思考や行動、社会生活などを支える心の仕組みの基礎について理解を深める。(2) 人の心の仕組みを明らかにし、社会に活かそうとする科学的なアプローチについて理解を深める。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	50%	授業でとりあげたトピックについての課題認識および心理学の多様な内容と方法への理解によって評価する。									
レポート課題	50%	授業中に提出を求める小レポートによって、受講者なりの問題理解と問題設定ができているかを評価する。									
上記以外											

授業時に実験や質問紙調査などの心理学的な研究手法の体験学習をとりいれるので、積極的な参加を求める。

## 授業外学習

参考書や授業中に紹介する資料・ウェブサイト等を読み、授業内容についてより深く理解できるように努めることが望ましい。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	はじめて出会う心理学	長谷川寿一他	有斐閣	9784641123458						
2	心の科学 理論から現実社会へ [第2版]	兵藤宗吉・緑川 昌 編	ナカニシヤ出版	9784779511431						
3	アカデミックナビ 心理学	子安増生 編	勁草書房	9784326251155						

各回のテーマごとに、適宜、授業中に参考書を紹介する

前提学力等

講義名	心理学基	礎								
講義コード	1401540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	後藤	崇志
ナンバリング番号	133LVD10	5,134NUT	106,13	5PSY201						

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	心理学の歴史や、領域・研究手法の多様性について学ぶ。 							
第2回	日常生活の中の心理学	心理学の概念や理論が、日常生活のどのような現象と関わっているかを概観する。							
第3回	感覚と知覚	人が外界からの刺激をどのように受け取っているかを学ぶ。 							
第4回	学習と行動	生物の行動が経験を通じて変化する仕組みの基礎について学ぶ。							
第5回	記憶と認知	記憶に関わる諸現象と、それらの現象を支える心の仕組みについて学ぶ。							
第6回	思考とメタ認知	人の思考や判断を支える心の仕組みについて学ぶ。							
第7回	感情と意思決定	感情が喚起される仕組みや、意思決定において果たす役割などについて学ぶ。							
第8回	自己と動機づけ	自己を制御し、行動を動機づける心の仕組みについて学ぶ。							
第9回	共感と社会性	他者との関わりや社会生活を可能にする心の仕組みについて学ぶ。							
第10回	知能とパーソナリティ	人の個人差を記述し、理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。							
第11回	発達と進化	人の心の起源や、環境適応的な特徴を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ							
第12回	集団と文化	集団・社会生活を行う中で生じる現象を理解しようとする心理学の試みについて学ぶ。							
第13回	教育とリーダーシップ	教育や組織運営、経営などの改善に活かそうとする心理学の試みについて学ぶ。							
第14回	病理と臨床	心の病理を理解し、治療に役立てようとする心理学の試みについて学ぶ。							
第15回	まとめ	講義で扱った様々な概念の関係性について俯瞰しつつ、扱いきれなかった内容の紹介も行う。							
		担当者から一言							

講義名	生活経営	論								
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	山田	步
ナンバリング番号	333MKD28	2,234NUT3	371,33	5LAH308						

挼		

この授業では、私たちを取りまく生活環境を学び、現在そして将来、私たちの生活をよりよくマネジメントする力とそれらを	改善する力を身につけ
ることを目標とします。身近な生活課題をとりあげると同時に、ソーシャル・デザインの視点から展開されている様ざまなコ	ミュニケーション施策
をみていくことで、現在と将来の自分の生活を見つめ直し、それらをよりよいものに設計することに役立ててもらいたいと考	えます。授業では受講
生みずからも課題を発見し、それを解決するアイデアを考えてもらいます。	

- 1.私たちを取りまく生活環境を理解しているか 2.社会や生活者が抱える課題を発見し、それらを解決する力を身につけているjか

成績評価				
種別	種別 割合(%) 評価基準等			
定期試験				
レポート課題	100	社会や生活者が抱える問題を発見する力、また、それらを解決する力について評価する。		
上記以外				

# 授業外学習

	教科書				
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN	
1					
2					
3					

参考書					
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN	
1	アイデアは地球を救う。希望をつくる仕事 ソーシャルデザイン	ソーシャルデザイン会議実行委員 会	宣伝会議		
2	Communication Shift	並河進	羽鳥書店		
3					

# 前提学力等

講義名	生活経営	論								
講義コード	1401560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	山田	步
ナンバリング番号	333MKD28	2,234NUT3	371,33	5LAH308						

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	講義全体のオリエンを行います。								
第2回	環境	地球環境 消費社会								
第3回	環境	地球環境 消費社会								
第4回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第5回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第6回	家族	人口と世帯の変化 結婚・夫婦関係								
第7回	健康	健康悩み								
第8回	健康	健康悩み								
第9回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策								
第10回	地域社会	地域や人とのかかわり方 地域の安全・安心対策								
第11回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第12回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第13回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第14回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
第15回	プレゼンテーション	生活課題・社会課題の改善策について提案する								
		担当者から一言								

											1
	講義名	生活指導	論/								
静	<u></u> 義コード	1401570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	原未来	
ナン	バリング番号										
	授業概要										
教育さま	やそれにかか; ざまな資料の; 材から、現代	わる現象は 分析をおこ の子ども・	t、誰もが! :なうことで 若者、ひ!	身近に を通し 1てに	:体験して ;て、自ら t自分が、	きたものだ の教育体験 どのような	げに、感情的 や「常識」を は世界を生きて	・主観 相対化 いるの	的に語られや し、多角的な か、教育とは	すい。本授業では、 ものの見方を身につ 何かについて、考え	統計・インタビュー調査など けていくことを目指す。身近 を深める機会としてほしい。
							到達目標	E C			
・統・意	計資料やイン見交流のなか	タビューデ で自分の意	ータ等を 見を表現し	もとに し、ま	、生活・ た、他者	教育現象を の異なる意	正確かつ多面 見から自らの	的に把 考えを	握し、今日の 深める	教育的課題について	理解する
							可能性がある		.,,,,,,		
	成績評価										
	種別	割合(%)	評価基準	等							
5	定期試験										
レ	ポート課題										
	上記以外	記以外									
到達	目標に即して、	、総合的に	<u> </u> 評価する								
							授業外学	習			
資料	を事前に読ん	でくること	を求めるは	易合か	がある。ま	た、授業内			については、	 自身で積極的に学習	引し、発信してほしい。
							教科書				
No		書	籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1											
2											
3											
No		聿4	 籍名				参考書 著者名			 出版社	ISBN/ISSN
1			KB TD				有日节			LIJNXTL	1001/1001
2											
3											
	中に資料プリ	 ントを配布	するほか	参老	:書も適宜: :	 紹介する					
	5 . 1 . 5 .	. = 40 11	. 2.37				前提学力等	<b>等</b>			
							7.15	·1			
							履修資格	Z			
							復10 頁化	ī			

講義名	生活指導	論/								
講義コード	1401570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	原	未来
ナンバリング番号										

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、グループづくり
第2回	学校の機能と格差 1	学歴のもつ意味とは(学歴社会)
第3回	学校の機能と格差 2	学校の社会的機能(社会化、選別・配分、正当化)
第4回	学校の機能と格差3	日本の努力主義(学力と階層、インセンティブ・ディバイド)
第5回	学校の機能と格差4	学校で生まれる不平等、それに抗する学校(再生産、エフェクティブ・スクール)
第6回	現代の子育てと教育 1	貧困に直面する家族と子ども(生活保護、貧困、進学率)
第7回	現代の子育てと教育 2	日本の高い教育費(教育費、進学格差)
第8回	現代の子育てと教育3	日本の奨学金制度(奨学金、延滞)
第9回	若者たちの仕事の世界 1	若者たちの労働の現場(非正規雇用、ブラック企業)
第10回	若者たちの仕事の世界 2	学生アルバイト (ブラックバイト、労働法)
第11回	若者たちの仕事の世界 3	労働教育を問う(教育実践分析)
第12回	若者たちの仕事の世界 4	若者たちのアクション(ユニオン、デモ)
第13回	子どもたちの生きる世界 1	子どもたちの生きる世界(小学校実践)
第14回	子どもたちの生きる世界 2	今日の友だち関係(友だち関係の発達、いじめ)
第15回	まとめ	全体のまとめ
		担当者から一言

グループワーク等を通じて、資料読解・意見交流をする機会が多い授業になります。ぜひ自身の考えを深める機会にしてください。

講義名	生活と教	生活と教育							
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	原 未来 
ナンバリング番号	135EDU201								
						授業概要	更		
教育やそれにかか さまざまな資料の な題材から、現代	わる現象は 分析をおこ の子ども・	t、誰もが こなうこと 若者、ひ	身近に を通し いてに	:体験して: ;て、自ら: t自分が、:	きたものだ の教育体験 どのような	けに、感情的や「常識」を せ界を生きて	り・主観 ∈相対化 □いるの	的に語られや し、多角的な か、教育とは	すい。本授業では、統計・インタビュー調査などものの見方を身につけていくことを目指す。身近何かについて、考えを深める機会としてほしい。

- ・統計資料やインタビューデータ等をもとに、生活・教育現象を正確かつ多面的に把握し、今日の教育的課題について理解する ・意見交流のなかで自分の意見を表現し、また、他者の異なる意見から自らの考えを深める
- なお、受講生の理解や関心によって、扱う順序や内容を変更する可能性がある

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題										
上記以外	100	学期末課題(レポートもしくは試験)70% 授業後のリアクションペーパーの内容30%								

到達目標に即して、総合的に評価する

### 授業外学習

資料を事前に読んでくることを求める場合がある。また、授業内で関心をもった事柄については、自身で積極的に学習し、発信してほしい。

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

授業中に資料プリントを配布するほか、参考書も適宜紹介する

前提学力等

講義名	生活と教	育								
講義コード	1401575	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	原	未来
ナンバリング番号	135EDU20	135EDU201								

	<u> </u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、グループづくり
第2回	学校の機能と格差 1	学歴のもつ意味とは(学歴社会)
第3回	学校の機能と格差 2	学校の社会的機能(社会化、選別・配分、正当化)
第4回	学校の機能と格差 3	日本の努力主義(学力と階層、インセンティブ・ディバイド)
第5回	学校の機能と格差4	学校で生まれる不平等、それに抗する学校(再生産、エフェクティブ・スクール)
第6回	現代の子育てと教育 1	貧困に直面する家族と子ども(生活保護、貧困、進学率)
第7回	現代の子育てと教育 2	日本の高い教育費(教育費、進学格差)
第8回	現代の子育てと教育3	日本の奨学金制度(奨学金、延滞)
第9回	若者たちの仕事の世界 1	若者たちの労働の現場(非正規雇用、ブラック企業)
第10回	若者たちの仕事の世界 2	学生アルバイト (ブラックバイト、労働法)
第11回	若者たちの仕事の世界3	労働教育を問う(教育実践分析)
第12回	若者たちの仕事の世界 4	若者たちのアクション(ユニオン、デモ)
第13回	子どもたちの生きる世界 1	子どもたちの生きる世界(小学校実践)
第14回	子どもたちの生きる世界 2	今日の友だち関係(友だち関係の発達、いじめ)
第15回	まとめ	全体のまとめ
		 担当者から一言

担当者から一言

グループワーク等を通じて、資料読解・意見交流をする機会が多い授業になります。ぜひ自身の考えを深める機会にしてください。

講義名	政治経済	 学 								
講義コード	1401720	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	梅澤	直樹
ナンバリング番号	335LAH31	1,3371LA2	212							

経済のグローバル化が深まるなかで、格差の拡大や地球規模での環境問題が深刻化するなど、ひたすら豊かさを追い求め、経済成長を追及してきたれたちの経済活動のあり方を見つめ直してみようという問題意識も広がっています。本講義では、こうした問題意識を背景に、市場経済システムとはどのような特性を帯びた経済活動のあり方なのか、また資本主義的経済システムはどのような特性を帯びているのか、さらに豊かさを追い求めてきた「近代」という時代を見つめ直すとすればどのような点に注目してゆくことになるのだろうかということを、考察してゆきます。政治経済学というのは、家政としてのオイコスに対して、よりよき社会をつくりあげるために社会全体の経済のあり方について考えようとする学問であり、そもそも経済学とそうした政治経済学として誕生しました。本講義では、そうした政治経済学の歴史を振り返るとともに、資本主義的市場経済システムの特性をあらためて見つめ直すくして迎上しました。本講義では、そうした政治経済学の歴史を振り返るとともに、資本主義的市場経済システムの特性をあらためて見つめ直そうとしたマルクスやJ.S.ミル、さらにセンやボランニーなどを参照しつつ、私たちが暮らしている経済のあり方が常識としているところを見つめ直す、つまり「相対化」し、かつてJ.レノンが歌ったように柔軟に「想像力」を膨らませてゆく姿勢や力を培ってゆきたいと思います。そのさい、経済学は本来、社会学や哲学にも開かれた開放的学問であることに目を向け、労働が人間にとって持つ意味や現代の消費活動が私たちの思考をどのような方向に誘っているのかといった問題にも考察を広げてゆきます。そうした結果、受講者が、ひとつの答えに満足するのではなく、むしろ複眼で、さまざまな視点から事象を捉えようとする力、習慣を身につけてくれることを期待します。

#### 到達目標

- (1)社会科学の方法について認識を深め、主体的に学習することの重要性を理解する。

- (1)社会科学の方法にJTTと認識を味め、主体的に学育することの重要性を理解する。 (2)市場経済システムの特性について理解する。 (3)資本主義経済システムの特性について理解する。 (4)上記の(1)~(3)を通じて、そのうちに暮らすことで当然のことと常識化してしまっている事柄について、あらつめ直し、柔軟に想像力を膨らませて、直面する問題の解決に向けて回答を模索する力、姿勢、習慣を身につける。 あらためて複眼で多様な視点から見

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	100%	試験問題において、到達目標 $(1)$ ~ $(3)$ について理解度を問うとともに、 $(4)$ に関わって、たとえば宅配便のあり方や $100$ 円ショップなどについて各自が思うところを論述してもらって、常識にとらわれることなく多様に想像力を膨らませる力をどの程度身につけたかを見る。								
レポート課題										
上記以外										

#### 授業外学習

	教科書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1	「経済」とは何かを問い直す	松嶋敦茂、長尾伸一他	ミネルヴァ書房					
2								
3								

本年9月刊行予定です。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

講義中に適宜、指示します。

前提学力等

講義名	政治経済	<del>"</del>								
講義コード	1401720	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	梅澤	直樹
ナンバリング番号	335LAH31	1,3371LA2	212							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	政治経済学とは?	授業概要に記したところを詳しく説明します。
第2回	政治経済学と社会科学の方法	政治経済学の「経済」へのアプローチの仕方を、M.ウェーバーの社会科学方法論に即して、さらに自 然科学を含む科学一般の問題として考察します。
第3回	政治経済学の歴史(1)	原点としてのアリストテレス、経済学の本格的成立を担ったスミス、ケネーなどの古典派経済学者に 即して経済学が政治経済学として誕生したことを振り返ります。
第4回	政治経済学の歴史(2)	古典派経済学を現代経済学の主流をなすミクロ経済学と比較しながら、「再生産」という視点を再評価するとともに、古典派経済学を批判的に継承しようとしたマルクスの独自な視点がどこにあったの
第5回	市場経済システム論(1)	市場経済システムのシンボルである「貨幣」について考察することによって、市場経済システムの帯 びる特性について考えます。
第6回	市場経済システム論(2)	前回見たような市場経済システムの特性を前提としたとき需要供給の均衡はいかにしてもたらされる のか、価格信号による調整を超えた独自の仕組みに目を向けます。
第7回	市場経済システム論(3)	市場経済システムが、その帯びる特性ゆえに、一方で経済の活力を引き出すと同時に、他方で浪費や外部不経済といった資源・環境問題を誘発する傾向を持つという、この経済システムの光と影につい
第8回	資本主義経済システム論(1)	資本主義経済システムの核をなす「労働力の商品化」について考えます。と同時に、そうした社会関係の再生産、さらに現代における格差の拡大が孕む問題点について、社会学的考察を交えて検討しま
第9回	資本主義経済システム論(2)	マルクスが資本主義経済システムの考察に用いた労働価値説をめぐって、その意義と限界について検討します。
第10回	資本主義経済システム論(3)	人間にとって労働はいかなる意味をもっているのかを振り返ります。さらに、そのことが、現代にお ける格差の広がりに対してもっている意味について、また少子・高齢化社会において重要性を帯びる
第11回	資本主義経済システム論(4)	「人間にとっての労働の意味」が、資本主義経済システムを円滑に動かすうえでどのような論点をも たらし、かつての日本経済の強さをどのように支えていたのか、したがって経済のグローバル化が深
第12回	資本主義経済システム論(5)	資本主義経済システムが推し進めた「豊かな」社会の追求という「近代」という時代の特性の現代的 到達点について、J.P.ボードリヤールの記号消費論を参照しながら、考察します。
第13回	K. ポランニーの現代資本主義論 (1)	これまでの考察を踏まえて現代資本主義経済を見つめ直す際のひとつの立脚点として、K.ポランニーの「二重運動論」の意義と限界について検討します。
第14回	K.ポランニーの現代資本主義論 (2)	現代資本主義経済の相対化に興味深い論点を投げかけるものとして、不確実な社会における「自由」 のあり方について、またきわめて急速に変化してゆく社会が「文化」にどのような影響をもたらすか
第15回	講義全体のまとめ	本講義を通じてどのような問題を明らかにしようとしてきたか、またそのことを通じて受講者にどのような力、姿勢、習慣を培ってもらうことをめざしてきたのか、あらためて簡潔に振り返り、本講義
		担当者から一言

講義名	組織とネ	ットワーク	クの社	会学						
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	担当教員	岩舘	豊	
ナンバリング番号	330S0C30	2,335500	309							

組織とネットワークは社会を構成するきわめて重要な要素である。たとえば、企業、学校、役所、コンビニなどのフランチャイズ・ネットワーク、インターネットで結びつくリアル / ヴァーチャルなコミュニティ等々を抜きに現代社会を語ることは不可能である。また、社会そのものの存在を実感することは困難でも、組織とネットワークであればその存在を具体的で可視的なものとして認識することはさほど難しくない。したがって、組織とネットワークは、社会というつかみどころのない対象を捉えるための格好の切り口または出発点になりうる。このような問題意識のもとで近代以降の組織とネットワークの特徴を考察することによって、近現代社会の構造と変動を理解するとともに、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につけることがこの授業の目的である。

授業では、官僚制化と脱官僚制化のダイナミズムを軸としながら、組織とネットワークの歴史的変遷を見ていく。概念と理論について説明するだけでなく、具体的な事例を紹介するための写真、映像、新聞記事などを積極的に活用しながら授業を進める。

### 到達目標

- (1) 近代以降の組織とネットワークに関する基礎的な知識を得る(2) 組織とネットワークの考察を通して、近現代社会の構造と変動に関する理解を深める(3) 組織とネットワークの考察を通して、現代社会の分析に役立つ社会学的知識・概念・センスを身につける

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	最終レポート
上記以外	60	平常点(出席・授業への参加度) 課題(授業内の作業)

#### 授業外学習

	教科書						
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN			
1							
2							
3							

テキストは特に指定せず、配布資料をもとに講義を進める。

	参考書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1	権力と支配	M.ウェーバ	講談社					
2	産業・労働社会学:「働くこと」を社会学する	小川慎一・山田信行・金野美奈子 ・山下充	有斐閣					
3	ボランティアからひろがる公共空間	関嘉寛	梓出版社					

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』、有斐閣、第4章「組織とネットワーク」。

#### 前提学力等

講義名	組織とネ	ットワーク	クの社	会学				10.1/14/5 E		
講義コード	1401790	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	岩舘	豊
ナンバリング番号	330S0C30	33080C302,33580C309								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	授業の進め方と成績評価の方法について説明する。
第2回	社会と組織・ネットワーク	組織とネットワークが社会においてどのような役割を果たしているかを考察する。
第3回	官僚制組織	ウェーバーの官僚制理論について学ぶ。
第4回	官僚制の逆機能	官僚制が持つ逆機能をマートンの議論を中心に考察する。
第5回	組織の合理化	フォード生産システムについて学ぶ。
第6回	ポスト・フォーディズム	「新時代の『日本的経営』」とその後の展開について、ポストフォーディズムの視点から概観する
第7回	労働のフレキシブル化	正社員の過重労働と非正規雇用の拡大について学び、その社会的影響を考察する。
第8回	労働組合の歴史	企業別労働組合と個人加盟型ユニオンについて学ぶ
第9回	労働組合の機能	労働者の権利と労働組合の機能について学ぶ
第10回	若者の労働組合実践	非正規で働く若者の労働組合実践の事例を考察する
第11回	脱官僚制とネットワーク	現代社会のネットワーク化について概観する
第12回	非営利組織	NPO・NGOの基本と社会関係資本について学ぶ
第13回	災害とボランティア	阪神・淡路大震災の経験から学ぶ
第14回	災害とボランティア	東日本大震災・津波被災地のボランティア活動の事例を考察する
第15回	まとめ	これまでの授業を振り返りながら、組織とネットワークが社会においてどのような役割を果たしているかを改めて検討する。
		担当者から一言

講義名	卒業研究	・論文(ノ	人間関	係)					学科教員/上野 有理/大野 光明/ 木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/	
講義コード	1401820	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央	
ナンバリング番号	435HUR40	2						14年 万明 / 九田 县大		

ナンハリン	ク留写	433HUR4U					
				授業概要			
「人間関係	統論演習	」および		」での指導と研究を踏まえて、	各自の設定した課題を、	所定の様式の論文とし	 ノて完成する。
	: 聿 キ ト 1	<b>ボスーレ</b>		到達目標			
卒業論文を	(古で工)	1955					
				-15 (+ b-+ 17)			
 種別		割合(%)	評価基準等	成績評価			
定期試		пэн (м)	HIME I'S				
<b>是</b>	神火						
レポート	·課題						
上記以	外	100	卒業論文構想発表は   況を総合して合否を	と卒業論文中間発表の内容、提出 を評価する。	出された卒業論文の内容、	および、口頭試問と	卒業論文発表会での状
					l		
No				著者名		出版社	ISBN/ISSN
1							
2							
3							
 授業中に適	育指示	 する.				l	
12,30 1 10.20		, <b>J</b>		参考書			
No			 籍名			出版社	ISBN/ISSN
		<u></u>	·			···-	
1							
2							
3							
	x⇔+c = -	<del></del>					
授業中に適宜指示する。							
				前提学力等			
				履修資格			

講義名	卒業研究	・論文(ノ	人間関	係)				   学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 /   木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 /	
講義コード	1401820	単位数	8	開講期	通年研究	授業種別	演習	担当教員	木村 裕/復藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央
ナンバリング番号	435HUR40	)2						TAIIIII	

授業計画							
回数	タイトル	概要					
第1回	オリエンテーション	各回は、ゼミごとに実施する。詳細はオリエンテーションで説明する。					
		なお、各ゼミ共通の内容として、以下を予定している。 4月下旬 卒業論文構想発表会					
		担当者から一言					

講義名	哲学概論	Α								
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	鞍田	崇
ナンバリング番号	2300TH20	2,235LAH3	301							

「デザインと連携する哲学」を探るのが、この授業のねらい。

「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」が、いま、哲学に課せられています。この役割は、哲学だけでは担いきれない。デザインとの 連携があってはじめて可能となるものです。なぜなら、両者セットで人間固有の能力だからです。

ところで、ここでいう「社会」とは,自分たちが生活をいとなむ社会です。「これからのあるべき社会の姿をデザインすること」を考える上で、何よりも大事なのは、「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。この講義では、何よりもまず、そうした実感を皆さんと共有していきたいと考えています。

でも、なぜか。社会が大きく変わりつつある、いや大きく変えなきゃいけない時代だからです。この講義を機に、特にみなさんにぜひ考えていただきたいことが2点あります。

#### 1)人口減少

### 到達目標

- 1 . 自分で「哲学する」ことのきっかけを得ること。 2 . 社会と暮らしが「ひとごとじゃない」という実感をもつこと。 3 . 現代思想で問われていることの意味と歴史的背景を理解すること。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	50	学期末の最終レポート課題です。論述力、表現力、着眼点など、総合的に判断します。								
レポート課題	35	学期中に一回、小レポート課題を出します。								
上記以外	15	平常点として、授業への取り組み方など。								

#### 授業外学習

参考事例として掲げたものは、適宜自分でも調べるように。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	民藝の「インティマシー」	鞍田崇	明治大学出版会	4906811132						
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	民藝 のレッスン	鞍田崇(編)	フィルムアート社	4845911833						
2	「生活工芸」の時代	三谷龍二(編)	新潮社	4103365315						
3	哲学入門以前	川原栄峰	南窓社	4816500545						

#### 前提学力等

哲学概論ですが、狭義の哲学・思想だけが対象ではありません。 デザインやアート、建築や工芸、農業や民俗などなど、ひろく柔軟な興味関心をもっていることがのぞましいです。そうじゃない人は、この機会に

講義名	哲学概論	A								
講義コード	1402240	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	鞍田	崇
ナンバリング番号	2300TH20	2300TH202,235LAH301								

授業計画							
回数	タイトル	概要					
第1回	プロローグ	座布団とイスは、どう違いますか?これが、実は哲学の基本です。 					
第2回	いま「哲学」とは?	哲学とデザイン、デザインと哲学、両者はいまとても近い位置にあります。でも、どのあたりでしょうか。					
第3回	あらためて「いま」とは?	COUNTER + TREND = ? エコロジーと社会の20年周期説。過去半世紀にわたるエコの取り組みから「いま」を考えます。					
第4回	エコロジー第3世代の幕開け	2010年代は、大きな変化のはじまりの時代。まず、ソーシャル(社会意識)の高まりについて。					
第5回	エコロジー第3世代の幕開け	ライススタイル (生活意識)のブーム化が二つ目。					
第6回	エコロジー第3世代の幕開け	「私たち」からの撤退と、「無数の小さな矢印」の時代について。					
第7回	エコロジー第3世代の幕開け	20世紀と21世紀のちがい、ゼロ年代と10年代のちがい。					
第8回	日常	10年代以降、重要になる問題を、「日常」「感性」「風土」「平凡」の四つのキーワードのもとに考えていきます。まずはその一つ目。20世紀ドイツの思想を参考に、表層文化と基層文化について。					
第9回	日常	「つくること」からの撤退、あるいは「ポスト工業化社会」の次について。手仕事のこれからも考えつつ。					
第10回	感 性	これも自分と認めざるをえない「自分」とは?					
第11回	感 性	彼は私にキスをした。これを英訳できますか。そこから見えてくる「私」と身体の関係。フランスの 思想家たちの議論も参考に。					
第12回	風 土	シュリンキング・ソサイエティという言葉があります。人口減少期を表す用語です。その意味を、「縮退」から「濃縮」へという視点から。					
第13回	風 土	ひきつづき、人口減少期の可能性と成長の在り方について。自然をどう考えるかがカギになります。					
第14回	平凡	平凡といわれて喜ぶ人はいません。でもじつは大事なのはそこ。ひろがりから深まりへ、「価値観の 転倒」の試み。					
第15回	平凡 :まとめ	「肯定のみされる平凡」、かつてそう言った日本の思想家がいます。その議論を参考に、講義全体を まとめます。					
		担当者から一言					

講義名	哲学概論	В								
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	鈴木	真
ナンバリング番号	2300TH203,235LAH302									

1.77	SH	4nT	-
	業		

	その古典に触れてみることが有用です。この授業では、	哲学の古典の可能な限り易しい紹介と批評を読んで議
論することを通じて、哲学の様々なト	トピックと議論について考える基礎を作ります。	

講義で扱う哲学者たちの基本的動機、概念、主張、それを支える方法と証拠、彼らに対する批判を理解し、 彼らが扱う哲学的問題について考えるための基礎力をつける。

	成績評価								
種別	割合(%)	評価基準等							
定期試験	0								
レポート課題	70								
上記以外	30	授業への貢献							

## 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	入門 哲学の名著	ナイジェル・ウォーバートン著・ 船木亨監訳	ナカニシヤ出版	4888489033						
2										
3										

## 前提学力等

講義名	哲学概論	В								
講義コード	1402250	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義	担当教員	鈴木	真
ナンバリング番号	2300TH203,235LAH302									

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	導入	授業概要を説明するとともに、受講者を哲学に導入します。そして、古代ギリシャの哲学者ソクラテスの立場と議論を検討します。
第2回	プラトン『国家』	ソクラテスから学んだプラトンが展開した目的論的哲学を紹介し検討します。
第3回	アリストテレス『ニコマコス倫理 学』	プラトンの創始した高等教育機関アカデメイアで学んだ、アリストテレスの倫理学を紹介し検討します。
第4回	西欧古代末期から中世の哲学	西欧古代末期から中世にいたる哲学的潮流を紹介し、特に形而上学に関連するいくつかの重要な議論 を検討します。
第5回	デカルト『省察』	近代哲学の祖と呼ばれるデカルトの合理主義的認識論と形而上学を紹介し検討します。
第6回	ホップズ『リヴァイアサン』	近現代的な倫理学・政治哲学の先駆けであるホップズの立場と議論を紹介し検討します。
第7回	ロック『人間知性論』	ロックの経験主義的な認識論と形而上学を紹介し検討します。
第8回	ヒューム『人間知性に関する探究』	ヒュームの経験主義に基づく懐疑論を紹介し検討します。
第9回	カント『純粋理性批判』	カントの超越論的観念論を紹介し検討します。
第10回	カント『人倫の形而上学の基礎づけ』	カントの倫理学理論を検討し紹介します。
第11回	ミル『自由論』・『功利主義』	ミルの功利主義と、それに基づく自由擁護の議論を紹介し検討します。
第12回	マルクス/エンゲルス『ドイツ・イ デオロギー』	マルクスの『ドイツ・イデオロギー』序論における議論を紹介し検討します。
第13回	エア『言語・真理・論理』	エアの論理実証主義と、それに基づく形而上学批判を紹介し検討します。
第14回	セラーズ「科学的人間像」	20世紀米国の哲学者セラーズによる哲学の再定義(自然主義)を紹介し、その歴史的意義を検討します。
第15回	ロールズ『正義論』	20世紀米国の哲学者ロールズの倫理学・政治哲学理論を紹介・検討し、その歴史的意義を考察します。
		担当者から一言

講義名	天然物化	天然物化学基礎							\**** 7/.		
講義コード	1402280	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	遠藤	弘史/森	紀之
ナンバリング番号	134NUT105,135LAH205										

塪	7111	TOT	-

高校で学習する「化学」の内容も含め、無機化学・有機化学・物理化学・分析化学・生化学の基礎的な内容について、身近な「食生活」を中心テーマとして学習する。

## 到達目標

- 1 化学構造式を用いて分子の表現と理解が出来る 2 様々な化学反応について理解し熱力学的な説明ができる 3 物質の物理化学的動態の基本が理解できる 4 基本的な酵素反応が理解できる 5 食品成分の構造およびその化学的変化について理解できる

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験	100	到達目標の1~5において,それぞれ20点分の計100点でその理解を問う筆記試験をおこなう.								
レポート課題	0									
上記以外	0									

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

#### 授業外学習

授業当日までに教科書の該当箇所を読み、分からないことを明らかにしておくこと。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	食を中心とした化学	北原重登 他	東京教学社	978-4-8082-3044-9						
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

### 前提学力等

講義名	天然物化	天然物化学基礎									
講義コード	1402280	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	遠藤	弘史/森	紀之
ナンバリング番号	134NUT10	134NUT105,135LAH205									

	<u> </u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	化学の世界の単位 , 用語の基礎	本講義を理解する上で必須となる、化学で用いられる単位や用語について理解する。
第2回	原子の構造と電子配置	物質は何からできているのか、物質の成り立ちを理解する。
第3回	分子の形と化学結合	原子の安定化と化学結合から物質の成り立ちを理解する。
第4回	いろいろな化学変化	化学変化による物質の変化を理解する。
第5回	化学変化と熱の関わり	反応熱、反応速度、可逆反応と化学平衡について。
第6回	pHと緩衝液	酸と塩基とは何か、そして緩衝液について理解する。
第7回	化学反応の速さと酵素反応1	化学反応の速さとそれに関わる酵素反応の原理について理解する。
第8回	化学反応の速さと酵素反応2	化学反応の速さとそれに関わる酵素反応の応用について学習する。
第9回	物質の三態と蒸気圧	物質の状態の変化と性質について理解する。
第10回	物質の溶解と浸透圧	物質が液体に溶解する際に起こる現象につて理解する。
第11回	炭水化物の構造と化学	食に関わる炭水化物について、化学的視点で理解する。
第12回	脂質の構造と化学	食に関わる脂質について、化学的視点で理解する。
第13回	タンパク質 , アミノ酸の構造と化 学	食に関わるタンパク質およびアミノ酸について、化学的視点で理解する。
第14回	アルコール生成物の構造と化学	食に関わるアルコールおよび有機酸とについて、化学的視点で理解する。
第15回	微量元素,非栄養素の構造と化学	食に関わる微量元素および非栄養素について、化学的視点で理解する。
		担当者から一言

講義名	統計学基	礎								
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	細馬	宏通
ナンバリング番号	133LVD10	107,13	5PSY203							

最近ではパソコンやソフトウェアのおかげで、数式を意識しなくとも気軽に統計をあつかえるようになってきた。にもかかわらず、いざデータを手にとると、どこから手をつけていいかとまどう人が多い。そもそもなぜそのデータに対して統計的処理を行なう必要があるのか。データにはどんな性質があるか。どんなタイプのデータにはどんな手法がふさわしいのか。どんな手法を使うとどんな結果が引き出されるのか。本講義では、以上のような問題を念頭に置きながら、標本や母集団などの基本的概念から出発して、推定や検定、検証的アプローチと探索的アプローチの基本的な知識を扱う。

### 到達目標

- (1)母集団と標本の概念を身につける。 (2)相関を含む記述統計量の基本的な使い方を習得する。 (3)推定と検定の基本手順を習得する。 (4)日常生活で用いられる統計学的な考えに関心を持ち、検証する態度を身につける。

		成績評価								
種別	割合(%)	合(%) │評価基準等								
定期試験	70%	全回で扱った統計学的知識が正しく理解できているかを問う。								
レポート課題										
上記以外	30%	小テスト(随時):各回で扱った統計学的知識を理解しているかを問う。								

#### 授業外学習

	教科書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	4478820090							
2											
3											

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1											
2											
3											

#### 前提学力等

講義名	統計学基	礎								
講義コード	1402360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	細馬	宏通
ナンバリング番号	133LVD10	6,134NUT1	107,13	35PSY203						

	·	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	統計学は(何の)役に立つのか?
第2回	母集団と標本	サンプリングによって世界を把握するという考え方について。記述統計学と推計統計学の違い。
第3回	分布を考える	分布の代表的な形。偶然のできごとはいかに分布するのか。二項分布について。
第4回	表とグラフ、位置とばらつき	数値計算の前に、データを視覚化し、整理するだけで分かることは何か。位置とばらつきについて。
第5回	記述統計(1)	平均と標準偏差、その表現法。
第6回	記述統計(2)	中央値と四分位数、箱ひげ図。
第7回	正規分布とは何か	正規分布の主な性質
第8回	推定	推計統計学とは何か。中心極限定理と信頼区間。
第9回	比較と検定	仮説検定法、帰無仮説の考え方、平均の比較。
第10回	比較と検定	さまざまな検定法:平均の差の検定、 二乗検定など。
第11回	実験計画法	実験を計画することと統計学。
第12回	分散分析と多重比較	要因と水準、対応の考え方。一元分散分析の基礎。交絡要因の考え方。
第13回	相関と回帰(1)	記述統計としての相関。相関係数の読み方。
第14回	相関と回帰(2)	推計統計としての回帰。モデルを立てること。「実現値 = 期待値 + 誤差」という考え方。
第15回	まとめ	
		担当者から一言

講義名	日本社会	論								
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	130S0C10	1-0,23580	)C303-	С						

同じ「日本社会」の中で暮らしつつも、	その社会のメンバーシップからはじき出	されてきた様々な人々の姿を通	iして,戦前・戦後の「日本社会	」の
姿を再検討することにある。労働市場か	いらも教育からも福祉からも排除されてい	く人々の視点から「日本社会」	はどう映るのか。またそうした。	人々
を改めて社会に包摂した形で社会的な遺	『帯を創り出すことの可能性を論じる。			

## 到達目標

- (1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、そのメカニズムを理解することができる。 (2)戦後~現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について理解することができる

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	100	(1)戦前期日本における国民国家形成のプロセスと、貧困や差別を背景として人々が国家にどのように動員されたのか、(2)戦後~現代の日本における非正規雇用者やエスニック・マイノリティに関する社会的排除と現代に至るその顕在化について、の2点についての理解度に基づき、評価を行う。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。									
上記以外											

レスポンスカードの内容に基づいて、加点する場合がある(最大5点)。

## 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書										
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN							
1	ナショナリズム論・入門	大澤真幸・姜尚中(編著)	有斐閣	4641123357							
2											
3											

毎回、レジュメを配布する。

近現代の日本史について、高校教科書程度の知識があることが望ましい(必須ではない)。

講義名	日本社会	論								
講義コード	1402400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	130S0C10	1-0,23580	)C303-	С						

	ファロラ 100000101 0,200000000 0	
	F (1.11	授業計画
回数	タイトル	概要 
第1回	イントロダクション	近代における「日本」や「日本人」意識の創出、そしてその境界線が歴史的に変容し続けて来たことを論じる。
第2回	「四民平等」の中の格差と差別	明治政府による「日本人」意識の創出と国民統合、そしてその一方での排除や差別について論じる。 
第3回	メディアとしての天皇制	国民統合のメディアとしての天皇制について論じる。
第4回	天皇をめぐる忠誠ゲーム	天皇制をめぐる人々の本音と建前、利用や自粛を通じて、人々が自ら国家への動員に協力することに なるメカニズムを論じる。
第5回	「日本人」への主体化と差別の連 鎖	琉球の日本への併合と同化政策、そして琉球出身者が自ら同化に向かわざるを得なくなったメカニズムを論じる。
第6回	農村の貧困とコロニアリズム	満洲移民を通して、戦前期日本の農村の貧困と国家への動員を論じる。
第7回	都市における貧困	戦前期日本における都市の貧困と社会政策の不在について論じる。
第8回	植民地の獲得・喪失と「日本人」 概念の再編成	戦後に入って植民地を失った日本において、「日本」や「日本人」概念がいかに再構築されたかを論 じる、
第9回	高度成長の中の「見えない貧困」 (1)	戦後日本の高度成長において、貧困や社会的排除は一見して見えにくくなったが、しかし存在していた。日雇い労働や金の卵を通してそれについて論じる。
第10回	高度成長の中の「見えない貧困」 (2)	戦後日本の高度成長において、貧困や社会的排除は一見して見えにくくなったが、しかし存在していた。女性労働者の位置づけを通してそれについて論じる。
第11回	グローバル化と新たな貧困(1)	1990年代に新たな低賃金労働力としての非正規雇用がいかに増加していったかを論じる。
第12回	グローバル化と新たな貧困(2)	1990年代に新たな低賃金労働力として外国人労働者がいかに増加していったか、また非正規雇用の日本人・日系人・技能実習生をめぐる雇用ポートフォリオ体制について論じる。
第13回	外国人労働者をめぐる日本社会の 壁	日系人などの外国人労働者をめぐる生活面のバリアについて論じる。
第14回	地域社会における連帯の試みとそ の可能性 / 困難	地域社会における外国人労働者との多文化共生の試みについて論じる。
第15回	まとめ	海外の事例と比較しつつ、日本社会における差別や社会的排除について論じる。
		1-1 H // H

ほぼ毎回の講義で映像資料を用い、その理解を前提として講義を行うので、欠席しないこと。

講義名	人間関係	論演習							   学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 /   木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 /	
講義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央	
ナンバリング番号	335HUR30	1							기14째 가까 / 시내 유조	

請	義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担ヨ教貝	中村松嶋	好孝/	原 未来丸山 罩	子 細馬	宏通 /	
ナン	バリング番号	335HUR30	1							ТДиму	75417	<b>Ж</b>	*/\		
							授業概要	更							
各教 、予	員ごとに分か 備的な作業等:	れて、人間 を行う。	関係論の	それそ	れの分野	に関する既存	字の成果を概	 提観する	とともに、卒	業研究	のテー	マの探求	に向けて	の論文講読、	準備
							到達目標	曹							
卒業	論文のテーマ	を決める。						-							
	種別	割合(%)	評価基準	等			成績評値	<u> </u>							
5	定期試験	пэн (м)	HI IM I	••											
レ	ポート課題														
	上記以外	100	発表や各	教員に	よって指	示された提出	出レポートを	E総合し	て評価する。						
			<u> </u>												
							TO JE FI 34	. 33							
							授業外学	省							
							#1√1 <del>  1</del>								
No			 籍名				数科書 著者名		Т	出	出版社		Т	ISBN/ISSN	J
1															
2															
3															
授業	<u>-</u> 中に適宜指定 <sup>-</sup>	する。													
							参考書								
No		書籍	籍名				著者名			出	出版社			ISBN/ISSN	١
1															
2															
3															
授業	中に適宜指定	する。													
							前提学力	等							

199

講義名	人間関係	論演習							   学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 /   木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 /
講義コード	1402460	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央
ナンバリング番号	335HUR30	)1							TAIIII

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	各回は、ゼミごとに実施する。詳細はオリエンテーションで説明する。
		担当者から一言

講義名	人間関係	論演習							   学科教員/上野 有理/大野 光明/   木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/	
講義コード	1402470	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木杓    恰/俊藤    宗志/杉浦    田音里/    中村    好孝/原    未来/細馬    宏通/    松嶋    秀明/丸山    真央	
ナンバリング番号	435HUR40	1							145扇 万明 / 九山 兵大	

			授業概要		
「人間関係論」の	それぞれの	)分野に関して既存の成集	を概観するとともに、各自の卒業論	倫文の作成に必要な資料を収集し、	分析する。
 卒業論文を書き上	・ボスニレ		到達目標		
一来 明人 で目でエ	11/0000				
			<del>化</del> 油气压		
 種別	割合(%)	評価基準等	成績評価		
定期試験	13 H (N)	ATTENDED TO			
人 <u>上</u> 杂万 <sub>日</sub> 山 河 关					
レポート課題					
上記以外	100	発表や各教員によって指	<b>≦示された提出レポート等を総合し</b> で	て評価する。	
	Ţ	<u> </u>			
			授業外学習		
			教科書		
No	書籍	籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1					
2					
3					
授業中に適宜指定	する。		•	1	<b>'</b>
No	書	籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1					
2					
3					
授業中に適宜指定	. する。		W-=		
			前提学力等		
			履修資格		

講義名	人間関係	論演習							   学科教員 / 上野 有理 / 大野 光明 /   木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 /
講義コード	1402470	単位数	2	開講期	通年	授業種別	演習	担当教員	木村 裕 / 後藤 崇志 / 杉浦 由香里 / 中村 好孝 / 原 未来 / 細馬 宏通 / 松嶋 秀明 / 丸山 真央
ナンバリング番号	435HUR40	)1							14.响 乃明 / 凡山 县大

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	各回は、ゼミごとに実施する。各ゼミ共通して、教員の指導のもとに、各自のテーマにそった資料の 検討を続け、順次に経過を報告しながら論文にまとめていく。詳細はオリエンテーションで説明す
		担当者から一言

講義名	人間関係	論基礎演習	я =						学科教員/上野 有理/大野 光明/  木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/	
講義コード	1402481	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央	
ナンバリング番号	135HUR10	1							14.响 乃听 / 凡山 县六	

ナン	バリング番号	135HUR10	<u> </u>				
				授業概要			
人間	関係論への心	理学・社会	データング リング・ グローチ (学・教育学のアプローチ)		て、その内容と	広がり、方法論の基 で学び、上間関係会	一
75季	4 文 圏 の 無 記	、物少的石	(夫級 ピノイ 一ルトソーク	<b>/、テイスカッション、ティヘ</b>	一下なこを通じ	, (子の、人間関係論	八の僕心と理解を沫める。
				到達目標			
人間   ルの	関係に関する。 基礎を身につ	心理学・社 ける。	t会学・教育学の各アプロ	]ーチの基本的な視角・方法・	知識を習得し、	あわせて人間関係研究	究に必要なアカデミックスキ
				成績評価			
	種別	割合(%)	評価基準等				
7	定期試験						
			最終レポート				
レ	ポート課題	45	取だレバー「				
			     各数昌が指示するリアク		<u> </u>		
	上記以外	55	日教員が日外するグラン	ノンヨンベーバーのよび小レホ	'		
				授業外学習			
No		書		著者名		出版社	ISBN/ISSN
1							
2							
3							
坪坐	 中に適宜指定	<del>ーーーー</del> する					
1文未	中に旭旦相に	y ຈ. 					
No		<b>a</b>	第 <i>4</i>	参考書	I	₩₽₽₽	LODAL/LOOM
No			籍名	著者名		出版社	ISBN/ISSN
1							
2							
3							
授業	中に適宜指定	する。		•			
				屋はなる			
				履修資格			

講義名	人間関係	論基礎演習	<b>3</b>						学科教員/上野 有理/大野 光明/ 木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/
講義コード	1402481	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	担当教員	木村 裕/後藤 崇志/杉浦 由香里/   中村 好孝/原 未来/細馬 宏通/   松嶋 秀明/丸山 真央
ナンバリング番号	135HUR10	1							14篇 为时,凡山 吴术

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	各回の進め方や履修上の留意点などについてのガイダンスを行う。なお、第2回から第11回までについては、各回、学科教員1名ずつがオムニバス形式で担当する。
第2回	心理学の世界 1	心理学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介   する。
第3回	心理学の世界 2	心理学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介  する。
第4回	心理学の世界 3	心理学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介   する。
第5回	心理学の世界 4	心理学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介  する。
第6回	社会学の世界 1	社会学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介する。
第7回	社会学の世界 2	社会学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介する。
第8回	社会学の世界3	社会学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介する。
第9回	教育学の世界 1	教育学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介する。
第10回	教育学の世界 2	教育学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介する。
第11回	教育学の世界 3	教育学を専門とする学科教員が、自身の研究内容や研究方法、その面白さや広がりなどについて紹介 する。
第12回	人間関係論の冒険 1	心理学と社会学の学科教員が合同で、あるテーマに関してそれぞれの学問分野からどのようなアプローチが可能であるかを提案し、学問分野の研究上の重なりや違いなどについて紹介する。
第13回	人間関係論の冒険 2	社会学と教育学の学科教員が合同で、あるテーマに関してそれぞれの学問分野からどのようなアプローチが可能であるかを提案し、学問分野の研究上の重なりや違いなどについて紹介する。
第14回	人間関係論の冒険 3	教育学と心理学の学科教員が合同で、あるテーマに関してそれぞれの学問分野からどのようなアプローチが可能であるかを提案し、学問分野の研究上の重なりや違いなどについて紹介する。
第15回	まとめ	演習全体をふりかえり、人間関係論への関心と理解を深めるための機会を提供する。
		担当者から一言

講義名	人間形成	論/						
 講義コード	1402500	単位数 2	開講期	前期	授業種別 講義	担当教員	木村 裕	
ナンバリング番号	릉	•						
と呼ばれる)がことが、学校内	現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題(「地球的諸問題」と呼ばれる)が存在している。こうした状況を背景として、地球的諸問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっている。本講義では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである「持続可能な開発のための教育(ESD)」に焦点をあてて、ESDを実践するために必要となる基礎的な知識や技能を習得する機会を提供することをめざす							
					到達目標			
(2) ESDに関する多様な議論や実践事例を知るとともに、それらについての自分なりの考えを持ち、表現することができるようになること。 (3) ESDの実践に対する自分なりのイメージを具体化することができるようになること。								
					- N 6 + 4 + 7 (T			
<b>番別</b>	割合(%)	評価某進等			成績評価			
種別 定期試験	割合(%)	評価基準等			成績評価			
	割合(%)	評価基準等	<b>%−</b> ⊦		成績評価			
定期試験				シートなど				
定期試験レポート課題	30	まとめのレボ	¦するワーク:					
定期試験 レポート課題 上記以外	30	まとめのレボ	¦するワーク:					
定期試験 レポート課題 上記以外	30	まとめのレボ	¦するワーク:					
定期試験 レポート課題 上記以外 まとめのレポー	30 70 トの提出がな	まとめのレボ 講義中に提出	¦するワーク:		授業外学習			
定期試験 レポート課題 上記以外	30 70 トの提出がな	まとめのレボ	¦するワーク:		授業外学習		出版社	ISBN/ISSN
定期試験 レポート課題 上記以外 まとめのレポー	30 70 トの提出がな	まとめのレボ 講義中に提出	¦するワーク:		授業外学習		出版社	ISBN/ISSN

INO	百箱石	有有有	山水社	TODIN/ TOOIN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	4798912204						
2										
3										

その他の参考書等については、適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

講義名	人間形成	論/								
講義コード	1402500	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村	裕
ナンバリング番号										

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行う。								
第2回	ESDとは何か	ESDの概要について講義する。								
第3回	ESDの歴史的展開	ESDがどのような歴史的展開を遂げてきたのかについて講義する。								
第4回	ESDの実践上の要点	ESDを実践する際にふまえるべき要点について講義する。								
第5回	教育と価値観	教育と価値観との関係の捉え方に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第6回	ESDと総合学習	ESDの要点をふまえた総合学習の実践事例を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるため の機会を提供する。								
第7回	ESDと教科学習	ESDの要点をふまえた教科学習の実践事例を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第8回	参加型学習について考える	参加型学習の概要やその長所・短所に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第9回	ファシリテーターとしての教師	ファシリテーターとしての教師のあり方に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第10回	ESDにおける教育評価	ESDにおける教育評価のあり方をめぐる議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第11回	ESDに基づくカリキュラム開発	ESDに基づくカリキュラム開発をめぐる議論を紹介するとともに、実践事例を共有し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第12回	ESDに基づく学校づくり	ESDに基づく学校づくりをめぐる議論を紹介するとともに、実践事例を共有し、それについての一人 ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第13回	ESDと地域づくり	地域づくりと関連づけたESDの実践事例を共有し、それについての一人ひとりの考えを深めるための 機会を提供する。								
第14回	今後のESDについて考える	これまでの講義内容をふまえて、今後求められるESDのあり方や実践の方向性についての各自の意見を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの考えを深めるための機会を提供する。								
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。								
		担当者から一言								

講義名	人間形成	論A								
講義コード	1402501	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	★村	裕
ナンバリング番号	235EDU30	2								

業	

現代社会には、	貧困や格差、	環境破壊や	り人権侵害な	ど、世界中	の国々や人	々が協力し	<b>、なければ</b> 飼	解決するこ	とが難しい	多くの問題	夏(「t	也球的諸	問題」
と呼ばれる)が													
ことが、学校内	]外の教育活動	カにおいて耳	双り組むべき	重要な課題	の1つとなっ	っている。	本講義では	i、こうし#	た課題に取り	Ĵ組む教育	活動の	1つであ	る「拝
続可能な開発の	ための教育(	ESD)」に	焦点をあてて	こ、ESDを実	践するため	に必要とな	よる基礎的な	な知識や技	能を習得す	る機会を抗	是供する	ることを	めざす
0													

- (1) ESDの概要と実践上の要点を説明することができるようになること。(2) ESDに関する多様な議論や実践事例を知るとともに、それらについての自分なりの考えを持ち、表現することができるようになること。(3) ESDの実践に対する自分なりのイメージを具体化することができるようになること。

		成績評価						
種別 割合(%) 評価基準等								
定期試験								
レポート課題	30	まとめのレポート						
上記以外	70	講義中に提出するワークシートなど						

まとめのレポートの提出がない場合には、単位認定は行わない。

### 授業外学習

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

教科書は使用せず、適宜、必要なプリント等を配布する。

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1	オーストラリアのグローバル教育の理論と実践 - 開発教育研究の継承と新たな展開	木村裕	東信堂	4798912204					
2									
3									

その他の参考書等については、適宜、講義中に紹介する。

前提学力等

講義名	人間形成	論 A								
講義コード	1402501	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	木村	裕
ナンバリング番号	235EDU30	2								

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行う。								
第2回	ESDとは何か	ESDの概要について講義する。								
第3回	ESDの歴史的展開	ESDがどのような歴史的展開を遂げてきたのかについて講義する。								
第4回	ESDの実践上の要点	ESDを実践する際にふまえるべき要点について講義する。								
第5回	教育と価値観	教育と価値観との関係の捉え方に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第6回	ESDと総合学習	ESDの要点をふまえた総合学習の実践事例を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるため の機会を提供する。								
第7回	ESDと教科学習	ESDの要点をふまえた教科学習の実践事例を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるため の機会を提供する。								
第8回	参加型学習について考える	参加型学習の概要やその長所・短所に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第9回	ファシリテーターとしての教師	ファシリテーターとしての教師のあり方に関する議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第10回	ESDにおける教育評価	ESDにおける教育評価のあり方をめぐる議論を紹介し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第11回	ESDに基づくカリキュラム開発	ESDに基づくカリキュラム開発をめぐる議論を紹介するとともに、実践事例を共有し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第12回	ESDに基づく学校づくり	ESDに基づく学校づくりをめぐる議論を紹介するとともに、実践事例を共有し、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。								
第13回	ESDと地域づくり	地域づくりと関連づけたESDの実践事例を共有し、それについての一人ひとりの考えを深めるための 機会を提供する。								
第14回	今後のESDについて考える	これまでの講義内容をふまえて、今後求められるESDのあり方や実践の方向性についての各自の意見 を持ち寄り、検討しあうことによって、互いの考えを深めるための機会を提供する。								
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。								
		担当者から一言								

講義名	人間行動	論										
講義コード	1402530	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	細馬	田馬 宏通		
ナンバリング番号	134NUT21	2,135PSY2	202									
授業概要												
フール・シーン中			- nn -		1 /2 L - /	·		+- / I mil +- 10		ロナ明明して紅ナート かこっし ロに		

アニメーシ	ョン史の中で、	「口」という器官	『は音声と映像とを』	結びつけるた	:めの重要な役割を	を担ってきた。	口を開閉して話する	こと、歌うこと、	口に
食物を入れ	、咀嚼とともに剤	質を動かすこと。	これらの基本的な	活動が、映像	の歴史の中でいた	いに扱われてき	たかを明らかにし、	わたしたちの	$[ \Box ]$
ののあり方	を見直すとともに	こ、人の身体が□	]を中心としていか	に複合的な活	動を行うかを考え	える。			

- (1)口が映像文化の中で担ってきた役割を理解する(知識・理解)。 (2)食べる・話す・歌うという行動が身体全体で調整される活動であることを理解する(知識・理解)。 (3)自ら映像を収集し、そこで表現されている口と身体を比較しながら自分の力で批評できる(興味・関心/思考)。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	中間レポート(50%)、期末レポート(50%)
上記以外		

## 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか	細馬宏通	新潮社							
2										
3										

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

前提学力等	

とくになし

講義名	人間行動	論								
講義コード	1402530	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	細馬	宏通
ナンバリング番号	134NUT21	2,135PSY2	202							

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション:口と身体と 脳	人間の脳において、口と手は感覚野、運動野の大きな部分を占めている。このイントロダクションで は、わたしたちの口と手による運動がコミュニケーションにおいてどのような位置を占めているか
第2回	音と映像との同期の起源:トーキ ーができるまで	サイレント時代のアニメーション表現を紹介し、それがいかにヴォードヴィル芸と結びつき、人間の 身体と関わっていたかを考察する。
第3回	イシャー兄弟の発明	ここからは主にアメリカン・アニメーションの歴史に沿って、口の表現がどのように変化してきたか について概説する。
第4回	アニメーションの口表現 (2)	ミッキーの口笛場面を中心に、「蒸気船ウィリー」の分析を詳細に行う。
第5回	アニメーションの口表現(3)	フライシャー兄弟の1930年代作品であるベティ・ブープの口の表現を取り上げ、音楽(とりわけ歌) と口との関係を論じる。
第6回	アニメーションの口表現(4)	ディズニーの「シリー・シンフォニー」「白雪姫」を取り上げ、1920年代末から1930年代のディズニ 一が行った口の表現革命をたどる。
第7回	アニメーションの口表現(5)ト ムとジェリー:無口な動物たちの	ことばをほとんど発しない「トムとジェリー」では身体動作と音楽、音響効果の同期が重要となった 。この回ではこの問題を取り上げる。
第8回	アニメーションの口表現(6)バ ッグス・バニーとメル・ブラン	声優が動画制作以前に録音をするか、動画制作後に録音をするかによって、アニメーションのあり方は大きく異なる。ここでは、1940-50年代のアメリカン・アニメーションにおける声優のあり方と、
第9回	アニメーションができるまで (1)	現在のアニメーションの制作過程がどのようなものか、そこにどのような多様性があるかを考える。
第10回	アニメーションができるまで (2)	原画と動画という、アニメーション制作に固有の分業方法について考える。
第11回	映像分析入門	ショット、カットなど映像の基本単位やカメラアングルについて述べ、これらの語を用いてアニメー ションの時系列を記述していく方法について述べる。簡単な演習も行う。
第12回	アニメーションの食事と身体運動	アニメーションの食事場面を取り上げ、そこで行われている口表現を、旧来のアニメーションと比較 する。
第13回	話すことを比較する:ジャパニメ ーションの会話	アフレコ(アニメーションを描いたあとに声を録音する方式)を主流とする日本のアニメと、プレスコ(あらかじめ声を録音してからアニメーションを描く)を主流とするアメリカのアニメーションと
第14回	アニメの多様性	最近のアニメーション作品を取り上げ、アニメーション史上興味深い場面と比較考察する。
第15回	まとめ・課題の準備	これまでの講義の要点をまとめた上で、期末レポート課題の執筆に必要な鍵概念を説明する。
		担当者から一言

講義名	人間文化	人間文化論A							细重	宏通/市川	秀之 / 今井	絵理 /
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	細馬 島村	一平/森下	あおい	太注 /
ナンバリング番号	133LVD10	2,134NUT1	102,13	5LAH2011,	37BAC102							

477	鈭	TOT	-

人間文化学部la	は、地域文化学科.	、生活デザイン学科	,生活栄養学科、	人間関係学科、	国際コミュニ	ケーション学科の	5学科から成って	:いる。しかしそ
れぞれの学科は	は特定の分野の中	に閉じ込められてい	るわけではない。	では、それぞれ	ιの学科は外の	分野に向かってど	のように開かれ	ているのだろう
か、それを考え	える手がかりとし	て、この講義では異	なる学科に属する	310組の教員どう	うしの対談と、	各学科の教員によ	る5つのレクチャ	・一が行われる。
これから4年間	を過ごす学部で、	どのように学問の関	心を広げ、他学	科の教員や学生	と交流を開いて	こいけばよいのか、	この講義からそ	のことを考える
ヒントをつかん	ってほしい。							

- (1)人間の文化に関する知識を幅広く身につけ、理解できる。 (2)学問領域を越えて、多様なできごとに興味と関心を持つ態度を持つことができる。 (3)自分の領域で直面している問題に対して、他領域の人々とディスカッションを行い、柔軟な思考と判断を行うことができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	最終レポート課題(学生による学科間ディスカッションによるもの)
上記以外	50	各対談時のリスポンスペーパー

## 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

## 前提学力等

講義名	人間文化論 A								/m ==	<b>⇔</b> • → □	<b>玉</b>	<i>и</i>
講義コード	1402540	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	細馬 島村	宏通 / 市川 一平 / 森下	秀之 / 今井 あおい	絵理 /
ナンバリング番号	133LVD102,134NUT102,135LAH2011,37BAC102											

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	この講義の進め方に関するガイダンス。
第2回	国際コミュニケーション×人間関 係	第2回~第11回は各学科から一人の教員が対談形式の講義を行います。学科の組み合わせの日取りは 変更される場合があります。教員の組み合わせと講義タイトルは4月のオリエンテーション時に伝え
第3回	地域文化×生活デザイン	
第4回	地域文化×国際コミュニケーション	
第5回	生活デザイン×国際コミュニケー ション	
第6回	生活栄養×国際コミュニケーション	
第7回	生活デザイン×人間関係	
第8回	地域文化×人間関係	
第9回	生活栄養×人間関係	
第10回	生活デザイン×生活栄養	
第11回	地域文化×生活栄養	
第12回	各学科によるまとめ(1)	生活栄養学科まとめ / 地域文化学科まとめ / 生活デザイン学科まとめ
第13回	各学科によるまとめ(2)	国際コミュニケーション学科まとめ /人間関係学科まとめ/次週の準備
第14回	学生自身によるディスカッション	各5学科から最低1人を含むチームを作り、他学科の学生との討議を行います。
第15回	ディスカッションをまとめる	レポートをまとめるためのガイダンス。
		担当者から一言

講義名	人間文化論 B								宁杰	秀夫/石川 慎治/河 かおる/
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	定森武田	俊輔 / Borjigin Burensain
ナンバリング番号	133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103									

) ).	プラバリング笛号 135LVD103,134N01103,139LAIIZ021,37DAC103									
授業概要										
テー 文 本講 本	テーマ:「交流する文化、交差するまなざし」 文化は、さまざまな歴史的な要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経ちながらそのオリジナルな形を変容させてゆく。 本講義では、5人の教員がオムニバス形式で、それぞれ具体的な文化現象をとりあげて、その交流や変容の問題について論じる。 本年度の担当教員とその講義内容は以下の通りである。									
				到達目標						
文化	の交流や変容	の諸相につ	いいて理解すること。							
	77 D.I	I man A cons	1 + 7 (7 + 1 ) + 66	成績評価						
	種別	割合(%)	評価基準等							
;	定期試験									
1.	 ポート課題		ミニレポートもしくは	は小テストに対する採点						
	八一 1 味起	100%								
	上記以外									
						_				
				授業外学習						
				XXIII						
				#4.11. <del>1</del>						
No				数科書 著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1										
2										
3										
 特に	L なし			1						
, .				参考書						
No		書	 籍名	者者名 著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1										
2										
3										
その	 都度、紹介す	<u>る</u>			1					
	前提学力等									
	履修資格									

講義名	人間文化	論 B							□★	无十 / 万川 - 梅沙 / 河 - 朴为 z /
講義コード	1402550	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	定森武田	秀夫/石川 慎治/河 かおる/ 俊輔/Borjigin Burensain
ナンバリング番号	133LVD10	133LVD103,134NUT103,135LAH2021,37BAC103								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	西日本の渡来人に因む地名	3回の講義の概要を説明する。九州・四国・中国・近畿地方の地名などで、朝鮮半島からの渡来人に 関係するものを取り上げて、考古資料や文献史料などと絡ませて古代の渡来文化を考察していく。
第2回	東日本の渡来人に因む地名	東海・北陸地方以東の東日本の地名などで、朝鮮半島からの渡来人に関係するものを取り上げて、考 古資料や文献史料などと絡ませて古代の渡来文化を考察していく。
第3回	渡来人に因む神社・寺院 	神社の中には、新羅神社・高麗神社・安羅神社など古代の朝鮮半島にあった国名を冠した神社がある。 そのような渡来系の名称を有する神社や渡来人の貢献によって創建された寺院などを取り上げ
第4回	「黄砂」は何処からきているのか	急速な経済発展をつづける中国では、都市部や沿海地域の発展ぶりがよく伝えられる一方、経済発展 を裏で支えている内陸部の実態が必ずしもよく知られてない。ここでは、日本もよく伝えられる「黄
第5回	中国の高度成長と内陸部の資源開 発	急速な経済発展をつづける中国では、都市部や沿海地域の発展ぶりがよく伝えられる一方、経済発展を裏で支えている内陸部の実態が必ずしもよく知られてない。ここでは、中国の経済発展を支える内
第6回	少数民族問題と中国の行方	急速な経済発展をつづける中国では、都市部や沿海地域の発展ぶりがよく伝えられる一方、経済発展を裏で支えている内陸部の実態が必ずしもよく知られてない。ここでは、第4・5回のテーマを結び
第7回	都市祭礼における交流とまなざし (1):世代間のまなざしと更新	「伝統」とは昔から固定した形で存在するのでなく、他地域や他文化、異なる世代との交流とまなざしを通じて、常に変容しつつ継承される。滋賀県長浜市の長浜曳山祭を事例に、世代間のコンフリク
第8回	都市祭礼における交流とまなざし (2):町内間のまなざしと対抗	長浜曳山祭を事例として、複数の祭礼集団間の対抗関係と見物人のまなざしがそこに与える影響について論じる。祭礼において祭礼集団・見物人双方の興奮と楽しみがどう創り出されるのか、見物人が
第9回	都市祭礼における交流とまなざし (3):観光のまなざしとグロー	昨年、長浜曳山祭を含む33の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産として登録された。こうしたグローバルな価値づけによる観光客の増加を期待する自治体もある。こうした観光のまなざしは
第10回	朝鮮通信使と「文化交流」	江戸時代の朝鮮通信使について、概要を理解する。その際、朝鮮通信使が来たことによって発生した 様々な「文化交流」の事例を理解するとともに、それらの事例が、どのように再発見/再解釈されて
第11回	滋賀県と朝鮮通信使 朝鮮人街 道と雨森芳洲	滋賀県と朝鮮通信使の関係について、朝鮮人街道と雨森芳洲の事例を中心に、理解する。その際、第 10回で扱った、朝鮮通信使をめぐる歴史認識の変化について、第11回で扱う事例を通じてさらに理解
第12回	「善隣友好」から「征韓論」へ	「交隣」=「善隣友好」であった江戸時代の日朝関係および日本の朝鮮認識が、明治維新を前後して どのように変化したのかを理解する。(担当:河かおる)
第13回	近江の瓦	身近な素材である「瓦」について取り上げる。
第14回	近江の卯建・袖壁	伝統的な町家の「卯建・袖壁」について取り上げる。
第15回	近江の移築建造物	伝統的な風景のなかにある「移築された建造物(移築建造物)」について取り上げる。
		担当者から一言

講義名	人間文化	人間文化論 C								雅子/遠藤 弘史/中井 直也/
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	宮本中村松嶋	好孝/東田 一彦/福渡 努/ 秀明/森 紀之/横田 尚美
ナンバリング番号	133LVD10	133LVD104,134NUT104,135LAH203								

人間文化論Cでは「人間を取り巻く生活環境」に焦点をあて、生活環境に関わる諸問題ついて考える機会とする。生活環境は、人間の生活と生存にかかわる人的・社会的・自然的諸条件等からとらえることができる。そこで生活文化系3学科(生活デザイン・生活栄養・人間関係)教員のそれぞれの視点から、人間が心身ともに健康で快適に生活していくための諸条件について論じる。この授業では、まず、住生活・衣生活における快適な環境条件について5回講義する(宮本・横田)。衣食住の中で、食が、一番夢がないといわれている。「カラダのためにコレを食べなさい、コレは食べてはいけません」、といわれ続け、説教食事学といわれています。この講義では、科学的根拠に基づいて、食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について論じる(中井・温度・遠藤・森・東田)。 さらに、人間にとっての最小の共同体である家族がどのようになろうとしているかという現代家族論を5回講義する(松嶋・中村)。

### 到達目標

(宮本・横田)(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること。(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる。 (中井・福渡・遠藤・森・東田)食事や栄養成分が健康や身体に及ぼす影響について理解することができる。 (松嶋・中村)(1)家族をみるための視点を身につけることができる。(2)現代的社会問題を家族との関連で理解することができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	(宮本・横田)到達目標の(1)住宅の中の暮らしとその変化について理解すること、(2)自分が身に着ける衣服とからだの関係や、ファッション産業がもたらす環境への影響に関心を持つことができる、については、課題レポート(33%:(1)19%、(2)14%)

各教員がそれぞれ授業中に課題を出すことがある。 授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

#### 授業外学習

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

講義名	人間文化	論C							宮本	雅子/遠藤 弘史/中井 直也/
講義コード	1402560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	宮本 中村 松嶋	好孝/東田 一彦/福渡 努/ 秀明/森 紀之/横田 尚美
ナンバリング番号	133LVD10	133LVD104,134NUT104,135LAH203								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	日本の住まい	日本の住宅について概観する。
第2回	超高齢社会における住環境	超高齢社会における日本の住宅問題について考えるきっかけとする。
第3回	日本のあかり	日本のあかりの歴史について概観し、現代の照明環境について考える。
第4回	衣生活環境	衣服は最もからだに近い環境である。その視点から、科学的に服と人間とのかかわりについて考える。
第5回	ファッション産業をとりまく環境	毎日からだに身に着ける服がどのような環境で作られているのか、より広い視野で衣服と環境について考える。
第6回	食事とサプリメント	栄養素の摂取法として、近年サプリメントに注目が集まっている。その機能や摂取法など、サプリメントに対する科学的根拠について述べる。
第7回	日本人の食事の変遷	栄養学の観点から明治以降の日本人の食事について解説するとともに,現代の日本人の目指す食事について考察する.
第8回	食と健康のかかわり	食事とその成分が疾病とどのように関わっているかの研究を紹介し,どのような食生活が健康を増進に貢献するかを考察する.
第9回	食べものの機能性	食べ物にはさまざまな機能性があるとされていますが、実際にどのようなことまでわかっているのか 科学的に述べる。
第10回	身体活動・遺伝子多型と生活習慣 病	身体活動と個人の遺伝的特性が生活習慣病発症にどのように関係しているかについて述べる。
第11回	家族のなりたちと人間の心理	進化心理学、あるいは文化心理学の観点から、人間の家族のもつ特殊性、家族の成立する要件などについて外観する。また、そのことが食生活や、住居の問題といかに密接につながっているのかについ
第12回	家族を形成する心理	恋愛から結婚、出産というライフイベントを人はどのように経験し、のりこえていくのか。そこに心理学的にどのような問題が生じていくのかについて家族心理学的観点から述べる。
第13回	家族を維持する心理	出産、育児と、仕事との両立、あるいは父親の育児参加といった問題について、家族心理学的観点から述べる。
第14回	家族関係の歪みがもたらすもの	家族をいとなんでいくうえで遭遇する障害や病理、具体的には愛着の問題、産後うつ、思春期の不過 応などについて述べる
第15回	家族関係の社会学	家族関係が社会関係により、いかに相互に影響されあっているのかについて、社会学的観点から述べる。
	•	担当者から一言

講義名	発達心理	学								
講義コード	1402610	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	上野	有理
ナンバリング番号	335PSY30	5								

塪	7111	TOT	-

私たち人間の子どもは、	他の動物に比べ未熟な状態で	生まれてくる。しかし	子どもは全く無力な存	在ではなく、さまざまな	は認知機能に支えられて外
界の物や人と関わり、学	タび、発達していく。授業では	、とくに乳幼児期に焦	点をあて、子どもの認識	知発達を紹介する。とる	きに大人とは異なる、子ど
もの行動や心の働きの理	里解を深めることを目指す。				

# 到達目標

- (1)乳幼児を対象とした心理学研究の手法を理解する。 (2)乳幼児期の認知発達とそのしくみを理解する。

	成績評価							
種別	割合(%)	評価基準等						
定期試験	60	定期試験にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。						
レポート課題	40	レポート課題(レスポンスペーパーを含む)にて、(1)を20%、(2)を20%評価する。						
上記以外								

# 授業外学習

	教科書							
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN				
1								
2								
3								

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

# 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

講義名	発達心理	<del>"</del>								
講義コード	1402610	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	上野	有理
ナンバリング番号	335PSY30	35PSY305								

	授業計画								
回数	タイトル	概要							
第1回	ガイダンス	発達心理学の概要							
第2回	生後一年の発達	生後一年におきる発達的変化							
第3回	五感:皮膚感覚、味覚、嗅覚	五感 (皮膚感覚、味覚、嗅覚)の発達							
第4回	五感:聴覚、視覚	五感(聴覚、視覚)の発達							
第5回	物事のきまりの理解	物理的理解の発達							
第6回	因果性の理解	因果性の理解の発達							
第7回	自己認知	自己認知の発達							
第8回	他者認知	他者認知の発達							
第9回	記憶	記憶の発達							
第10回	脳の構造	脳の構造と発達							
第11回	愛着	愛着形成について							
第12回	個性	個性の発達							
第13回	言語	言語の発達							
第14回	人間の発達の特徴	人間の発達の特徴と意義							
第15回	まとめ	乳幼児期の認知発達の概観							
		担当者から一言							

講義名	発達心理:	学								
講義コード	1402620	単位数	2	開講期	後期	授業種別	担当教員	水野	友有	
ナンバリング番号	335PSY30	16								
						授業概要				
						到達目標				
						成績評価				
種別	割合(%)	評価基準	等							
定期試験										
レポート課題										
上記以外										
						授業外学習				
	<b>-</b>			ı		教科書			1.116 ± 1	
No		籍名				著者名			出版社	ISBN/ISSN
1										
2										
3										
<u> </u>							I			
						参考書				
No	書籍	籍名				著者名		Ŀ	出版社	ISBN/ISSN
1										
2										
<del>                                     </del>										
3										
						A. I				
						前提学力等				
	履修資格									

講義名	発達心理	<del></del> 学								
講義コード	1402620	単位数	2	開講期	後期	授業種別		担当教員	水野	友有
ナンバリング番号	335PSY30	6					·			

	授業計画							
回数	タイトル	概要						
		担当者から一言						

講義名	比較認知	発達論								
講義コード	1402690	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	上野 	有理
ナンバリング番号	235PSY30	235PSY302								

塪	7111	TOT	-

人間の知性はどのように進化して	「きたのか。なぜそのような進化が生じたのか。	チンパンジーやニホンザルなど、	人間を含めた霊長類の行動や認知
の発達を比較する研究を紹介し、	人間の発達と進化について論じる。		

# 到達目標

- (1)比較認知研究の手法を理解する。 (2)生物進化の視点から人間の知性の発達を理解し、人間が育つ社会・文化のあり方を考える。

	成績評価									
種別	割合(%)	評価基準等								
定期試験										
レポート課題	60	授業時間外に課すレポート課題にて、(1)を30%、(2)を30%評価する。								
上記以外	40	授業時間内に課すレスポンスペーパーにて、(1)を20%、(2)を20%評価する。								

# 授業外学習

適宜実施する。

	教科書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

	参考書								
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN					
1									
2									
3									

# 前提学力等

2年次以降の履修が望ましい。

講義名	比較認知	発達論								
講義コード	1402690	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	上野	有理
ナンバリング番号	235PSY30	)2								

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	ガイダンス	比較認知発達科学の概要								
第2回	進化とは	進化論の概説								
第3回	行動進化のしくみ	行動と遺伝子の関連								
第4回	霊長類としての人間	霊長類の特徴と環境との関連								
第5回	人類の進化	人類の進化史と諸説に関する概説								
第6回	脳の発達	人間の脳の特徴と発達								
第7回	中間まとめ	生物進化の視点から人間の発達を理解するということ								
第8回	感覚・知覚	感覚情報処理の発達と種差								
第9回	学習と思考	知識の学習と運用の種差								
第10回	自己認知	自己認知の発達と種差								
第11回	他者認知	他者認知の発達と種差								
第12回	コミュニケーション(1)	母子関係の種差								
第13回	コミュニケーション(2)	個体間関係の種差								
第14回	文化	文化の意味するもの								
第15回	まとめ	人間が育つ社会・文化のあり方とは								
	1	担当者から一言								

講義名	文化社会	学								
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	230\$0020	1,2358003	304							

本講義は	, 近現代の	日本における	る観光や開発	, 地域おこし	と呼ばれる	現象が,均	也域社会と	こそこに住む	人々に対し	てどのよう	な影響を与	<b>うえるの</b>	かにつ
いて,地域	<b>域社会にお</b>	ける「伝統的	り」とされる詩	芸能や祭りの	変化,そし	、てその担し	ハ手である	地域住民の	暮らしの変	化を切り口	として , ネ	€えてい	く視点
を手に入∤	いてもらう	ことをねらい	1としている。	祭り・芸能	を手がかり	とした講	義だが,そ	<del>`</del> れらへの美	学的関心と	いうより,	地域社会に	こおける	政治的
・経済的な	\$状況,観	光や地域振り	興と地域文化と	ヒを結びつけ	て考えてい	くことにタ	付する関心	<b>かを持つ人向</b>	けの講義で	`ある。			

### 到達目標

- (1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できるようになる。 (2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る。 (3)「伝統」文化の創造と再編成の中で、人々がどのような影響を受け、またそうした状況をどのように活用しているのかについて考察できるようになる。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験											
レポート課題	100	(1)「伝統」とみなされている地域社会の文化が、近現代においてどのように創造、再編成されたのかについて理解できる(30%)。 (2)「伝統」文化を経済的な活性化に生かそうとする国家・自治体の文化政策について知識を得る(30%)。									
上記以外											

レスポンスカードの内容に基づいて加点する場合がある(5点以内)

### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	ふるさと資源化と民俗学	岩本通弥編著	吉川弘文館	4642081909						
2	長浜曳山まつりの舞台裏	市川秀之・武田俊輔(編著)	サンライズ出版	4883251705						
3										

授業中にレジュメを配布する。

前提学力等

講義名	文化社会	<del>"</del>								
講義コード	1402950	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	武田	俊輔
ナンバリング番号	230S0C20	1,2358003	304							

ナンハリン	ング番号 230506201,235506304								
		授業計画							
回数	タイトル	概要							
第1回	イントロダクション	講義全体の概要を説明する。							
第2回	地域社会の衰退と文化をめぐる政 治	なぜ地域社会において文化や祭礼などを通した観光化や地域おこしが必要とされるのか、そもそも衰退を招いた政治的な原因について論じる。							
第3回	創造される「地域イメージ」	1930年代における祭礼や民俗芸能、民謡を通じた地域おこしの流行と「伝統の創造」、そしてそれがもたらした帰結を論じる。							
第4回	和太鼓の近代と「伝統」イメージ	戦後日本における伝統的な「和太鼓」のイメージが、メディアを通じていかに「創造」されたかを論 じる。							
第5回	保存と観光をめぐる疑似対立	一見すると伝統を保存するということと、観光化は矛盾するように見えるが、実際にはその両者は結びついている。そのメカニズムを論じる。							
第6回	文化財をめぐるディスコミュニケ ーション	「文化財」という保存のための仕組みが、実際には全く違った帰結を生み出すメカニズムを論じる。							
第7回	「昔のまま」「伝統」というリア リティ	明らかに「伝統の創造」と思われるにもかかわらず、それが地域住民からは「伝統」と主張され、それが正当性を帯びるのはなぜかについて論じる。							
第8回	文化財を拒む人々	祭礼の存続において、「文化財」という冠をあえて拒否する人々の祭礼への考え方について論じる。 							
第9回	祭礼における社会的文脈の流用	文化財であること、観光の目玉であること、そうした様々な社会的な文脈を活用しつつ、祭礼の担い 手が祭礼を存続させていくプロセスを論じる。							
第10回	地域社会における文化の流用と再 創造(1)	文化の客体化論を中心に、担い手が自らの文化を「観光」という文脈に合わせて再構築していくプロセスを論じる。							
第11回	地域社会における文化の流用と再 創造(2)	日本国内におけるエスニック・マイノリティが自らの存在を日本社会で主張する上で、いかに文化を 流用するのか、そのプロセスを論じる。							
第12回	唄のルーツと重なり合う声	唄が人から人へ、地域から地域へと伝播していく中で、いかに創造され、また変容していくのかについて論じる。							
第13回	反原発運動と祭りをめぐる相剋	原発に抗して自らの農業や漁業に根ざした暮らしを守ろうとする住民が、いかにして祭礼をそのシンボルとして復活させているかについて論じる。							
第14回	ユネスコ無形文化遺産をめぐって	日本における国指定重要無形民俗文化財に指定されている山車・鉾・屋台行事が、ユネスコ無形文化 遺産の登録候補となっている。このことが担い手や地域社会にもたらしている現状を論じる。							
第15回	まとめ	講義全体のまとめを行う、							
		担当者から一言							

担当者から一言

授業内で映像や音声資料を用い、その内容を前提として講義するため、欠席しないこと。

講義名	マーケテ	ィング論						10 V 16 G		
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	山田	步
ナンバリング番号	133MKD18	1,335LAH	307							

どんなに優れた機能の製品でも、どんなに優れたデザインの製品でも、消費者に受け入れられヒットするとは限りません。ある製品が価値あるものとして消費者に受け入れられるためには、どんな製品を出すかを考えるだけでなく、どんな消費者を対象にするのかや、どんな価格で、また、どんな場所、広告を用いて売ればいいのかといったことまで考える必要があります。そして、商品としてヒットしたあとも、継続的にその商品が売れるように、消費者との持続的な関係を構築し、製品・サービスの価値を高める努力を続ける必要があります。この授業では、こうした企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

### 到達目標

企業のマーケティング活動を学ぶことを通して、ビジネスに必要な分析能力や問題解決能力を身につけることを目標とします。

	成績評価										
種別	割合(%)	評価基準等									
定期試験	50	マーケティングの考え方を理解できたか									
レポート課題	50	宣伝会議賞 (25 ) 授業課題 (25 )									
上記以外											

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	1からのマーケティング 第3版	石井淳蔵・廣田章光	碩学舎							
2										
3										

		参考書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

### 前提学力等

講義名	マーケテ	ィング論								
講義コード	1403000	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	山田	步
ナンバリング番号	133MKD18	335LAH	307							

授業計画							
回数	タイトル	概要					
第1回	オリエンテーション	マーケティングの考え方についての概説					
第2回	マーケティングの基本概念	S T P についての説明					
第3回	マーケティングの基本概念	マーケティング・ミックスについての説明					
第4回	製品のマネジメント	プロダクトについての説明					
第5回	広告のマネジメント 1	プロモーションついての説明					
第6回	広告のマネジメント 2	演習 ( 宣伝会議賞 )					
第7回	広告のマネジメント 3	演習 ( 宣伝会議賞 )					
第8回	価格のマネジメント	プライスについての説明					
第9回	特別講義	マーケティング実務にかかわる専門家による講義(日程の変更あり)					
第10回	チャネルのマネジメント	プレイスについての説明					
第11回	ブランドのマネジメント	ブランド戦略についての説明					
第12回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とマーケティングの接点についての説明					
第13回	マーケティングリサーチ	マーケティングにリサーチがどのように必要になるのかについての説明					
第14回	コンシューマー・インサイト	インサイト起点のマーケティングについて					
第15回	まとめ	総括					
		担当者から一言					

講義名	量的デー	夕解析論								
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	丸山	真央
ナンバリング番号	230\$0020	06,2358002	204							

この授業では、統計データの整理・分析に最低限必要な基礎知識を学ぶ。あわせて統計パッケージソフトSPSSの基本操作を習得し、実際のデータによる簡単な分析によって社会統計学に関する理解を深めるとともに、実践的な分析の技能の習得をめざす。

### 到達目標

- (1)社会統計のデータを整理・分析する基礎知識(記述統計と推測統計の基礎)を習得する。(2)統計パッケージソフトSPSSの基本的な使い方を身につけ、実際に基礎的なデータ解析ができるようになる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成するレポート課題を課す。
上記以外	70	到達課題の(1)と(2)について、実際の量的データを分析して作成する小課題を課す。

#### 授業外学習

		教科書		
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用せず、レジュメを配布する。

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1	社会統計学	ボーンシュテット・ノーキ	ハーベスト社							
2	社会統計学ベイシック	片瀬一男ほか	ミネルヴァ書房							
3	SPSSによる多変量解析	村瀬洋一ほか編	オーム社							

参考書は授業の中で指示する。

### 前提学力等

社会調査論、統計学基礎が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

講義名	量的デー	夕解析論								
講義コード	1403100	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	丸山	真央
ナンバリング番号	230S0C20	6,2358002	204							

第1回 統計資料の集め方、使い方、まと 既存統計 め方: 既存統計資料の活用法、二 グラフの基本 グラフの	授業計画 概要 進め方とパソコンの使用法について説明する。
第1回     ガイダンス     授業の追       第2回     統計資料の集め方、使い方、まとめ方: 既存統計資料の活用法、二     既存統計	<b>進め方とパソコンの使用法について説明する。</b>
第1回 統計資料の集め方、使い方、まと 既存統計 め方: 既存統計資料の活用法、二 グラフの基本 グラフの	
ガラフの其木 ガラフの	
第3回   グラフの基本   グラフの	†資料の活用法と二次分析について学ぶ。
	D基本について学ぶ。
第4回 量的データとは何か:量的調査の 量的調査 プロセス、変数と尺度、調査票の	in プロセス、変数と尺度について学ぶ。調査票について説明する。
第5回 多様な分析の方向性(1):記述統 計と推測統計、仮説検証と探索	†と推測統計、仮説検証型の分析と探索型の分析について学ぶ。
第6回 多様な分析の方向性(2):仮説と 仮説と分 モデル構築	h析モデルについて学ぶ。
第7回 SPSSの基本的な操作法、度数分布 SPSSの基 表	基本的な操作法について説明する。度数分布表について学ぶ。
第8回 変数の加工、代表値とばらつき 変数の加	D工法について説明する。代表値とばらつきについて学ぶ。
第9回 2変数のクロス集計 2変数の	クロス集計について学ぶ。
第10回 関連性を表す統計量:関連性とは 関連性を 何か、相関係数	を表す統計量について学ぶ。
第11回 3変数のクロス集計:関連と因果、3変数の 擬似相関、エラボレーション	クロス集計について学ぶ。
	<b>住定と統計的検定について学ぶ。</b>
第13回 独立性の検定と比率の差の検定 独立性の	D検定と比率の差の検定について学ぶ。
第14回 平均の差の推定と検定: t検定とF 平均のを 検定	差の推定と検定について学ぶ。
第15回 まとめ 授業全体	本のまとめをおこなう。
	担当者から一言
	15コロルシーロ

講義名	量的デー	夕解析論								
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義	担当教員	岡本	裕介
ナンバリング番号	230\$0020	7,3358003	311							

人文学系・社会科学系の研究においても、多変量解析を用いてデータ分析することが多い。この講義では、その中から主として重回帰分析、因子分析、数量化理論I・III類を取り上げる。

### 到達目標

- (1)各手法の基本的な考え方を身に着けること(これが主たる目的)。 (2)計算の概要、統計パッケージの出力の見方を理解し、各手法の誤用を避けられるようになること。 (3)研究事例や歴史を紐解いて、具体的な問題意識との関連を考えられるようになること。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	演習問題を解いて提出する。多変量解析の場合、分析者の裁量の余地があるので、正解は1つではないが、基本的な注意事項をふまえて解答しているかどうかを評価基準とする。
上記以外		

#### 授業外学習

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

授業中にプリントを配布する。講義中に随時推薦する。

### 前提学力等

統計学基礎、量的データ解析論が既習であることが望ましい。この条件を満たさず受講を希望する場合は必ず事前に相談すること。

講義名	量的デー	夕解析論								
講義コード	1403110	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義	担当教員	岡本	裕介
ナンバリング番号	230S0C20	7,3358003	311							

	授業計画									
回数	タイトル	概要								
第1回	イントロダクション	多変量解析とは、表計算ソフトと統計パッケージの利用、その注意点								
第2回	重回帰分析(1)	重回帰分析とは、研究事例、説明変数選択の方法、多重共線性の問題								
第3回	重回帰分析(2)	独立変数にカテゴリーデータを使う場合、数量化理論 類								
第4回	重回帰分析(3)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ								
第5回	重回帰分析(4)	演習問題								
第6回	因子分析(1)	因子分析とは、歴史、研究事例、主成分分析、共通性と独自得点								
第7回	因子分析(2)	因子抽出、回転の諸方法、不適解								
第8回	因子分析(3)	因子得点の推定、尺度値								
第9回	因子分析(4)	統計パッケージの出力、使用時の注意点、報告書に書くべきデータ								
第10回	因子分析(5)	演習問題								
第11回	林の数量化理論	数量化理論とは、種類、研究事例、他のカテゴリカル・データ分析法								
第12回	数量化理論III類(1)	数量化理論川類とは								
第13回	数量化理論III類(2)	統計パッケージの出力、主成分分析による出力との比較								
第14回	数量化理論III類(3)	演習問題								
第15回	総合演習問題	復習と演習問題								
		担当者から一言								

講義名	臨床心理	学						- 10.17.46.5		
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY30	7								

1.77	SH	4nT	-
	業		

臨床心理学	とは、心	)理学的统	印見をも	とにして	対人援助	実践をお	こないつ	つ、同時に	、その過	程をより	りよいもの	りにするた	めに研究を	おこなっ	ていくも
のである。	この授業	<b>美では、</b> 種	種々の精	神障害や	>、発達障	害などに	ついての	知識や、現	!代におい	1て主流と	こなってい	1るいくこ	かの治療理	論・技法	について
の知見を概	[観しつ:	つ、心理学	学的に人	を援助す	るとはど	のような	ことなの	か論じる。	実際の授	く業では、	講師から	5受講生^	、の一方向的	なレクチ	ャーにと
どまらず、	仮想的な	は事例や、	映像教	材をもと	:にした受	講者同士	のディス	カッション	゚やワーク	を多くと	こりいれる	る。そのこ	とによって	、知的に	理解にと
どまらず、	実感をな	ともなって	て心理学に	的に人を	接助する	ことを考	えられる	ようにする	。受講生	諸君の種	責極的な参	参加を期待	している。		

### 到達目標

臨床心理学における基礎的用語を理解し、用いることができる。 臨床心理学的対人援助についての自分なりの方針をたてることができる。

		成績評価
種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	普段の授業における発表、レフレクションシートへの記入(50%)、最終レポート(50%)について総合的に判断 して評価する。

# 授業外学習

5 - 6回のビデオや教材を用いた自主学習の結果をまとめたレポート。

	教科書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

	参考書									
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN						
1										
2										
3										

### 前提学力等

特になし。ただし、心理学分野で卒業論文を書こうとしている学生は履修することが望ましい。

講義名	臨床心理	<del>"</del>								
講義コード	1403190	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	松嶋	秀明
ナンバリング番号	335PSY30	7								

		授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	本講義でねらいとする点について概説する
第2回	心理相談をする前に	個別の心理相談の前提となる、倫理や、相談の枠組みなどについて事例をもとにディスカッションし つつ、概説する。
第3回	人の話を聴く基本	カウンセリングの基本である傾聴技法について概説する。
第4回	来談者中心療法	傾聴技法のもとになっている「来談者中心療法」を、創始者であるカールロジャースのセッションの   記録映像を視聴しつつ概説する。
第5回	不安障害、うつ病の心理学	不安障害、うつ病といった症状の病理について、仮想事例とともに学ぶ
第6回	認知行動療法	不安障害、うつ病を例にとりながら、認知行動療法の書技法、概念について学ぶ
第7回	パーソナリティ障害の心理学	パーソナリティ障害の病理について学ぶ
第8回	精神分析学	パーソナリティ障害の事例を参考にしつつ、精神分析によって人のこころがどのようにモデル化され うるか学ぶ
第9回	神経発達障害の心理学	自閉症、ADHDといった障害について学ぶ
第10回	行動療法	自閉症、ADHDといった症状や、あるいは不安障害などを例にとりながら、それへの対処法としての行動療法について学ぶ
第11回	統合失調症の心理学	統合失調症の病理について学びつつ、異常という概念、診断という行為の持つ意味についても学ぶ
第12回	家族療法	統合失調症をはじめとした事例をもとに、家族療法の最新の展開であるナラティブセラピーや、オープンダイアローグ、そして古典的なシステム理論について学ぶ
第13回	心理アセスメントとケースフォー ミュレーション	これまでの病理とセラピーについての学びをもとにして、実際の事例に即してどのように心理的問題 をみたて、対処について考えていくのかを学ぶ
第14回	スクールカウンセリング	臨床心理学の適用先である学校臨床について学ぶなかで、あらためて臨床心理学の基礎知識について 学ぶ
第15回	まとめ	これまで学んできた知識を体系づけるために、心理学の歴史についてふれながらまとめを行う。
		担当者から一言

講義名	教育課程	論								
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	木村 	裕
ナンバリング番号	304TEA20	4,335EDU3	305							

				授業概要					
教育	課程の歴史的学校に基礎を	展開、教育 署く教育調	『課程の構造、教育課程の 課程開発,を行うために必	評価と改善のあり方などについて、 等となる基礎的な知識や技能を習得	文献や映像資料などを用いなが	ら講義する。講義を通して .ハとする			
`	子仅に坐旋と	且、我日时	(注)が充って() クにのにえ	女になる全旋りな知識 「汉形で日」	<b>サップスと近尺するここと1851</b>	, ic			
				到達目標					
「学	校に基礎を置	く教育課程	開発」を行うために必要	となる基礎的な知識や技能を習得る	すること。				
				成績評価					
	種別	割合(%)	評価基準等						
7	定期試験								
			まとめのレポート						
レ	ポート課題	50							
	1 *7 5 1 61		┃ ┃講義中に提出するワーク						
	上記以外	50	11332   12322   7	, , ,					
				授業外学習					
No		書	 籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN			
1									
2									
3									
数が	     連け体田サギ	海宁 必	 必要なプリント等を配布す	 -a					
<i>¥</i> X <b>1</b> <sup>2</sup>	画は区内に9	、旭旦、火	y女はノソノド守を配作 9 						
No		<b>*</b>		参考書 著者名	出版社	ISBN/ISSN			
No			19 년	有日口	ЩЛХŤ	ווספד /ווטפד			
1									
2									
3	3								
適宜、講義中に紹介する。									
	前提学力等								
	履修資格								

講義名	教育課程	論								
講義コード	1600251	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義	担当教員	木村	裕
ナンバリング番号	304TEA20	305								

	<u> </u>	授業計画
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要の説明を行う。
第2回	学習指導要領の概要とその意義	学習指導要領の概要とその意義について講義する。
第3回	教育課程編成の基盤	教育課程を編成する際にふまえるべき要件について講義する。
第4回	教育課程の歴史	江戸時代から終戦までの教育課程の歴史について講義するとともに、それをふまえて、現在の学校教育が有する特徴についての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第5回	教育課程の構造	教育課程の構造に関する議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための 機会を提供する。
第6回	教育課程の歴史	戦後の教育課程の歴史について、特に、1940年代から1960年代までの学習指導要領をめぐる議論に焦点をあてて、その概要を把握するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を
第7回	教育課程の歴史	戦後の教育課程の歴史について、特に、1970年代から現在までの学習指導要領をめぐる議論に焦点を   あてて、その概要を把握するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供
第8回	近年の教育改革の動向	主に学習指導要領をめぐる議論(教育内容および教育方法に関するものを含む)に焦点をあてて近年 の教育改革の動向について講義するとともに、その特徴や関連する議論についての一人ひとりの考え
第9回	教育課程の評価と改善	教育課程の評価と改善をめぐる近年の議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第10回	特別なニーズを持つ子どものため の教育課程編成	特別なニーズを持つ子どものための教育課程編成に関する議論を紹介するとともに、それについての 一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第11回	今日的課題への挑戦	貧困や格差、環境破壊など、今日的な課題に焦点をあてて展開されてきた教育活動を取り上げ、その 背景や意義、それをめぐる議論などについて講義する。
第12回	今日的課題への挑戦	「持続可能な開発のための教育(ESD)」に焦点をあてて、その重要性や取り組みの方向性についての議論を紹介するとともに、それについての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第13回	今後の教育課程のあり方について 考える	これまでの講義内容をふまえて、今後求められる教育課程のあり方に関する各自の意見を持ち寄り、 検討しあうことによって、互いの考えを深めるための機会を提供する。
第14回	カリキュラム・マネジメント	カリキュラム・マネジメントの重要性や取り組みの方向性についての議論を紹介するとともに、それ についての一人ひとりの考えを深めるための機会を提供する。
第15回	まとめと講義全体のふりかえり	まとめと講義全体のふりかえりを行う。
		担当者から一言

	講義名	道徳教育	論										
請	議コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	福井	雅英		
ナン	バリング番号	304TEA20	5,335EDU30	06	·		•						
							授業概	要					
わが国の道徳教育実践の歴史を振り返りながら、そこで深められた理論的、実践的な問題を究明する。およその概要としては、戦前日本の道徳教育、戦後初期の道徳教育民主化の動向、憲法・教育基本法下の道徳教育のありかた、道徳の概念、道徳性の概念と道徳性の発達過程、道徳の授業実践などについて、考える。													
							지나는 드	+==					
道徳	 教育の目標・	方法につい	て理解をは	まかり	ながら、扌	指導力量を	<u>到達目</u> E形成する。	倧					
							成績評	価					
	種別	割合(%)	評価基準	等									
5	定期試験												
レ	ポート課題												
	上記以外												
毎回	の授業感想及	びレポート	・によって行	<b>すう。</b>	5 回以上久	欠席したら	ら評価の対象	としない	o				
							授業外	学習					
1					ı		教科	<b>性</b>			1. 11-1	1	
No 1	書籍名						著者名			Ė	出版社		ISBN/ISSN
2													
3													
N		<del></del>	± 47		-		参考	曹			ᄔᄺᄼᅪ	T	LODN/LOOM
No	No 書籍名						著者名		Ī	L	出版社		ISBN/ISSN

講義名	道徳教育	論								
講義コード	1600390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義	担当教員	福井	雅英
ナンバリング番号	304TEA20	306								

授業計画									
回数	タイトル	概要							
第1回	オリエンテーション / 戦前公教育 における道徳教育 - 「教育勅語」	各回の内容やスケジュールについては初回講義時に説明する。							
		セスキャン テ							
		担当者から一言							